

萩尾望都

Hagio, moto

5月12日、福岡県大牟田市に生まれる。
別冊少女コミック連載の
「ボーの一族」シリーズで
爆発的人気を博して今日に至る。
1976年小学館漫画賞受賞。
名作「11人いる」(「スター・レッド」のほかに)
最新作に「残酷な神が支配する」などがある。

カバーイラスト——萩尾望都
カバーデザイン——鈴木成一デザイン室



小学館文庫
16

萩尾望都
Hagio, moto



トーマの心臓

萩尾望都

●
小学館文庫
はA-3
¥675



トーマの心臓

萩尾望都

小学館文庫
はA-3
¥676



9784091910134



1920179006766

ISBN4-09-191013-0

C0179 ¥676E

定価： 本体676円 + 税

トーマの心臓

冬の終わりのその朝、1人の少年が死んだ。トーマ・ヴェルナー。そして、ユーリに残された1通の手紙。「これがぼくの愛、これがぼくの心臓の音」。信仰の暗い淵でもがくユーリ、父とユーリへの想いを秘めるオスカー、トーマに生き写しの転人生エーリク……。透明な季節を過ごすギムナジウムの少年たちに投げかけられた愛と試練と恩寵。今もお光彩を放ち続ける萩尾望都初期の大傑作。

小学館文庫 萩尾望都 作品

11人いる!	全1巻
スター・レッド	全1巻
トーマの心臓	全1巻
訪問者	全1巻
11月のギムナジウム	全1巻
ゴールデンライラック	全1巻
半神	全1巻
とっつもしあわせモトちゃん	全1巻
恐るべき子どもたち	全1巻
ウは宇宙船のウ	全1巻
ポーの一族	全3巻

トーマの心臓



萩尾望都

トーマの心臓

3

エッセイ 大原まり子

457

— ぼくは ほぼ半年のあいだずっと考え続けていた
ぼくの生と死と それからひとりの友人について —

その朝
トーマ・ヴェルナーは
郵便局で一通の
手紙を出した

まづかに春

雪は水音をたてて
くつの下でとけた







ぼくは、ほぼ半年のあいだずっと考え続けていた
ぼくの生と死と それからひとりの友人について

ぼくは成熟しただけの子どもだ、ということはじゅうぶんわかっているし
だから この少年の魂としての愛が
性もなく正体もわからないなにか透明なものへ向かって
飛びだされるのだということも知っている

これは単純なカケなぞじゃない
それから、ぼくが彼を愛したことが問題なのじゃない
彼がぼくを愛さねばならないのだ
どうしても

今、彼は死んでいるも同然だ
そして彼を生かすために
ぼくはぼくのからだを打ちくずれるのなんか、なんとも思わない

人は二度死ぬという、まず自己の死、そしてのち、友人に忘れ去られることの死

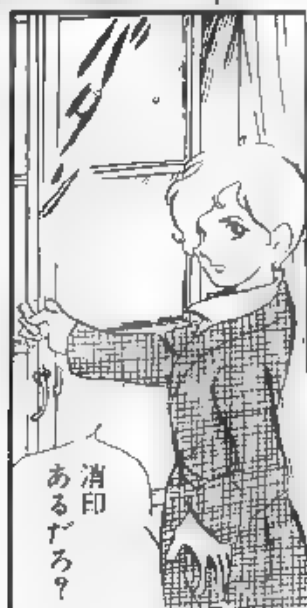
それなら永遠に
ぼくには二度めの死はないのだ（彼は死んでもぼくを忘れまい）
そうして
ぼくはずっと生きている
彼の目の上に

トーマの心臓











返事がほしいなんて書いてあったりしてさ……

代償は死か！

彼氏、自分がおとといに天国の門をくぐるなんて考えなかったろうにな



結局、トーマの最後の思考で最後のことはだ

だから読んでやらなけりや

彼……もういない



読むの？

いつもはやぶいてたじゃないか

もういない



トーマ・ヴェルナー一学年下のかわいい子

ユリスモール さいごに

あの子

陸橋から

死にじやった

落ちて

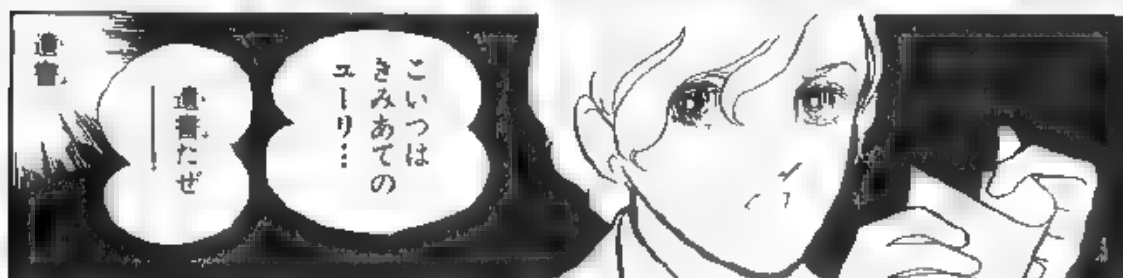
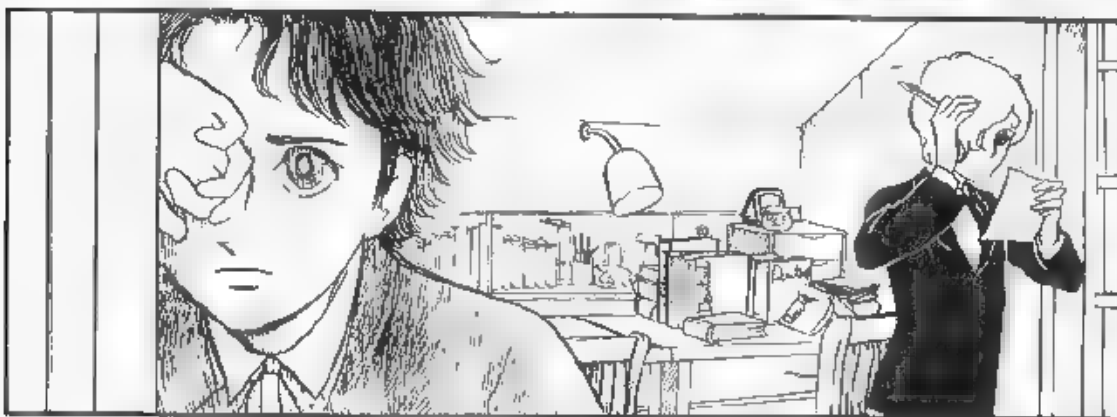
死んだ

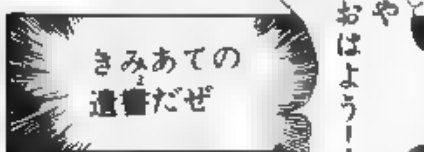
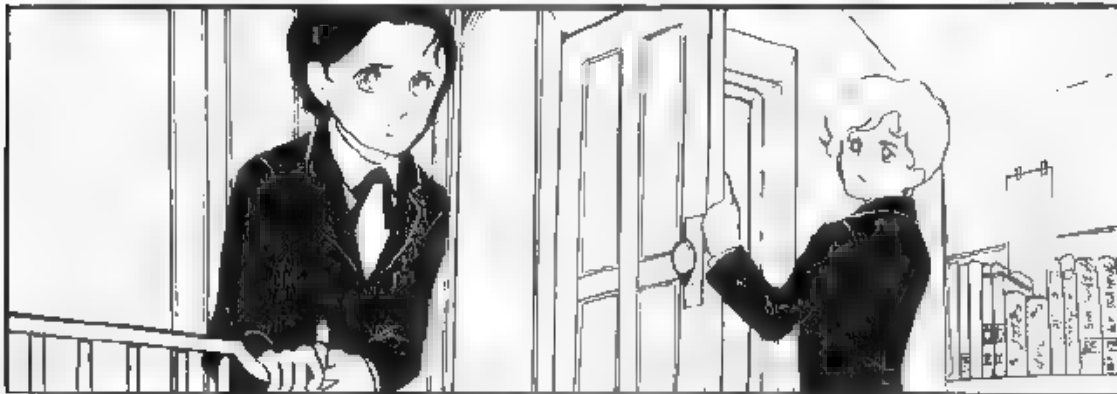
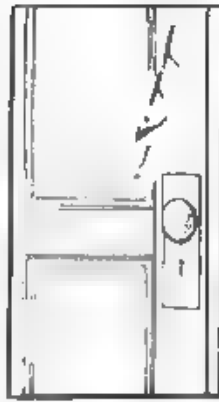


ユリスモールへ さいごに

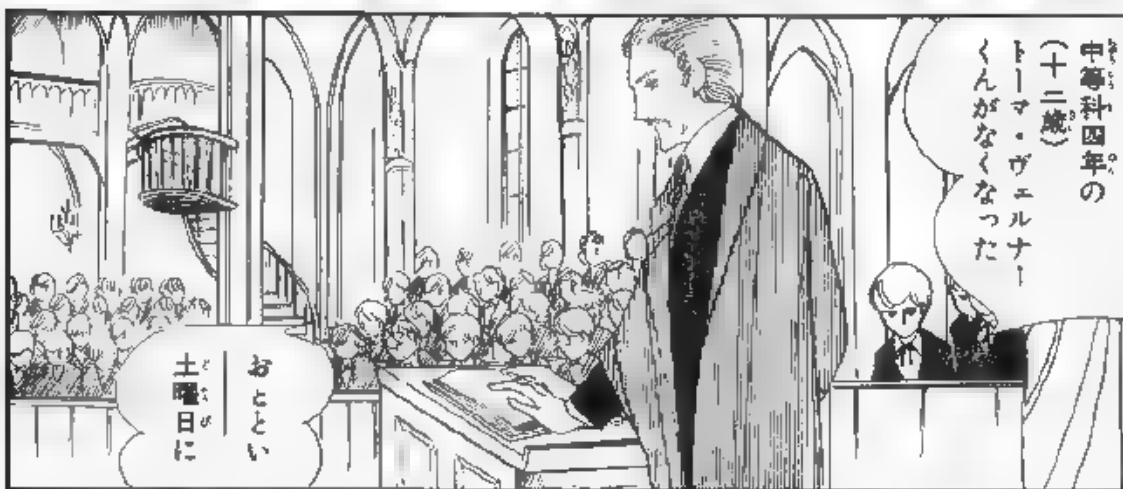


スモールへ さいごに
これがぼくの愛
これがぼくの心臓の音
きみにはわかって
いはす



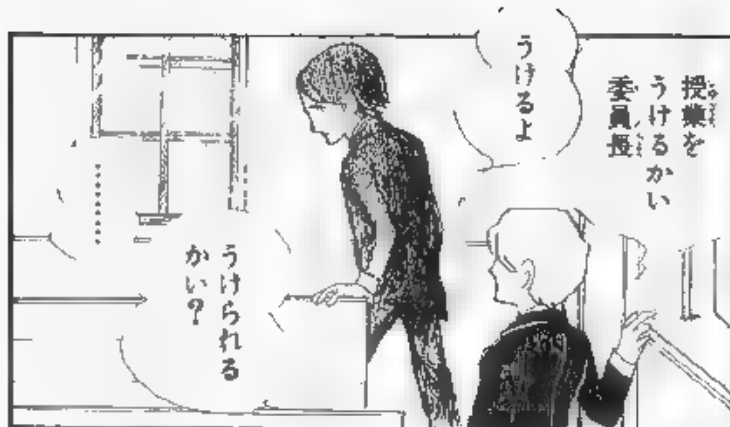


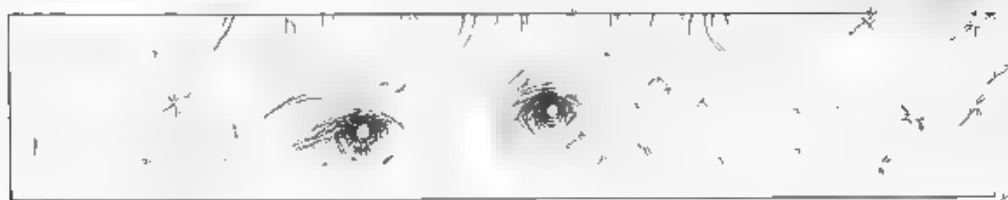












昨日の
お葬式の

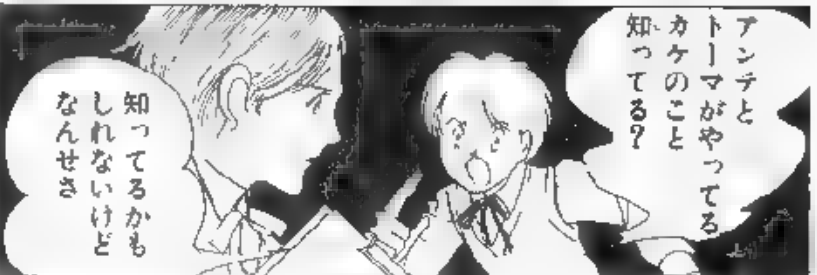
天気
だったね







学校中の生徒が
注目してんだぜ
きみがトーマに
まいるか否か――



アンテと
トーマがやってる
カケのこと
知ってる？

知ってるかも
しれないけど
なんせさ

Indes a l'été j'ai vu
M. de la rue des Fleurs
M. de la



だいたい
半年以上まえの
話だよ！
自殺の原因が
まさかあれじゃ
ないだろう



でも



ふったものにも
関係ないだろう
茶番劇にケリを
つけただけだ
ハカバカしい！
……



その最終シーンは
知らないな
ぼくはあとで
きみがこつびどく
みんなのまえで
トーマをふったって
ほかのやつから
聞いたんだ

きみは
読まずに
捨てたけど
ユリスモール
内容は
さっしてたん
じゃない？

どうして
死にいたるほど
愛せる？
せつたいに
かんたんな
ことじゃ
ない
トーマは
本気で
きみが好き
だったんだと
思うよ

それはほんとに
茶番劇だったろうさ
きみにとっても
みんなにとっても
アンテナに
とってもね
あのあと
トーマは
きみに
何通か
手紙を
よこしたろう

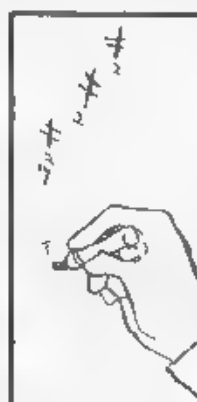
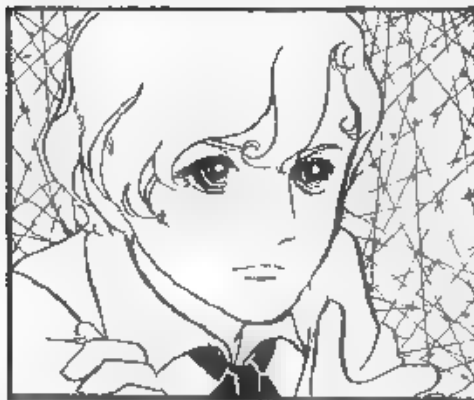
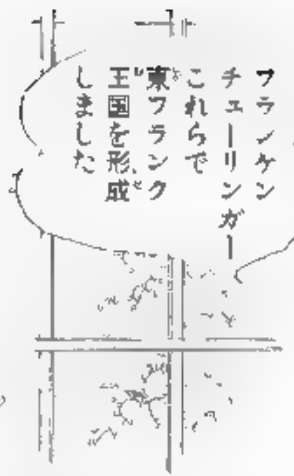
これがぼくの
心臓の音
きみには
わかつているはず
わかんない
ユリスモール
これが
ぼく
の愛

ユリスモール

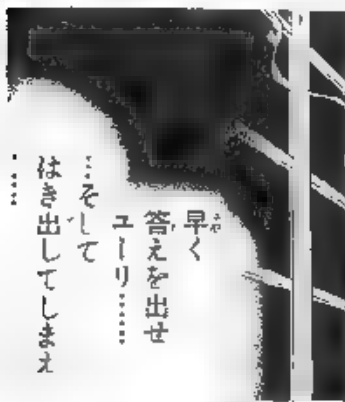
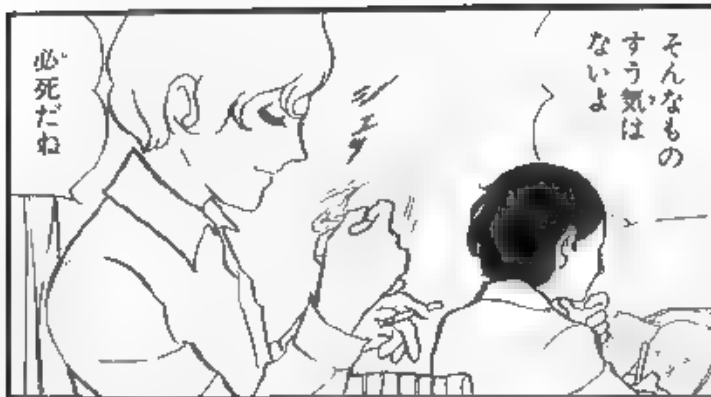
ま...
だから
どうしろっ
てわけ
じゃない

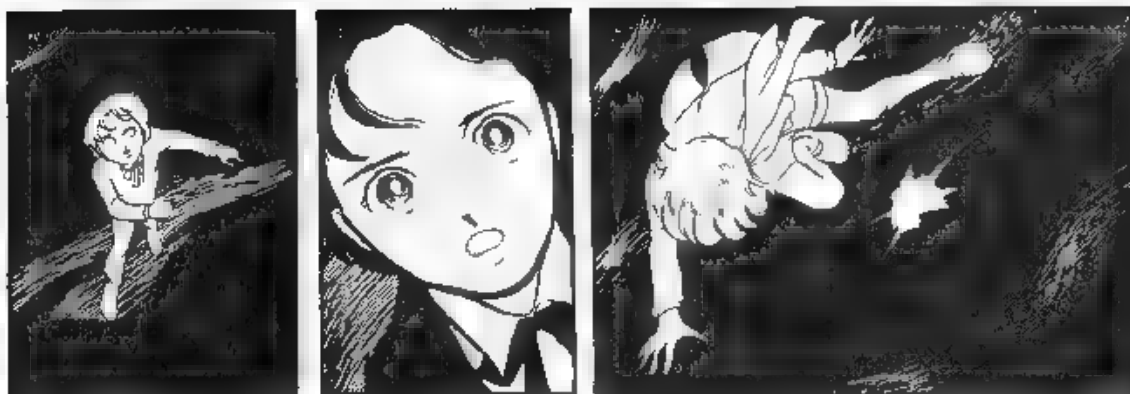
彼のために
すこし
泣いてやっ
て

忘れらん
だね
あとは

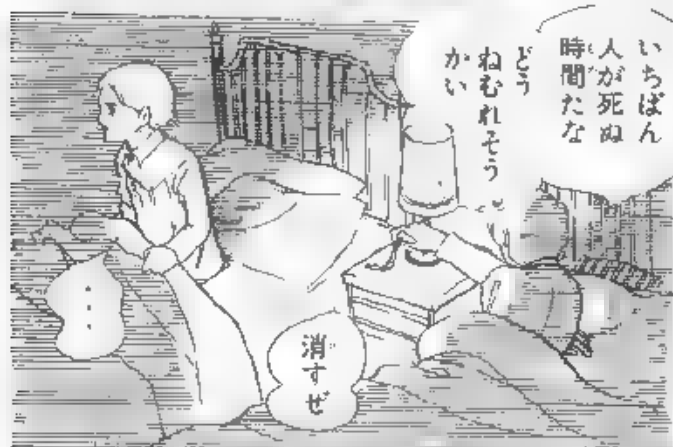


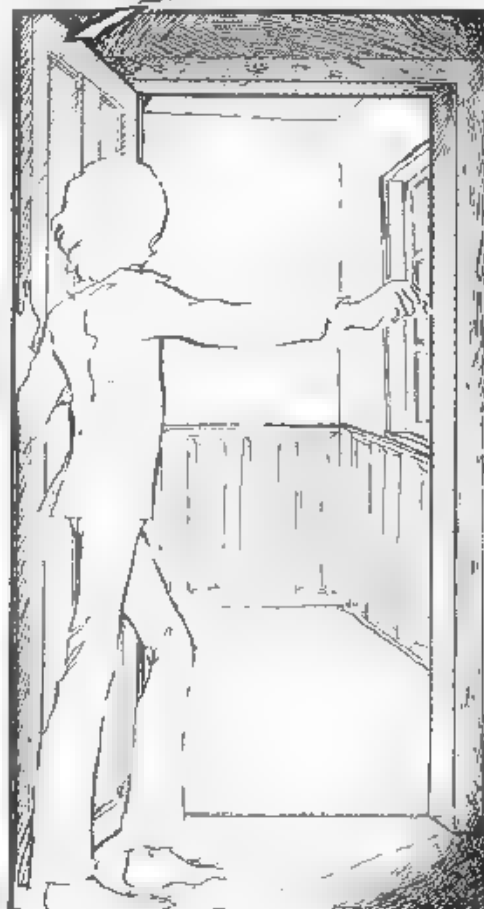
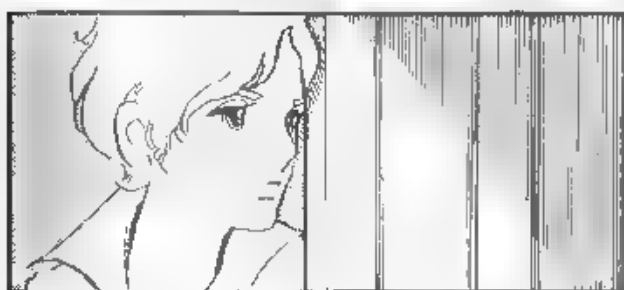


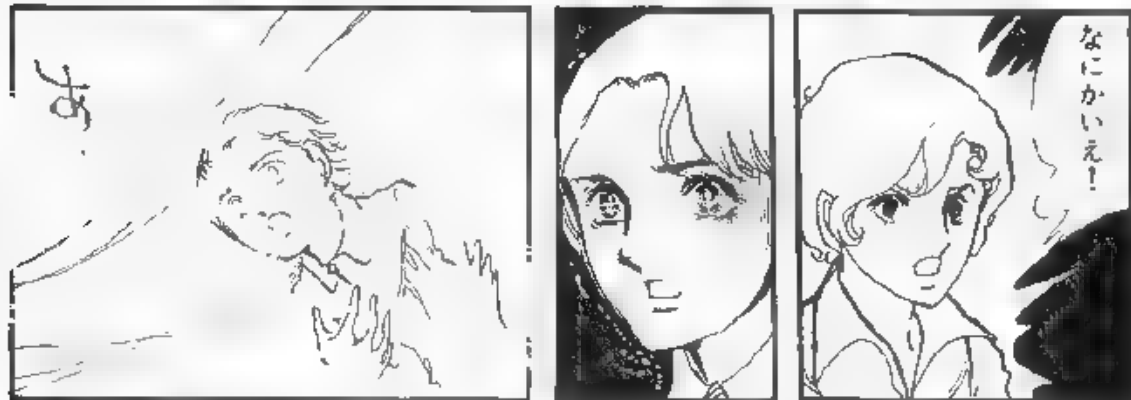


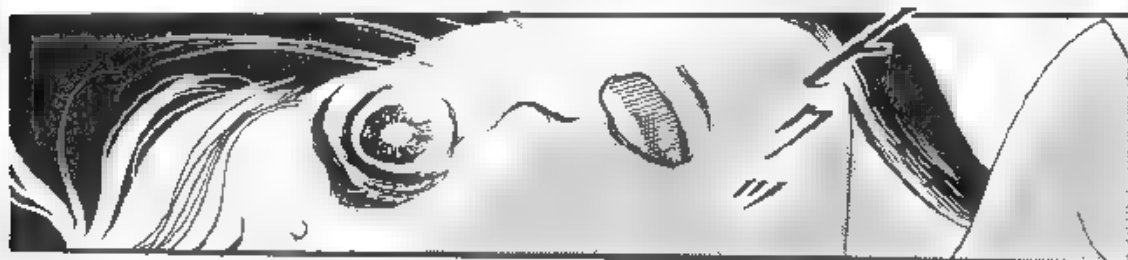


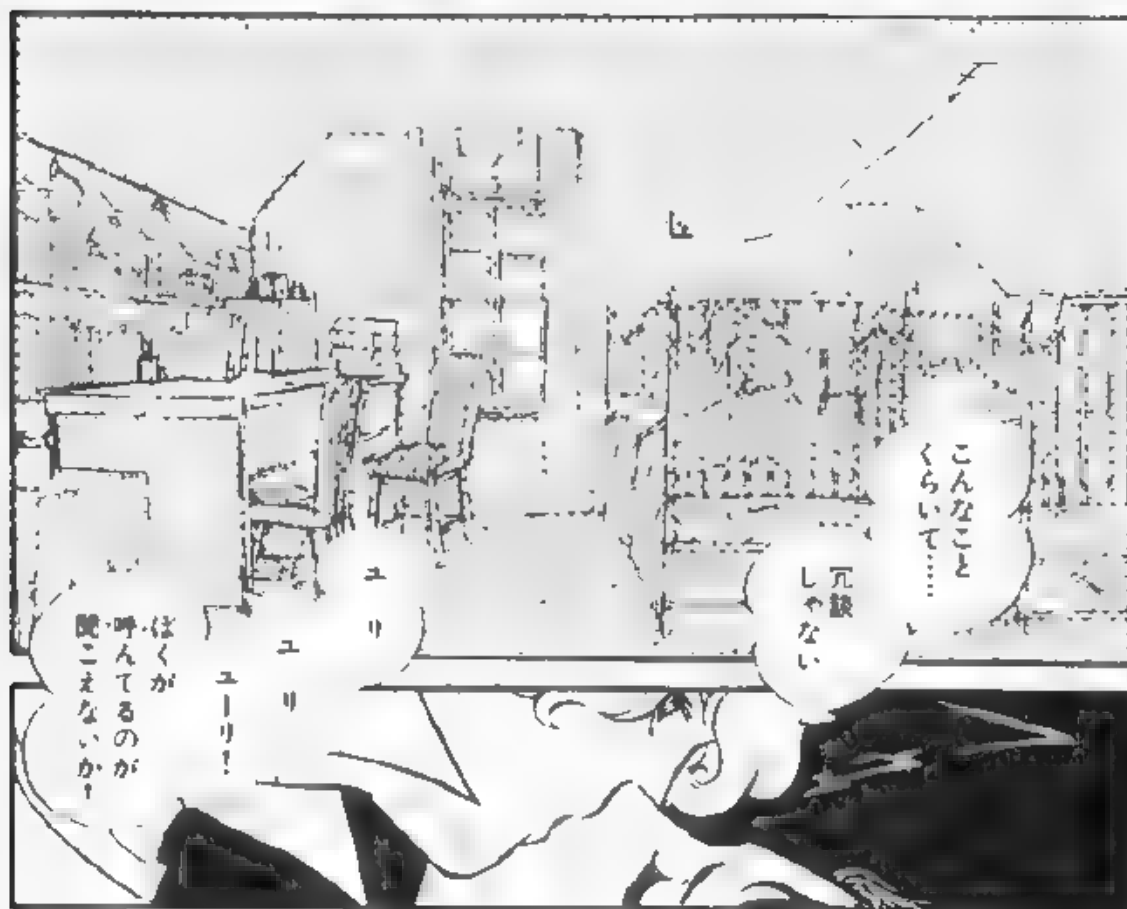
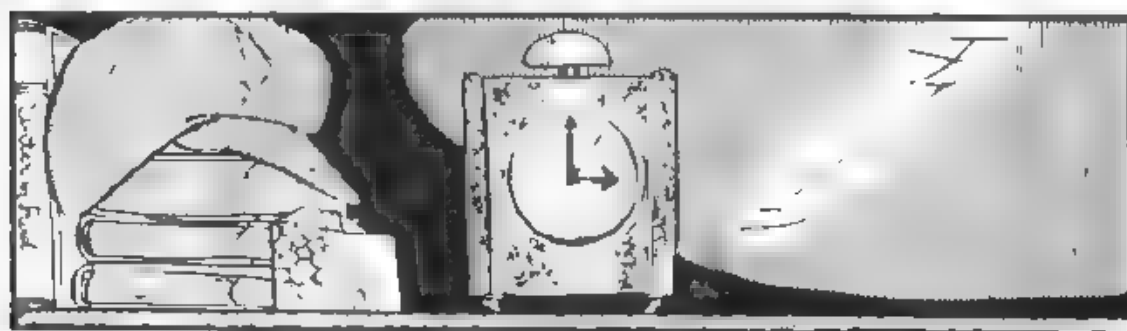




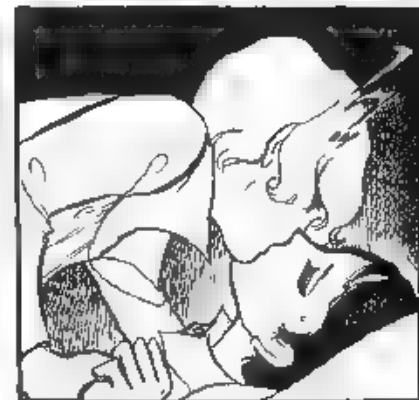




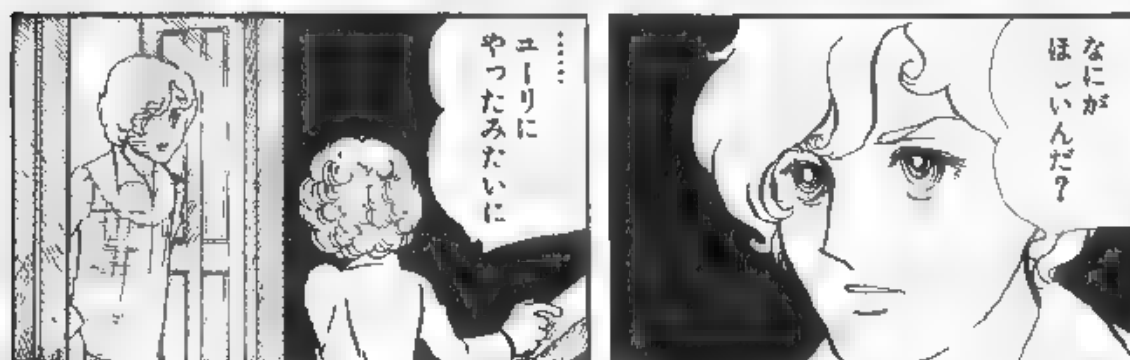
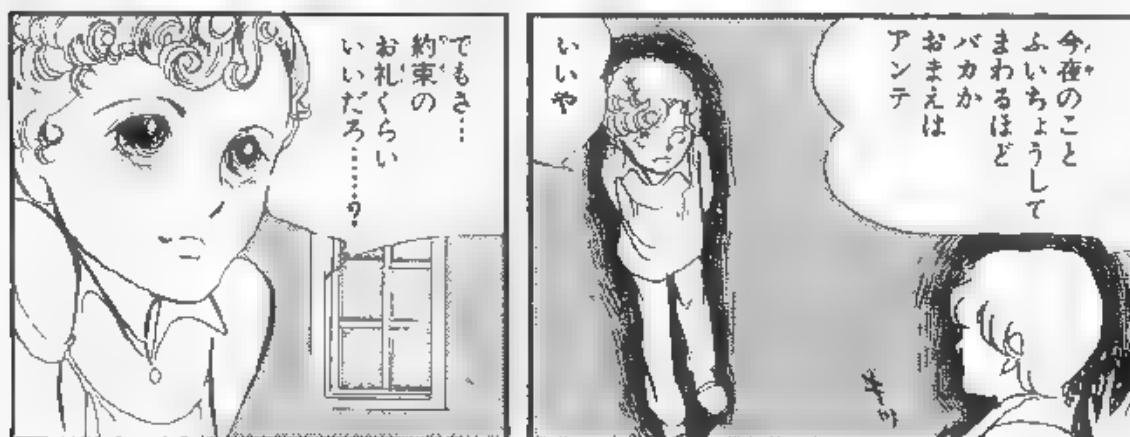


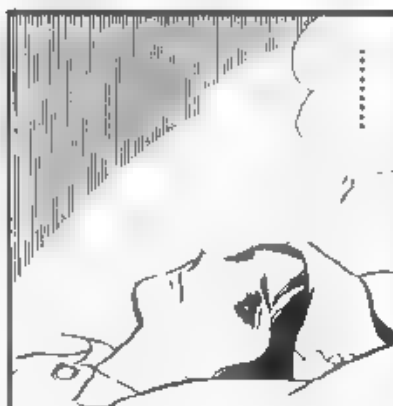
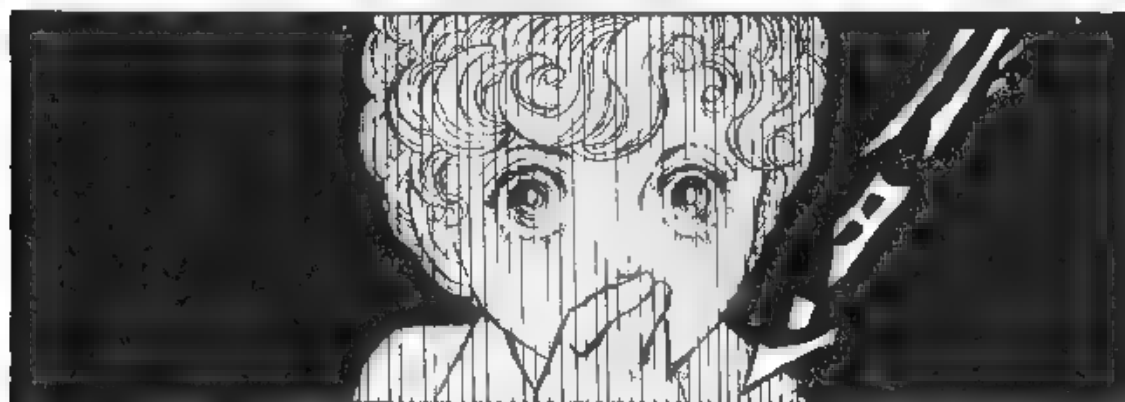










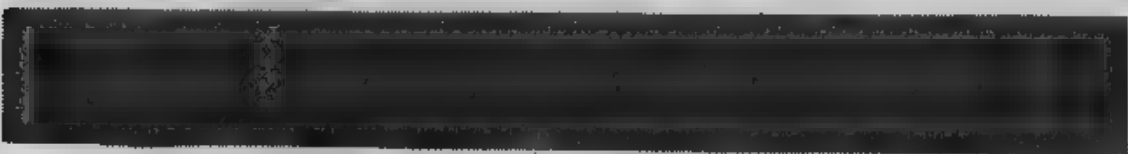
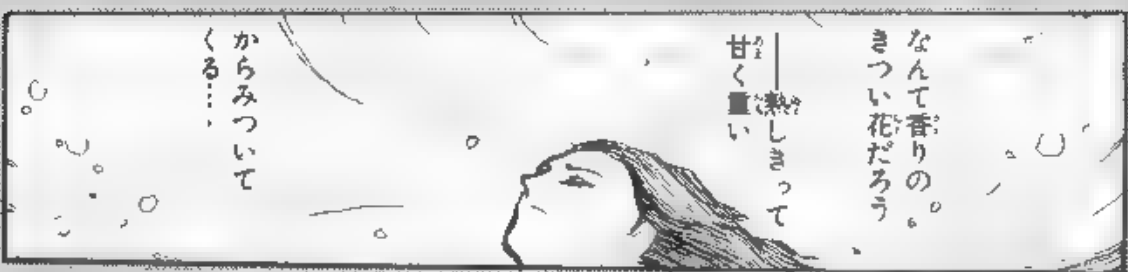




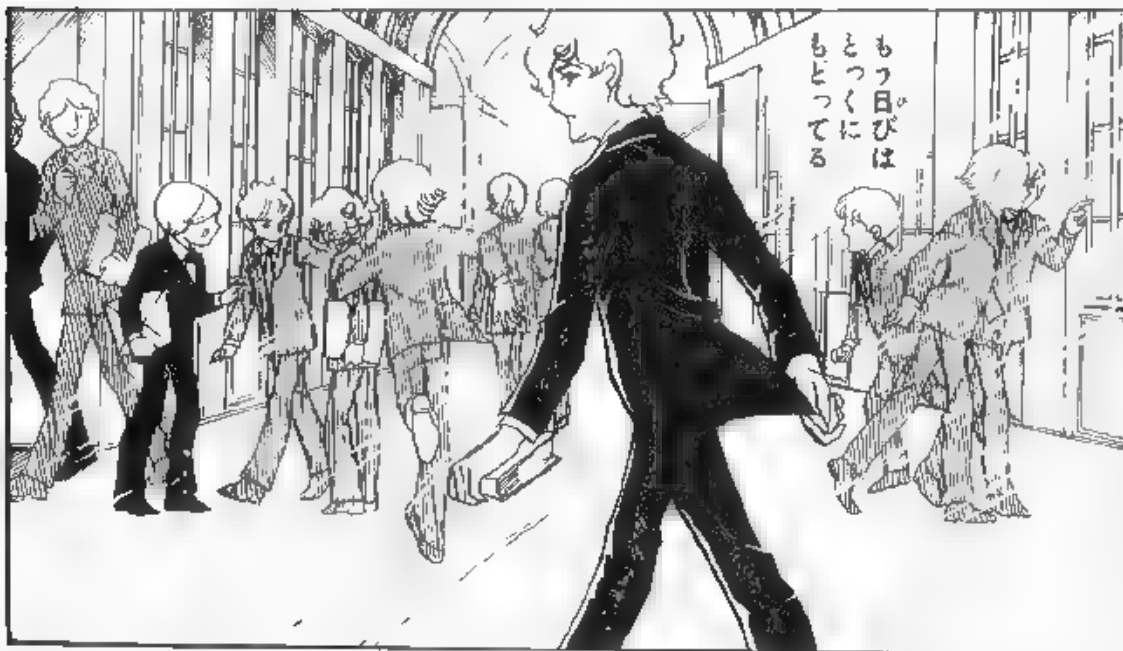
アルコール……ル・バネ



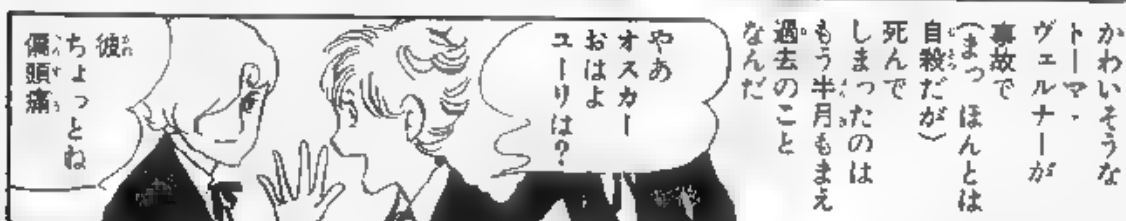
……コニヤツク……







もう日は
とつくに
もどつて



彼、
ちよつとね
偏頭痛

やあ
オスカー
おはよ
ユーリは？

かわいそうな
トーマ・
ヴェルナーが
事故で
(まっほんとは
自殺だが)
死んで
しまったのは
もう半月もまえ
過去のこと
なんだ

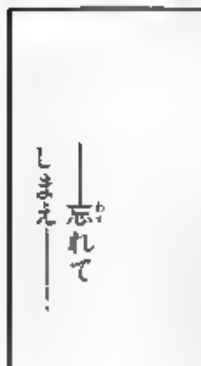


あんなに
にんき者だった
トーマ・
ヴェルナーが
いなくなつた
ことを

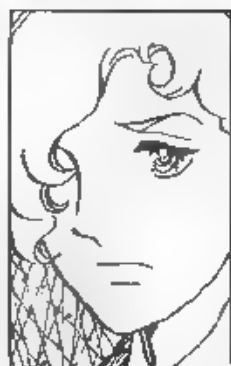
アンテ・ローエは
トーマのかわりに
上級生の
お茶会に
招かれたし



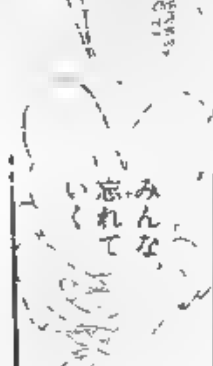
今じゃ
ときおり
口のはに
のほる
ていど



——忘れて
しまえ——



……だから
ユーリも



みんな、
忘れて
いく





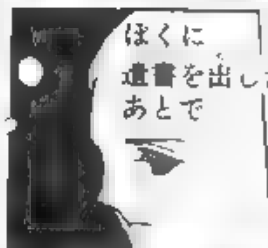
考えていたよ
トーマ

きみに
死なれたのち
きみのことばかり
きみのことばかり

あの朝晩んだ
手紙の文字が
頭の中で
ひびくんだ



この高い壁から
とびおりたのだ
ぼくの腕を
めがけて—

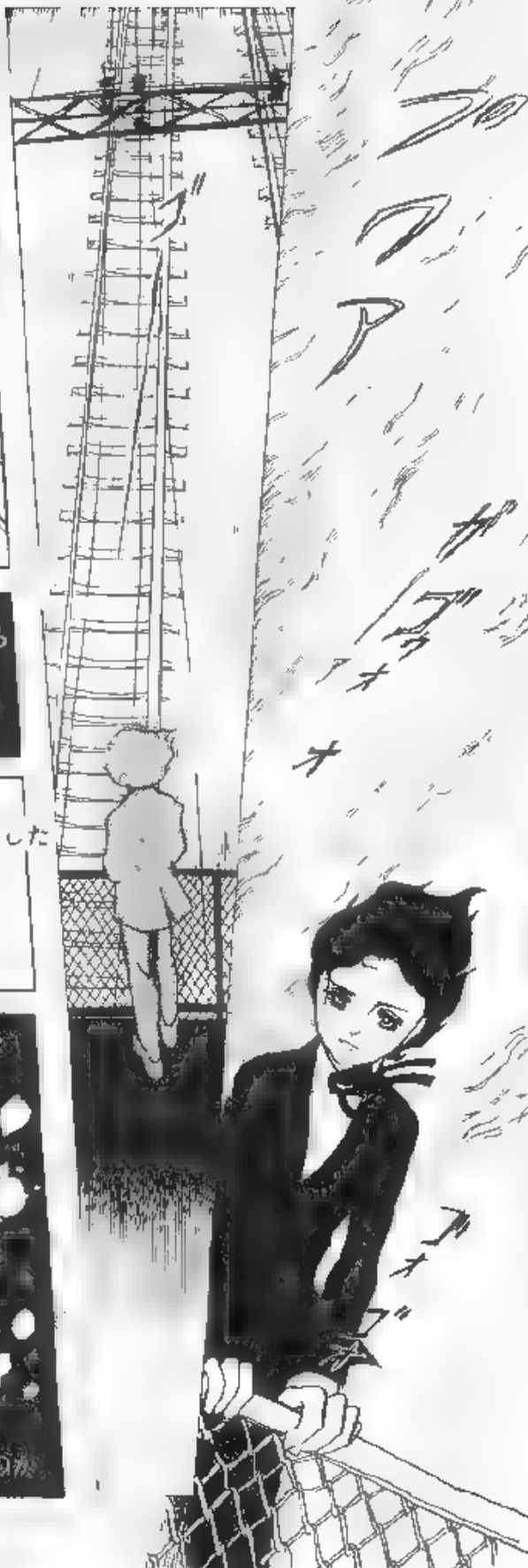


ぼくに
遺書を出した
あとで



どうして ぼくは
とうすれば
いいのだから?

彼のあとを
追えども 彼の





静かな道だ

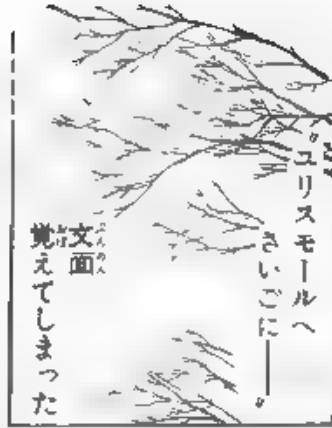


心臓の音



これがぼくの心臓の音

これがぼくの愛



文面覚えてしまった

ユリスモールへ
さいごに――

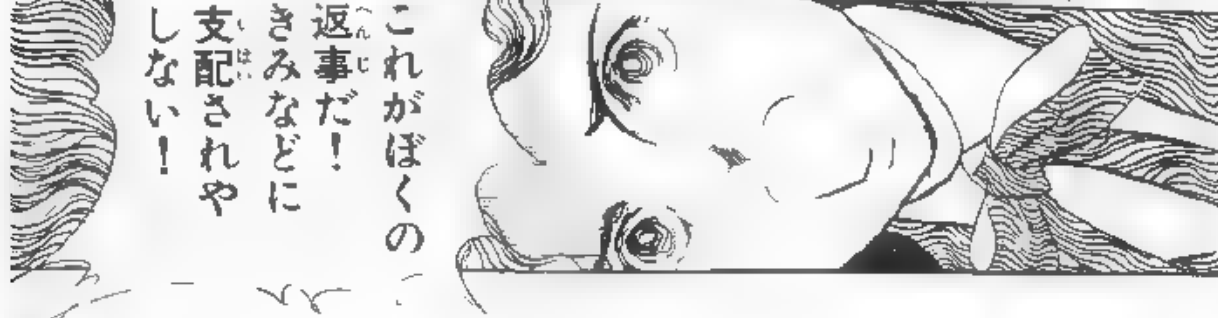


遺書を――



手紙を
ありがとう

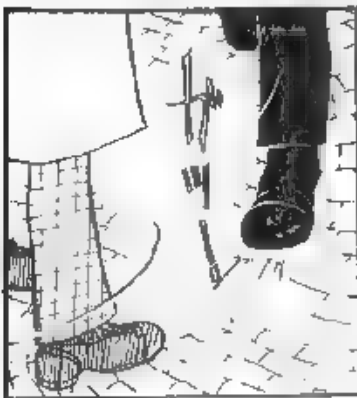
ぼくだ――



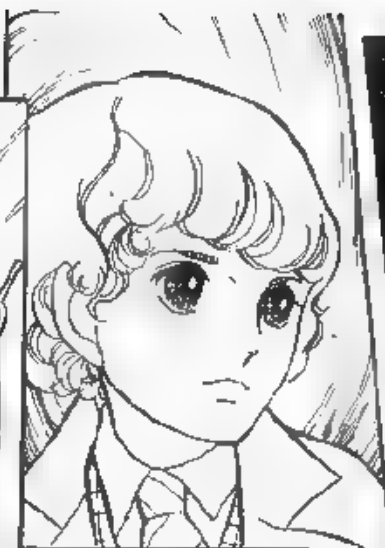
これがぼくの返事だ！
きみなどに支配されやしない！











知らないね！
すくなくとも
ぼくの名まえ
じゃない
それがどうした？

……トーマ・
ヴェルナーを
知ってるか



まるで
ないさ

へえ そう
ぼくにどんな
関係がある？



自殺した子だ



へっ
バカバカしい！

やたら顔が
そっくりだって
いう以外にはね



ユーリ？
へんなやつ！

なんだ？
あの目は……強引な
いきなり
呼びとめて
質問せめ

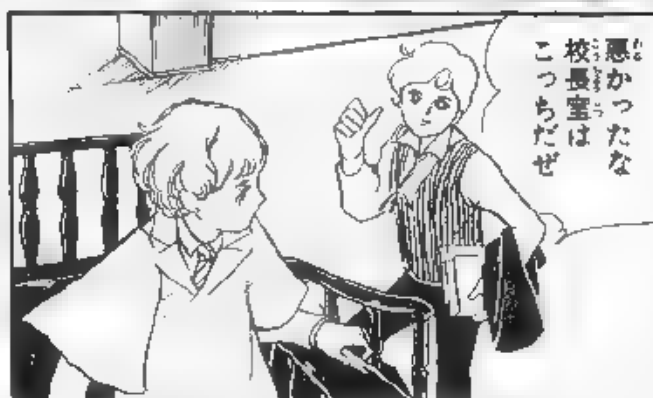
どだい
七月なんて
名まえのやつに
ろくなやつ
いないんだ

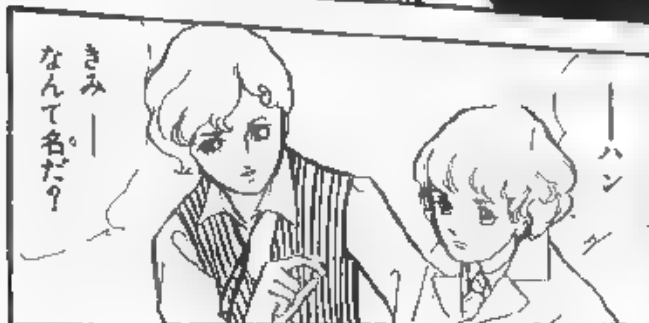
気に入ら
ない

気に入ら
ないわ
親父づら
して
ユーリ・シドめ
あのヒゲの
ニヤケ男め

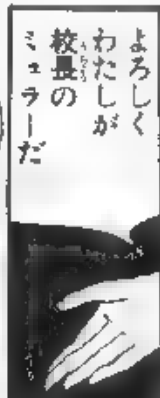
オーストリア
貴族の
末裔とか
ママ・マリエを
だまして

マリエも
マリエだ
恋人をとって
ひとり息子
を
こんな
いなかの
学校へ
おっぱって
後悔すんなよ
くそっ

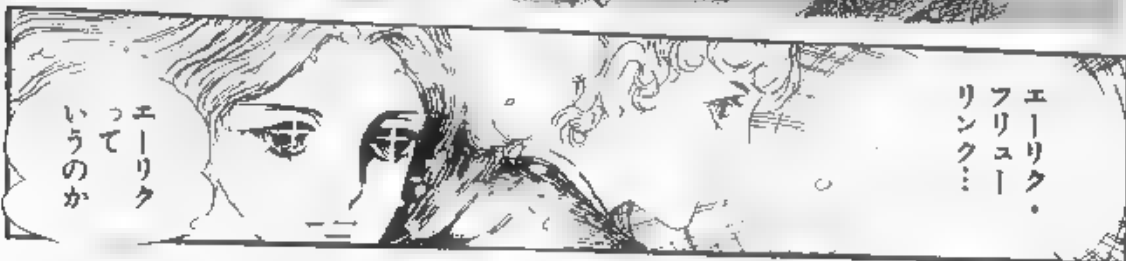
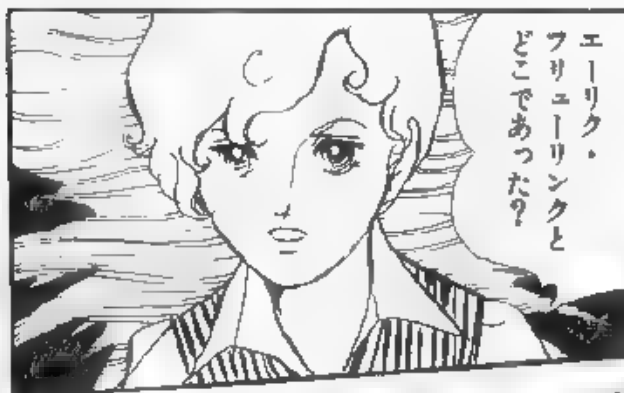


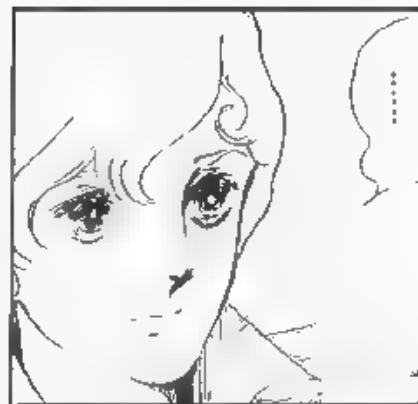


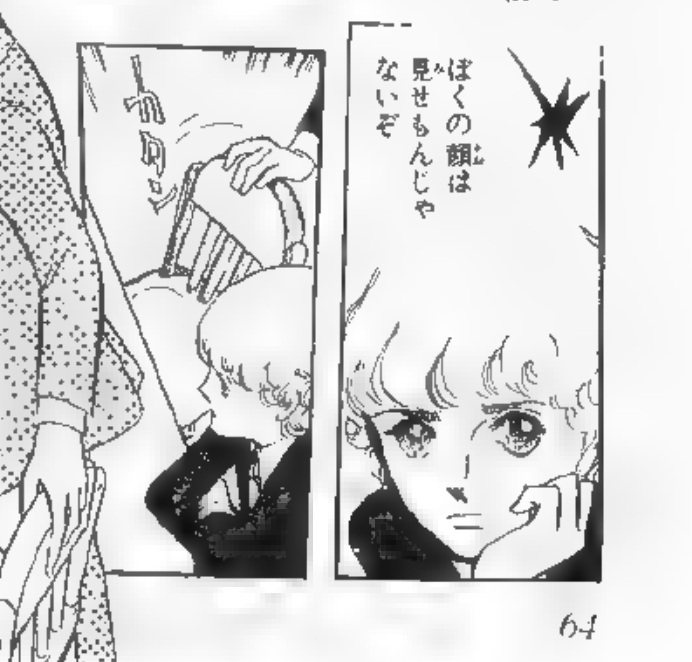








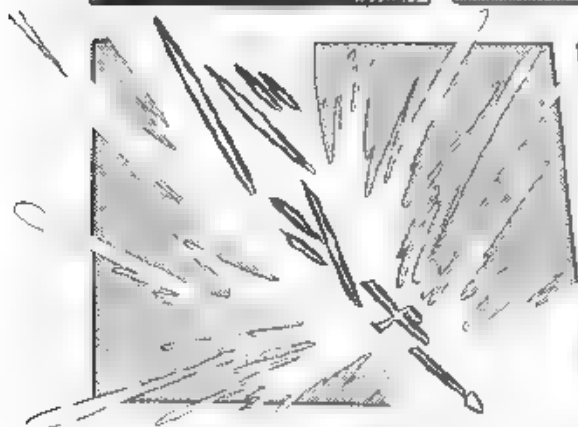


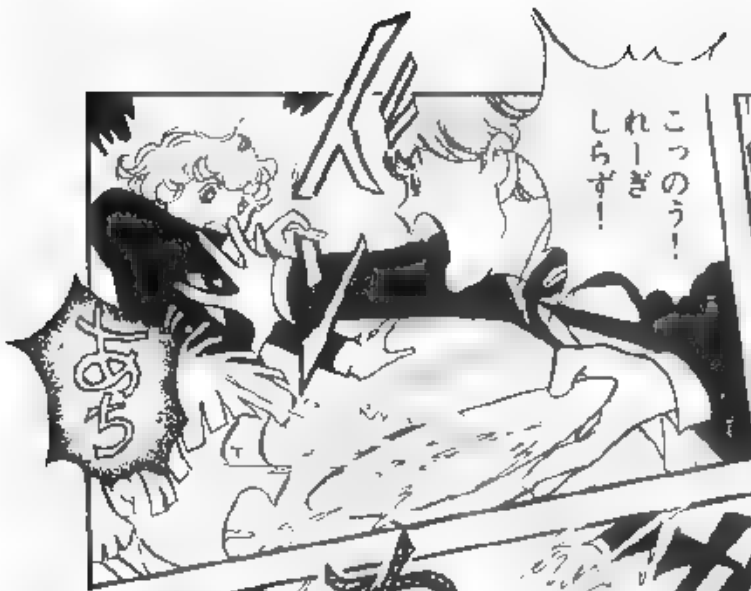








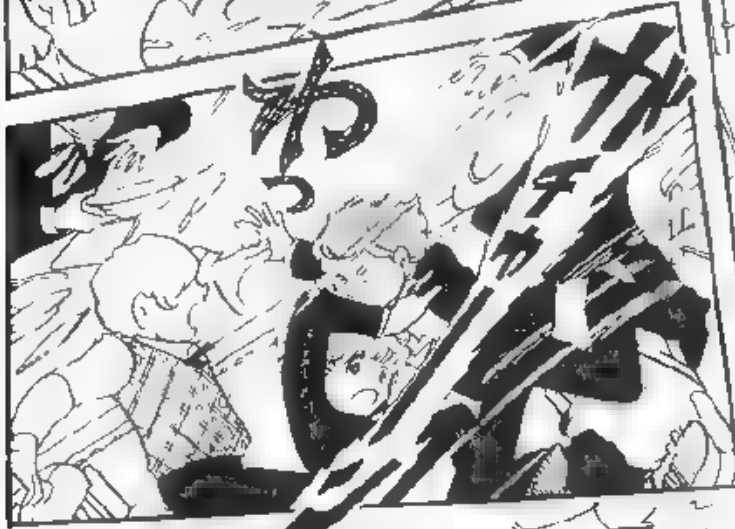




こっのう！
れーぎ
しらす！



エーリック
やめろ！



なんだ？

なんだって

けんかだ

近よるな

やったなっ

あぶない
ひっくりかえる

アレ



ほくじゃ
ないってば

やめてー

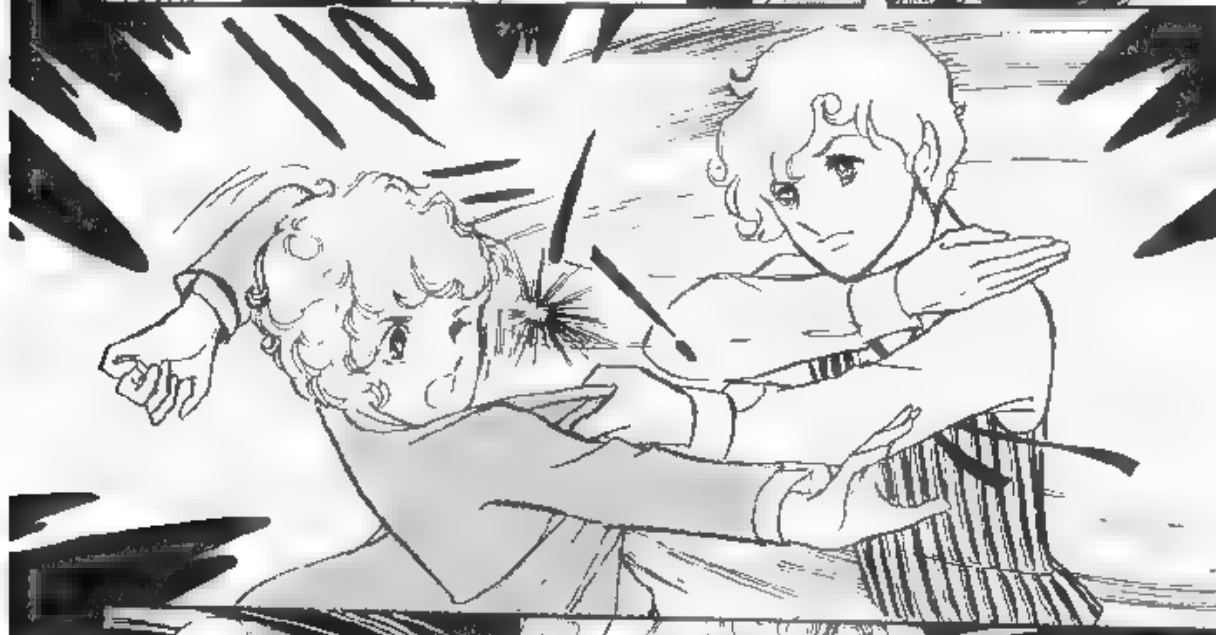
おろしたての
スーツ
どうして
くれるっ

あぜん

ギヤ

うんざや
うすか









五年まえ——
花ぐもりの空の下

小さい息子の
手を引いて
グスターフ・ライザー氏は
この
シュロッターベッツを
防れてきか——

一年と半年ほど
まえに妻が
なくなつてね

それは
知つていた

グスターフは
わたしの
大学時代の
旧友で——

あの青春のころには
美しいヘレーネを
競いあつた
ものだった

そして
ヘレーネは
グスターフと
結婚した





わたしはひとり
で学問の道を
すすむ

ここまで
きた
シュロッターベツ
五代めの校長――



どういおう
彼がわたしの
息子だと

いつからうう？
わたしは
ヘレーネを愛し
だから
さみが
生まれたと



美しいヘレー
白い鳥のようなヘレー

まったく
みこみが
ないという
わけでも
ないの



ライザー夫妻には
長いあいだ子どもが
できなかった

わたしは
健康なの
で人工的
にだって

――おお
グスターフを
愛してる



でも
子どもが
ほしいの――



一年と半年まえ
妻が死んでね……

学統の
暴発でと
彼は賭った

クリスマスの
数日まえ――



「それで
このごろ、
悪くしてね
神経を
やられて
左目は
ほとんど
見えな
い」

「見えなくなるままに
あがれて、
南米へ
写真をとって
戻ってね」

（彼はアロの写真家だった）
彼は数年来
いっそうやせ
おし、そううにひげを
はやしていたが
わたしより十も若く見えた

「こいつだが――
ヘラがいなくなつてずつと
つれて旅行してたんで
ここ一年まったく
学校へいってない」

たのむよ
帰ってくるまで

どう
うりふたつ
だろ？



「彼は知つて
たのだろ
生まれた子どもの
父親が――たれか」

「彼は知つて
たのだろ
自分では
ヘラ、木に
子どもが
できないことを」







エーリック
きみ
寄宿生活って
初めて
なんだろう
とにかく
初めてだよ
初めだよ
宿舎も
学校も

王室なみ
じゃんか

聞いた？
彼氏ずっと
家庭教師
だったってさ

どこの
息子さ

指輪なんて
はめてさ！

片灯だ

学校？
学校には
いったん
だろ！
いや
マリエが
いかせて
くれなかったもの
教師がきてた

フー！

学校…か

いろんなやつが
いるもんだ

そうぞう
しくて
さわがしくて
無つぽい場所

あいつなんて

なんだい

ぼくが死んだ
トーマって子に
似てて
彼がトーマを
気に入ら
なかったって
ことだけで

いんけんな
目で見るし

いいわくだよ
こっちは

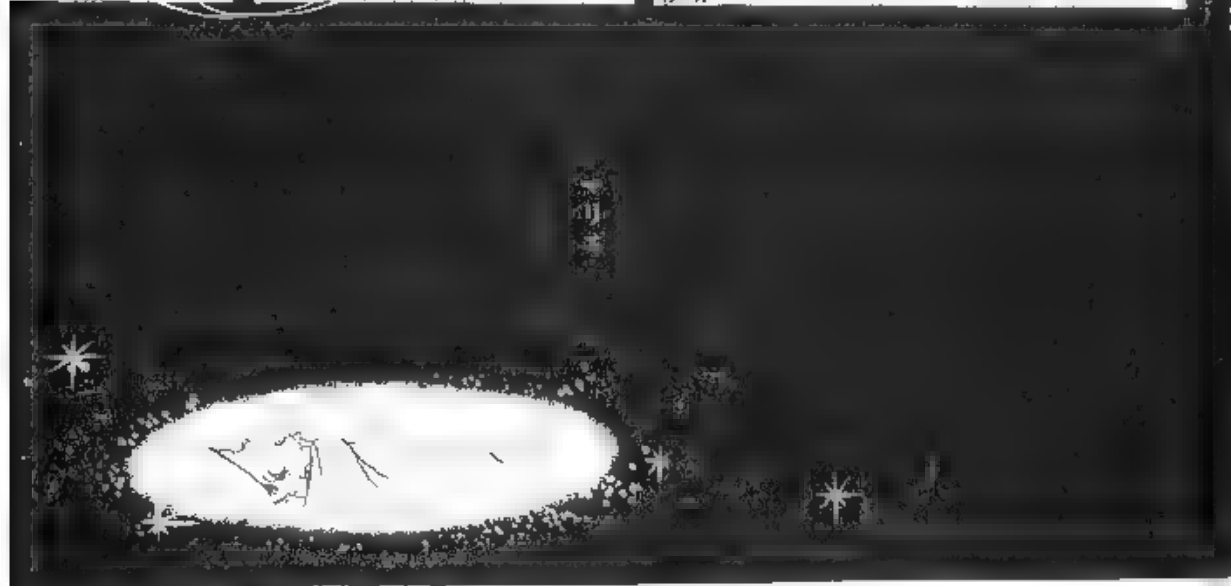


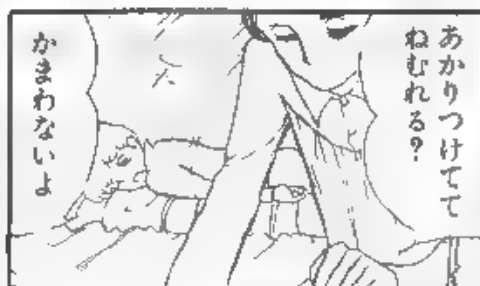
ぼくは
帰るんだから
すぐに

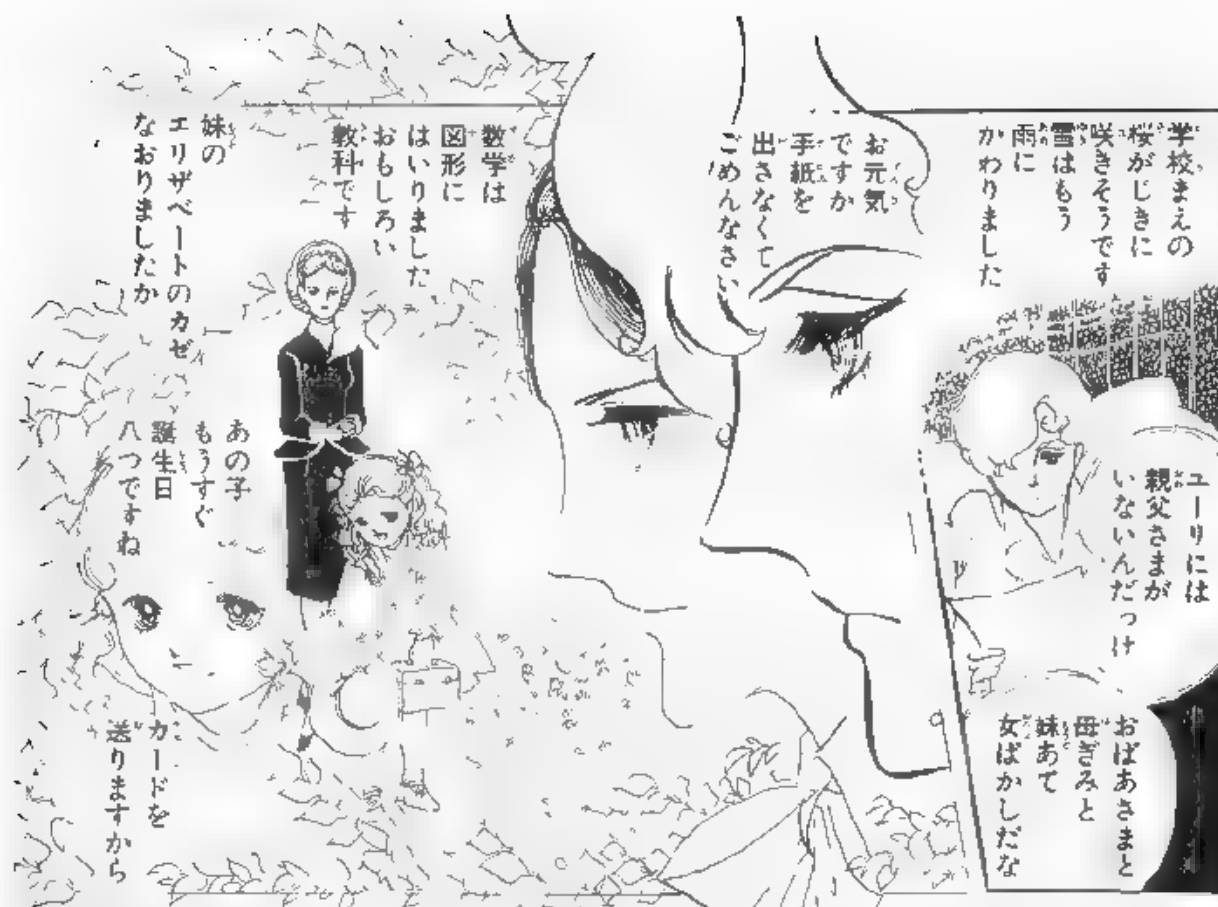


じき手紙が
くるんだから
わたしのエーリク
帰ってきて
ママが悪かったわ

ぼくがいなくて
マリエが
しんぼう
できる
もんか
ぼくよりも
あんな
オーストリア男が
いたいせつなもんか









.....お
おどろ
いたり音の
キズだよ！

机に
強く
ぶつ
けた
んだ



かつてに
しろしろ！

ああ
きみがそう
バカじゃ
ないことを
祈るよ！



おや
すみ！

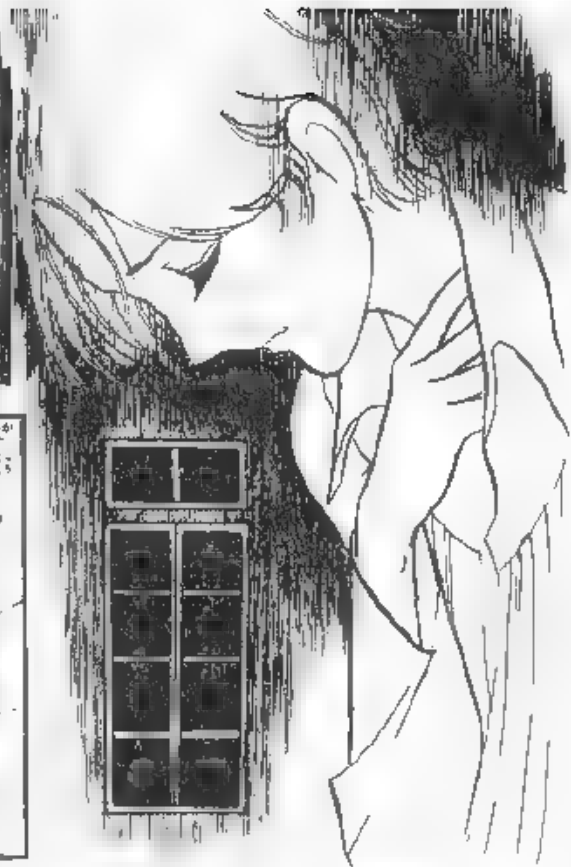


ちえっ……！

どうでもいいだろ！
めずらしくもない
そんなキズ！

ぼくは
もう寝る！

人の
せつかくの
忠告を
ムゲにして……



そんなキズ
めずらしくもない……

どのみち
オスカーは
気にはして
ないようだ

ぼくの狼狽を
くみとって
気をまわしたに
せよ……

学校じゃ
くじいたり
すりむいたり
日常茶飯事
なんなもの

だれだっ
た？

おなの木に
つなをはって
ターザンのまねして
ろっ骨三本に足を
折ったやつ

……机
に……
おつけた
か……

……
……
……

……
……
……

ウソ
つきめ……
ユリスモール・
バイハン……

ウソつきや
がから
どうだって
いうんが

今に
始まった
ことじゃ
ない

この……キズ

このキズ

悪魔の
証文
血判文
呪文
お

永遠に
消えな
い



それでは
きみは――

それではきみは
だれも愛して
いないの？

――トーマ・ヴェルナー――
あっちへ
いってくれ
いけ
いってしまえ！

だれも
ほんとうのぼくを
知りさえ
しなければ
隠しておして
生きていけるの
だから！

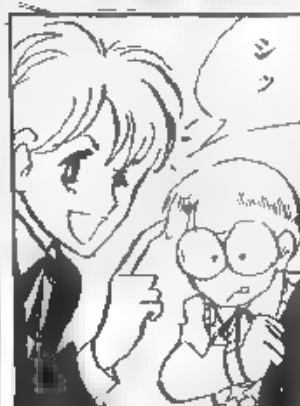
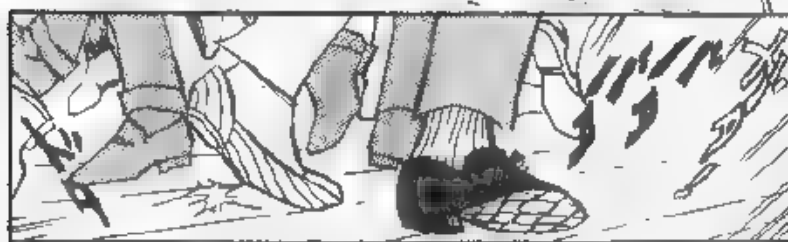
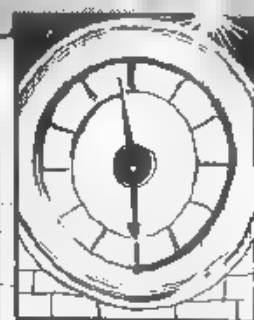
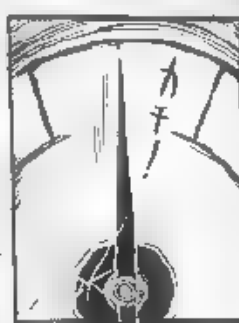
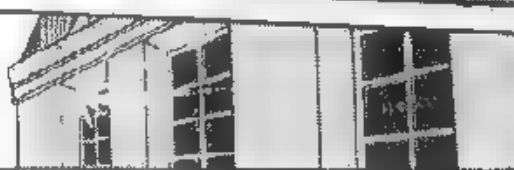
あ……あ

あ……あ

あ……




Raw manga
manga-zone.org





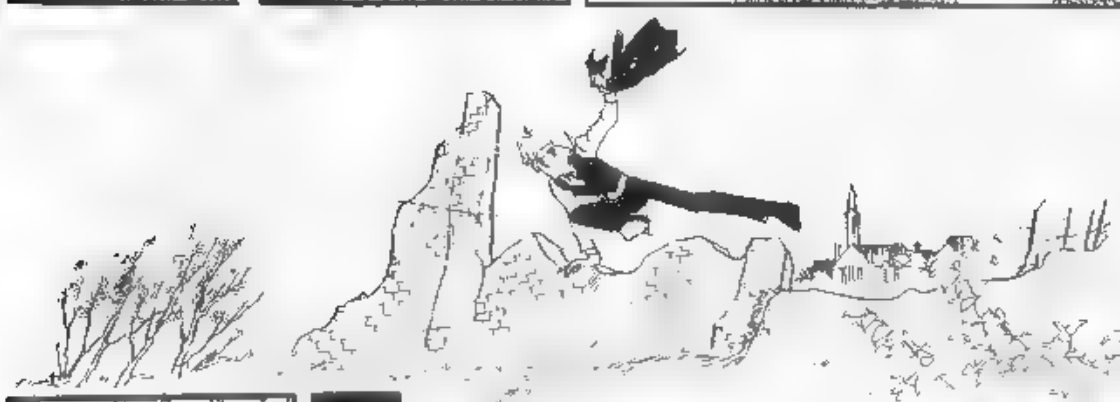




Danach lasst uns alle streben

brüderlich mit

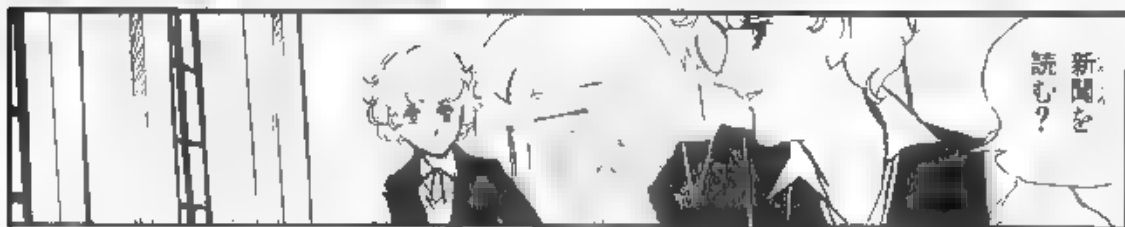
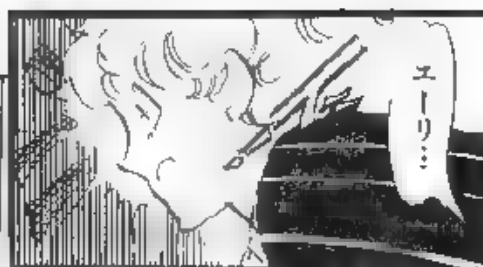














ほんとさ連中
アイトルが
ほしんだ

マリエ

学校ってところは
へんなところ
まったく

駅も道も
商店も
外出許可の
カードが
ないうちは
別世界
なんです

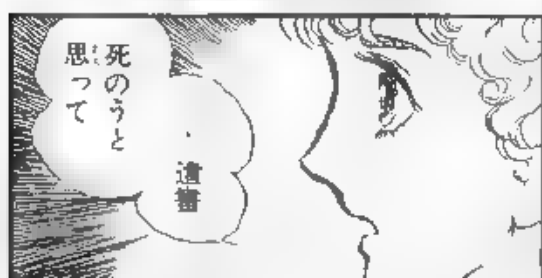
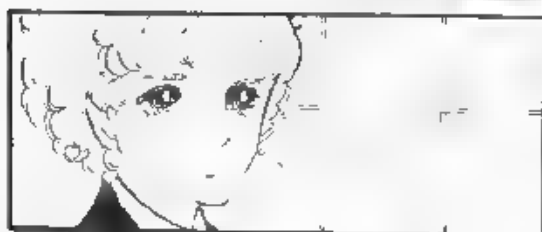
丘の上の学校の
高い窓からは
町の屋根が
見えるのに



ぼくらは
似たように
話し走り笑い
似たような服を着た
顕微鏡の下の
同じ
単細胞生物みたい

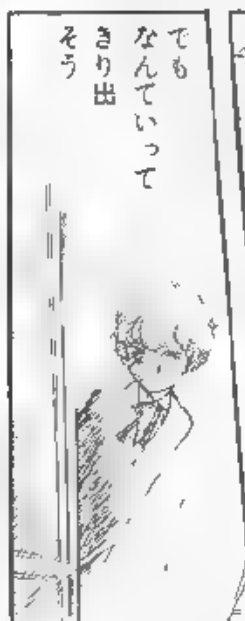
長いろうか
階段窓窓窓
教室
まるでひとつの
世界の
世界

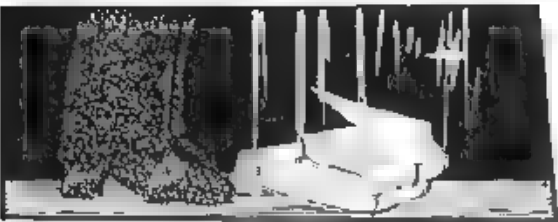
マリエ...
なに
してる?
...
手紙を
まったく
るん
だけど...















殺す

こんどは完全に

優等生で
委員長で
めんどろみが
よくて?

あいつ
変だ!

なにが!
人の首でも
しめかねない
かい!

きみはほくを
愛するといった
トーマ

そのために死ぬのだといった

そして
思いしれと
ほくにいった

初めて
あの日。

墓地で
出あったとき
と同じ目をして

死の負債をせめて
生きて











へつに
いえ

なんでも
なんでも
すみません
ユリスモール
許可なしに
はいつて



なにか
あったの
……
レドヴィ?



お
おくれて
すまん

ん
どうした



べつに……
べつに……
べつに……



ミルク
どう?



いつたい
人間の生

どれくらいの
約束が
されている
から

また
日を生きて
やるのだから
あんは



とっかえ
ひっかえ
唄がきたよ



は...は
ろこつだね
表現が...
きみのママは
たいそう
もてたわけ
で きみは

それできみは
母きみとすつと
ふたりくらし
たったわけ?

たいていは

ラインだったか
あの川?

ケルン...か
あそこは
いい町だよわ



おっと
しっけい
いいまき毛
だもんで

さわ
んなー

よろしくも
母きみとせ人に
気をきかして
転入して
きたわけ

けっこう
ふりまわ
されてるせ

われわれ
あの
ル・ヘベに

ま...
お砂
とうり?

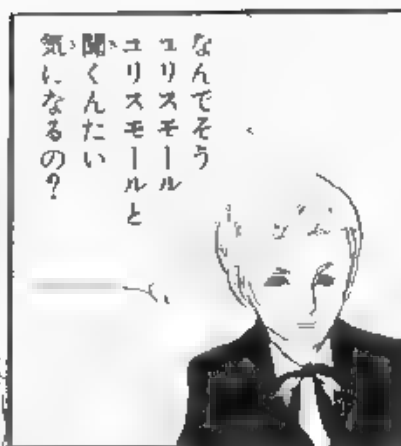
さついい
彼氏

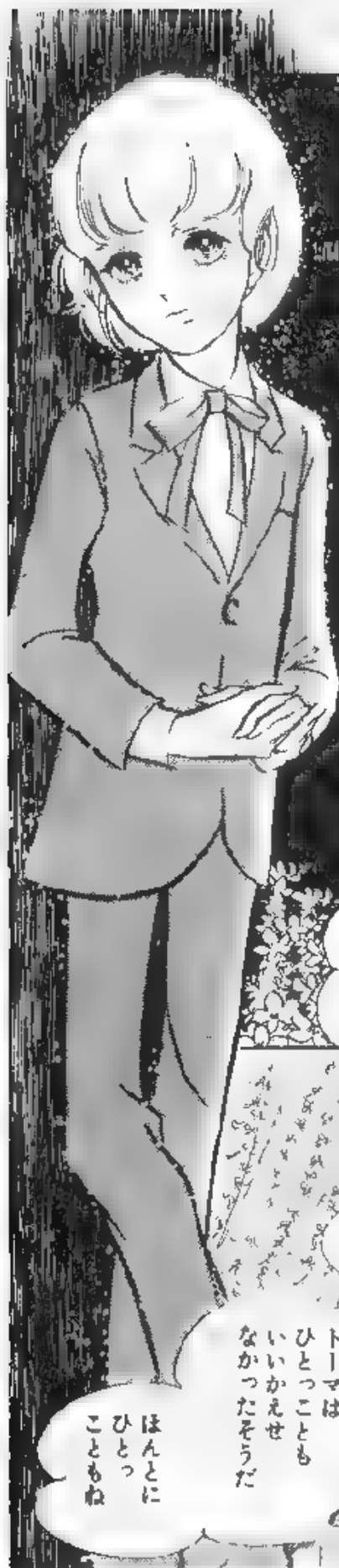




彼が
からむんだ！

ほくじや
ないよ！





アンチと
トーマが
くんでね
カケを
やったん
だよ

アンチ

強引に
せまった
場合——
いったい

あの
品行方正の
ユリスモールを
おとせるか

……トーマは
ふられたんだ
なんていったって
いったいどう
ユーリは……

きみなんか
知らない

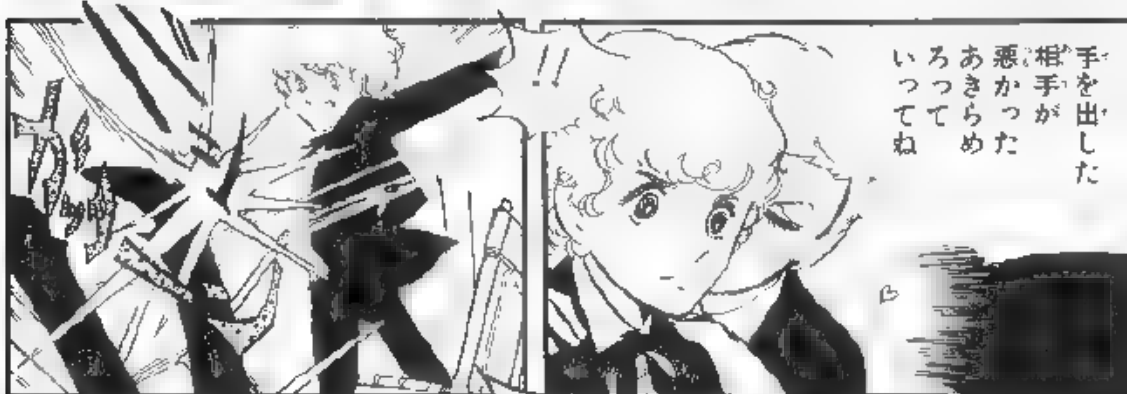
そのうち
ゲムだって
ことがばれて

ところが
ユーリは
おちなかつた
まずいことに

そう
一クラス
全員のまえで
そういつ
たんだな
きみなんか
知らない

トーマは
ひとつことも
いいかえせ
なかつたそうだ

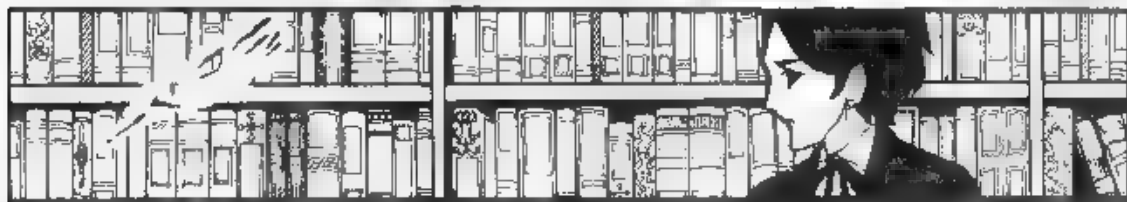
ほんとに
ひとつ
こともね











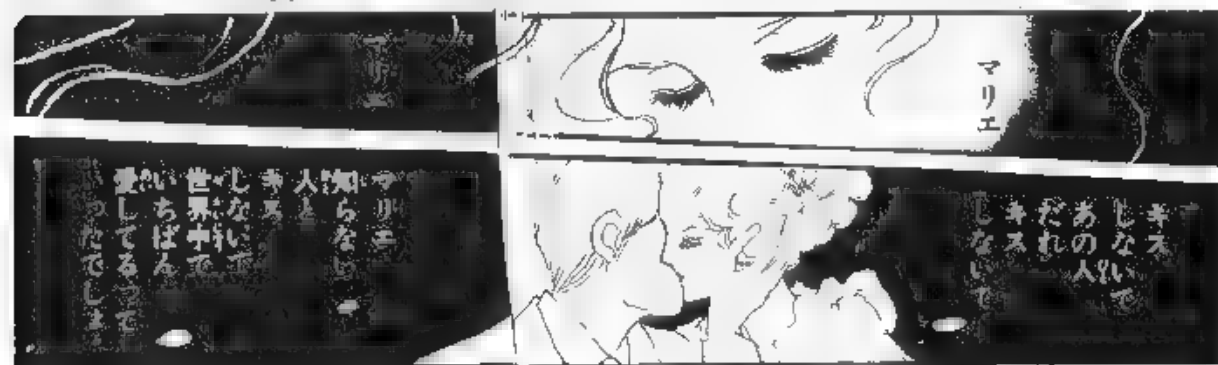


マリエ

マリエ

だれを
世界中で
いちばん
愛してる？
マイネ・ムテ
マリエ
おまえよ
エーリク

だれを
世界中で
いちばん
愛してる？
マイネ・ムテ
マリエ
おまえよ
エーリク



マリエ

マリエ
知らな
人よ
キス
しな
世界中
いちばん
愛して
ったで

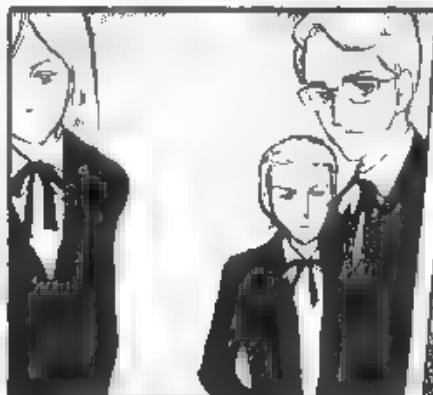
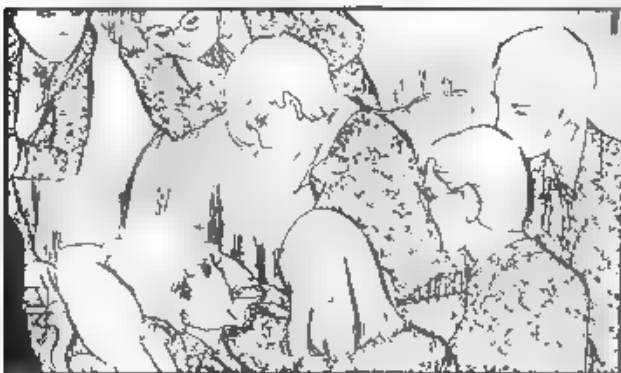
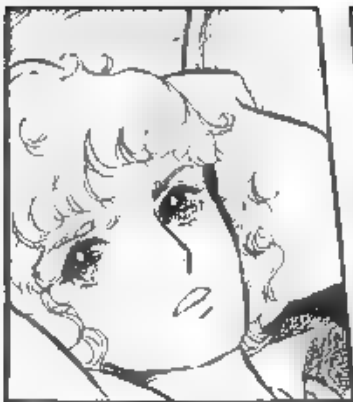
キス
しな
あの人
だれ
キス
しな

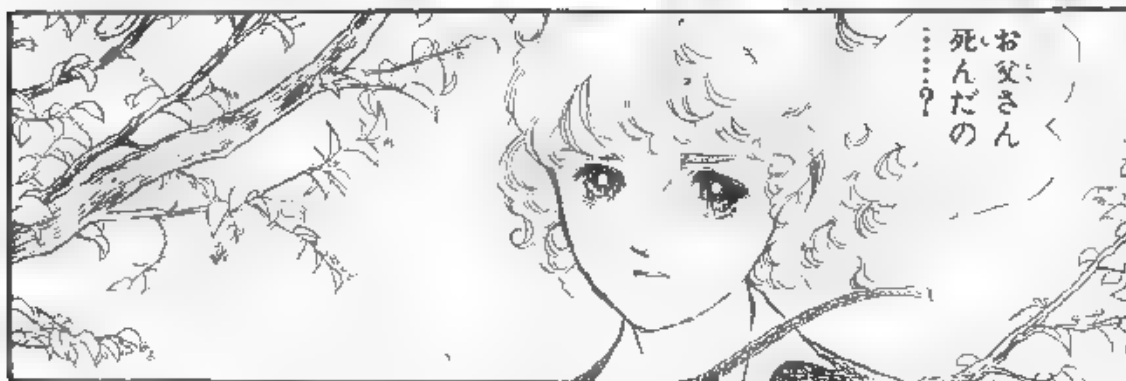


いった
マリエ
キス
ほか
いや

いや
いや
だだ

エーリク







そう
ありがとう



軽い
食血だった
らしい……
エーリク



もう
いいの？
オスカーが
わざわざ
むかえに
きたん
だって？

お茶会で
たおれたの？
気分悪く
なったの
かい？

へーっ
オスカー
が？
いいんだ！



戸口で
つつ立た
ないで
くれないわ
ちよつと！



バツカスは
エーリクに
いつでも
またこいつ
だってき！

おとおり
ください
お茶会から
はずされて
お気の
どくさまの
アンテ！



でも
気になる
キスぐらいで
たおれたなんて

もしかして
どっか
悪いんじゃないか
……エーリク

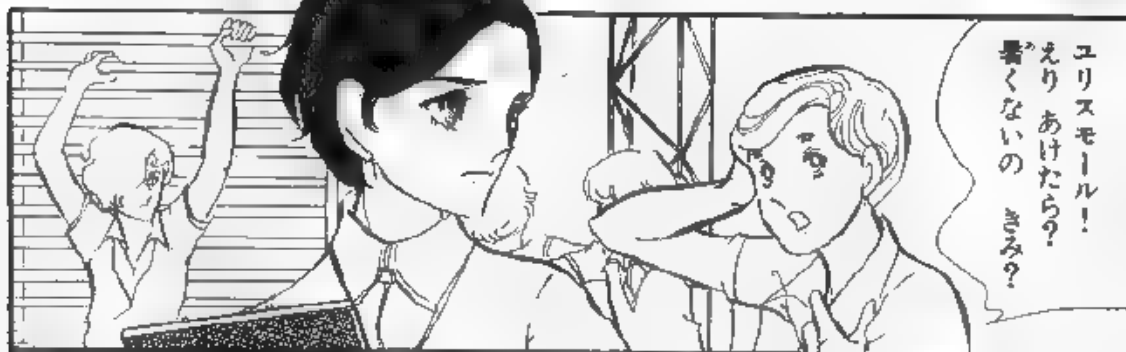


なんにさ
やっ結局
上級生の
いい子なん
じやないか
まるつきり
トーマの
かわりさ！





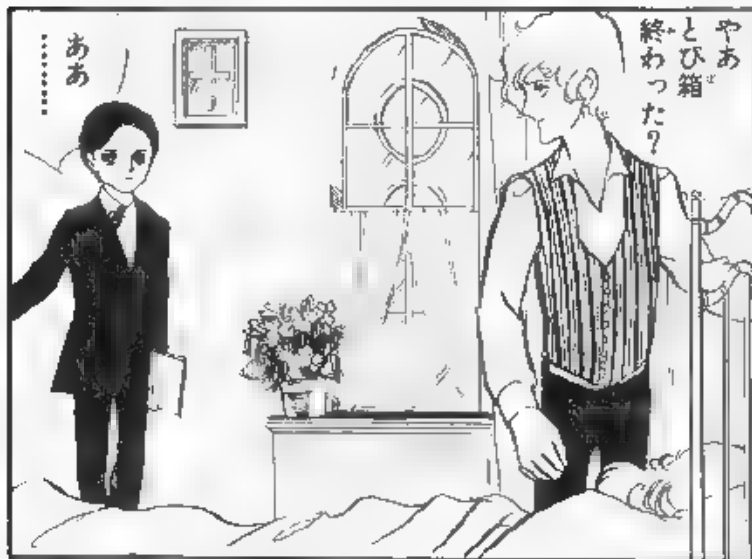






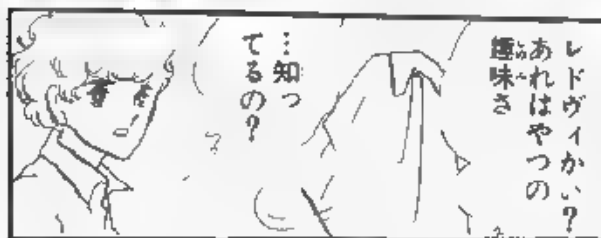


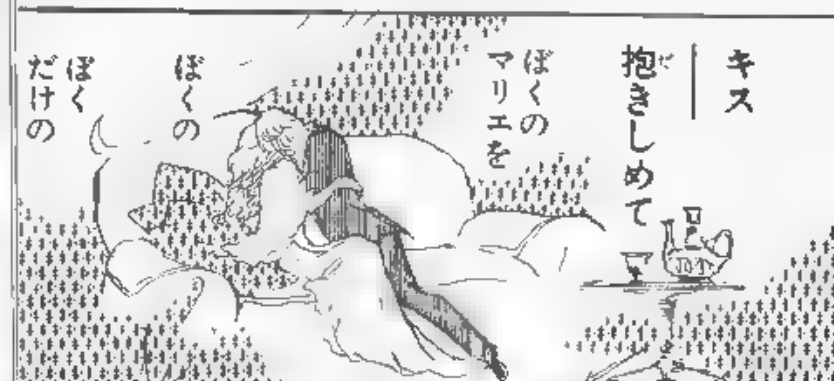














ぼくを愛して
るっていったのに...

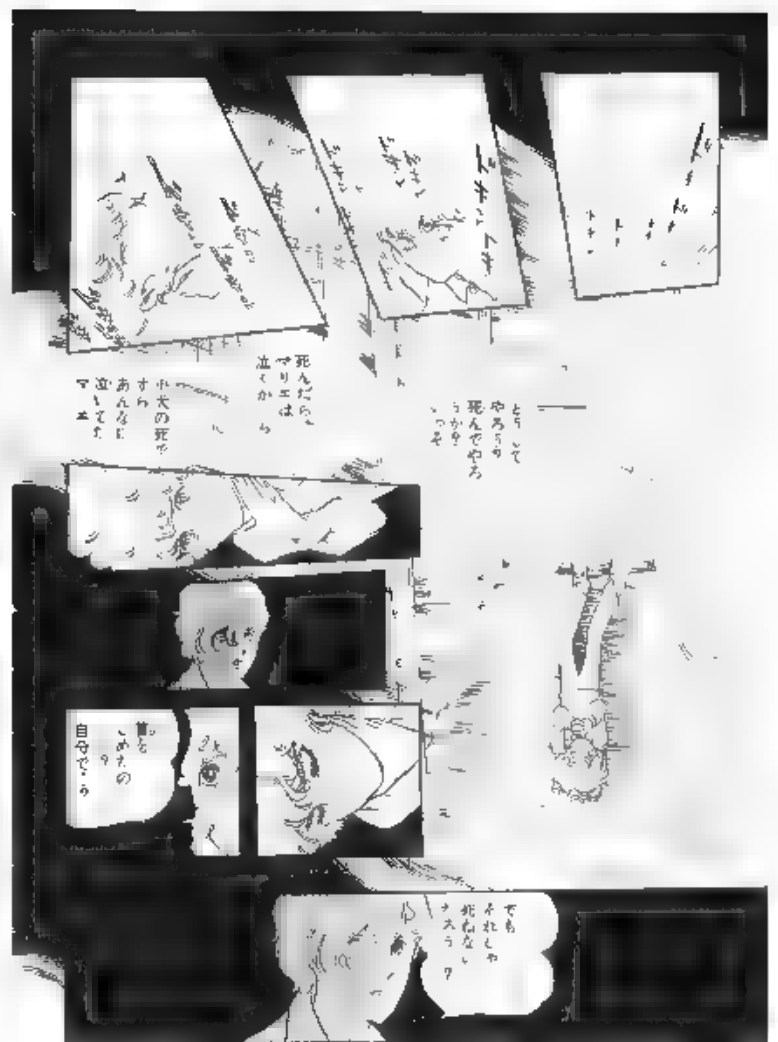
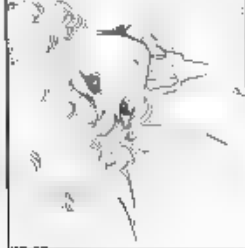
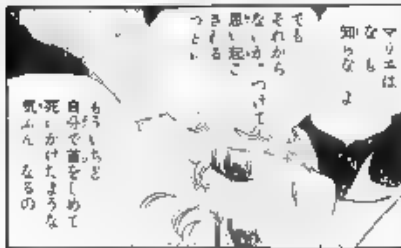
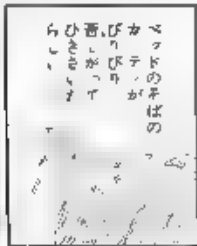
世界中でいちばん
いちばん いちばん
愛してるって
いったのに...

マリエ

ああ
マリエ

ぼくを
うらぎったんだ

ぼくを
うらぎったんだ
ぼくを



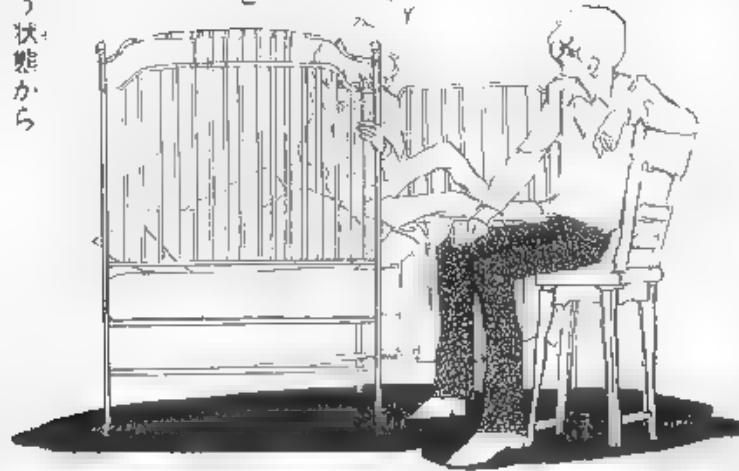
死にかけた
気おんっ
て？

息がで
きないん
だのどが

つまっちゃ
て...

意識をたもつてると
命やあせが出て
全身が
ふるえ出す

そういう状態から
逃げ出すため
てつとり早く
意識を消しち
まうわけ



病院へは？



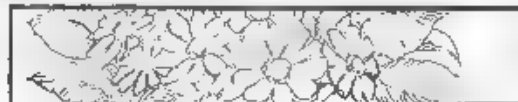
マリエが
つれていつた
でも
そんな発作が
起こったのは
それから
一年か一年く
らいのあいだ
だけで...

あとはずっと
おさまってたんだ
ときどき思苦しくは
そりやなっただけど



じゃ
学校へきてから？

きつと...
学校は...
ぼくには
あわないんだ
こんなことほんとに
当分起こって
なかったもの



マリエのそばに
いれば安全？

それできみは
手紙を
まってる？
帰る
ために？



帰るよ

マリエは
恋人と
いるんだろ
？





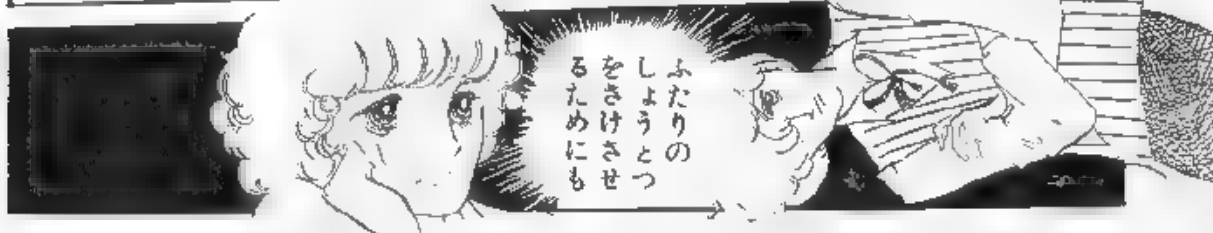
なぜ
はっとか
ないの？

きみだって
今に
かわいい
女の子を
好きになるよ
マリエ
以上に
そのうちに





さよう
ガール
ハント
だい
考え



ふたりの
しょうとつ
をさけさせ
るためにも



オスカーが
ああいうもんで
外出することに
なった次の土曜日

なんだ
上着は
いらないんがよ
ブラウスの上に
直接
レインコ
トを
はめるんだ
まてよ
かりて
きてやる



女の子なんて
さして興味もなかったけど



外出にも
ルールが
あるの
レインコ
ート
ぐらい
持つてるよ!

きみのは
ケーブつぎだから
だめだ
シュロッターヘンツの
コートでなきや



かりるぜ
いいや
でもきみには
小さめじゃない

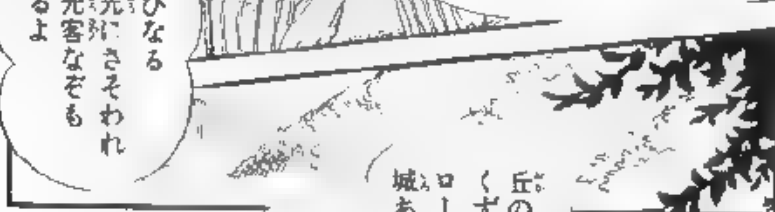




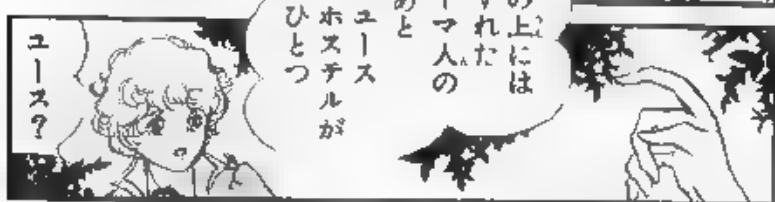




市街を
はずれると
からす家と
ぶどう畑
下れば
ハイデルベルグ
上れば
カールスルーエ



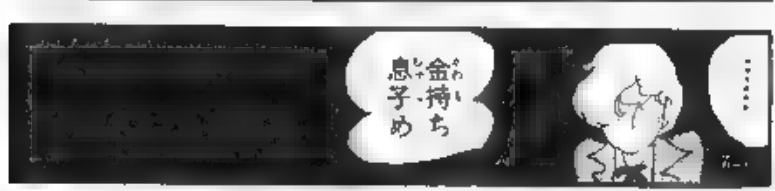
明びなる
風光にさそわれ
観光客なぞも
くるよ



丘の上には
くすれた
ローマ人の
城あと
ユース
ホステルが
ひとつ



安くとまれるんだ
旅行したこと
あるの？
旅は
いいぜ！
ある
マリエが
湖沼地帯など
好きだったんで
北部ヨーロッパ
ぜんぶまわった



金持ち
息子め



シャロッター
ベッツの
オスカーだわ！

見てみて
すっごく
かわいい子

オスカー
何週ぶりの
土曜日
かしら！



ノルト
バーデン
……！

西ドイツで
もつとも
美しい地方だと
ぼくは思うよ

ラインにそって
ここいらは
けっこう歴史も
古いんだ











キスしてみようか
氣を失つたら
落ちるしかないね



……
……いや……
きみの父さんより
好きな人
ほかにいるって
いったね
それぼく？



じゃ
やめろよ
ぼく
茶番劇
やる気
ないぜ！

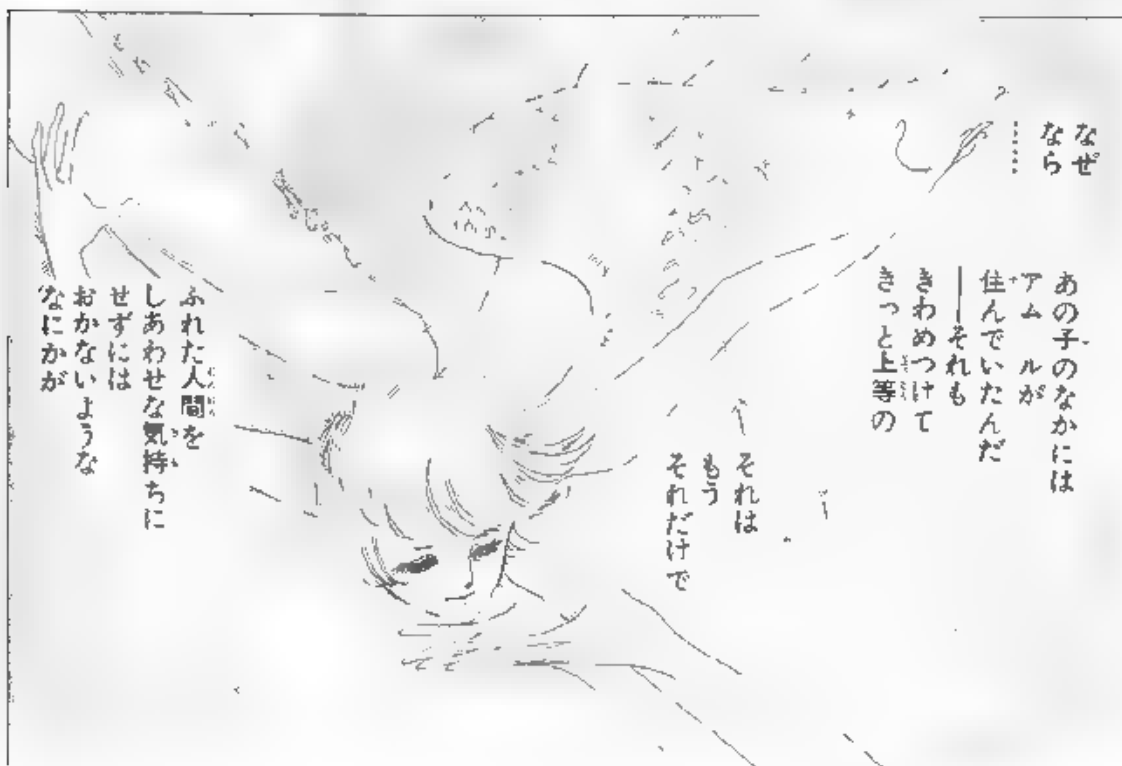


ユーリは
トーマ・
ヴェルナーを
殺したの？







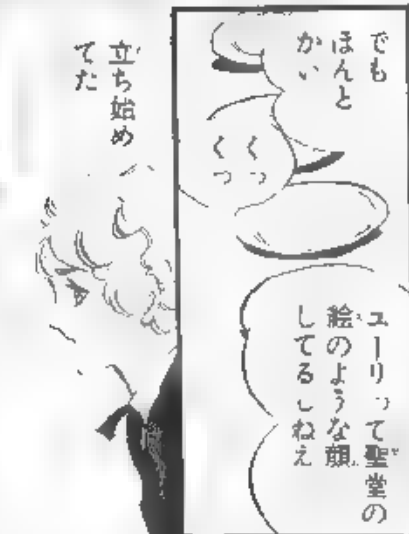
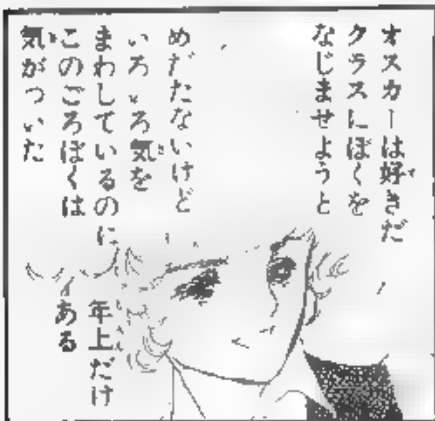


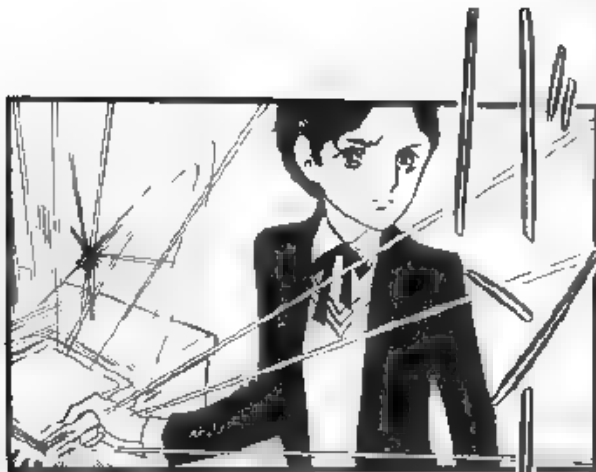
ぼくたちは
みんな
あの小さな
トーマ・
ヴェルナーを
愛してたし

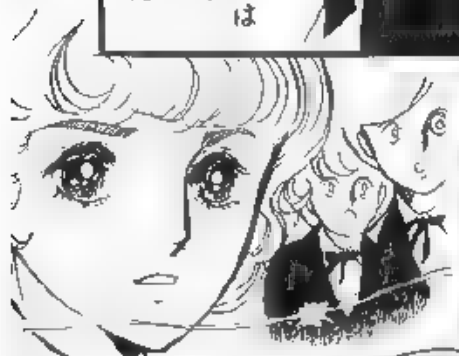
彼の
ためなら
なんでも
やっだし

彼の
することは
みんな
許せたんだ

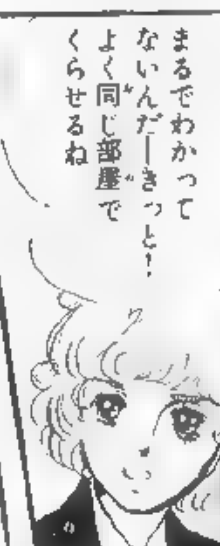








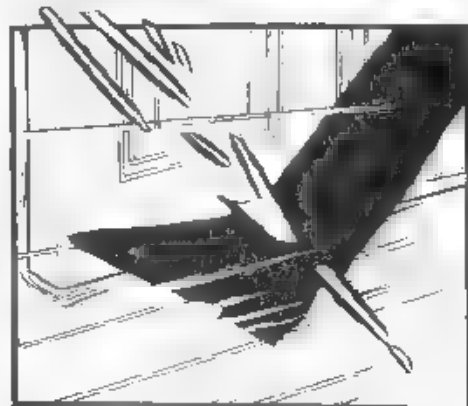
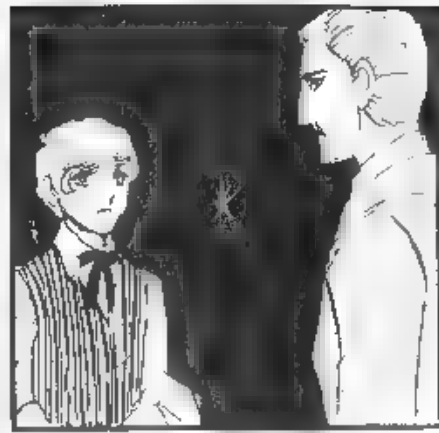














こにくたらしい
アンテ・ローエが
いいふらした
うわさの真偽は
ともかくとして
オスカーはヨハネ館から
追い払われた
そしてあいたベッドは
ぼくに用意された
雨に頭を冷やされながら
それでも捨てせりつなとはき
不安 不快 いらだたしさ
それから それを逆手にとった
わすかの期待
(ひよつとしたら心のかよう
チャンスがあるかも)
でも歓迎されないことは
わかっていた

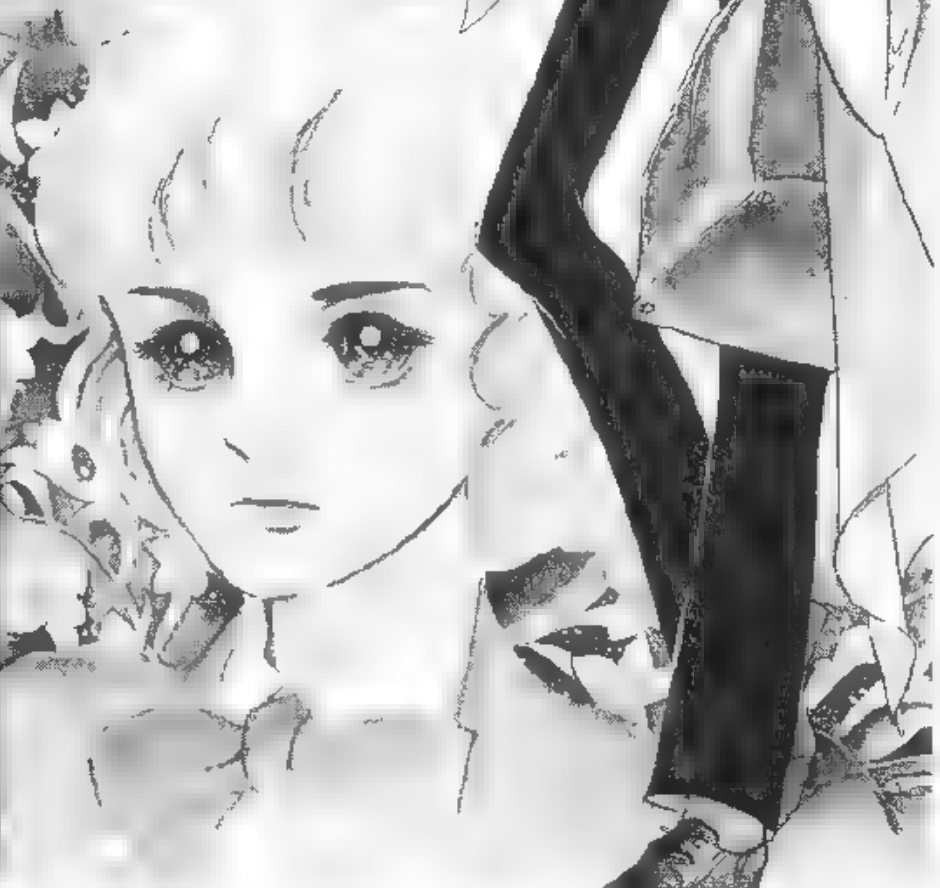


あそこ
階段
あか
って

舎監生の
部屋って
どこ？

ここ？
おとり
場の
ええ
その
部屋
です

ああとうそ
きみが新しい
相部屋の



はいっていい？
オスカーから
聞いてたんじや
ないの

おたがいさまだよ！
こんなところに
おしこめられるって
知ってたら
もっとおとなしく
してたよ



……きみとは
聞いてなかった



いい個室だね
シャワーつき
じゃない！

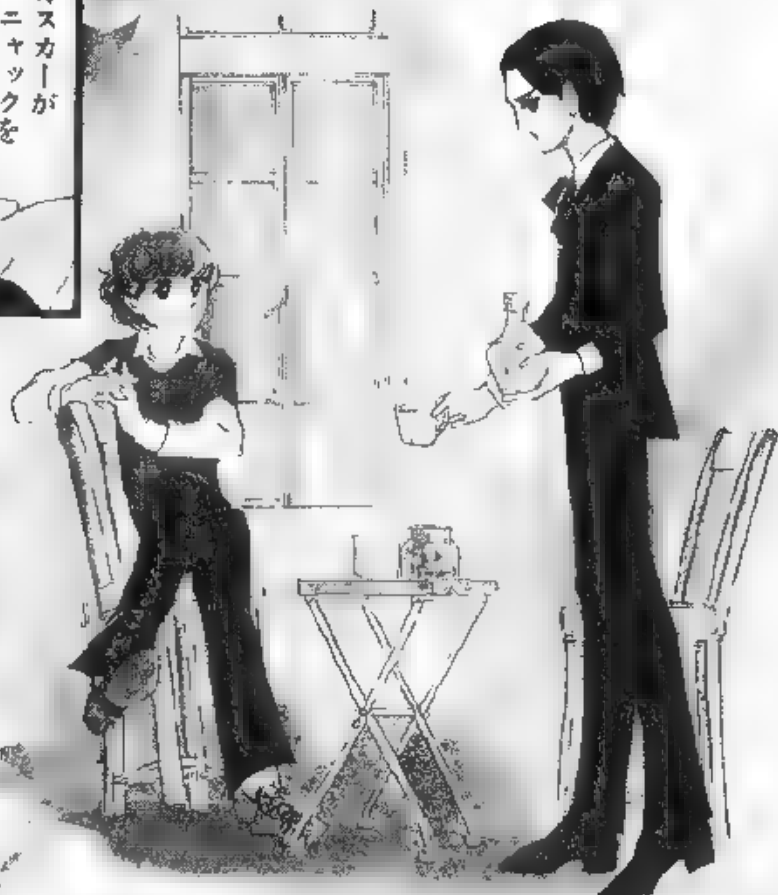
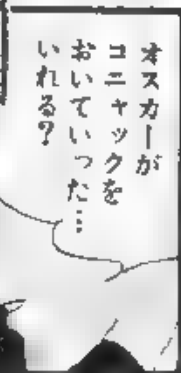
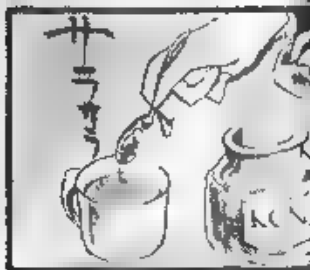
いつから
住んでんの！



たたくんでるん
じゃない
舎監をやつて
るきみにもちゃんと
仕事はして
もらう

あ
この部屋
お湯が出るの？





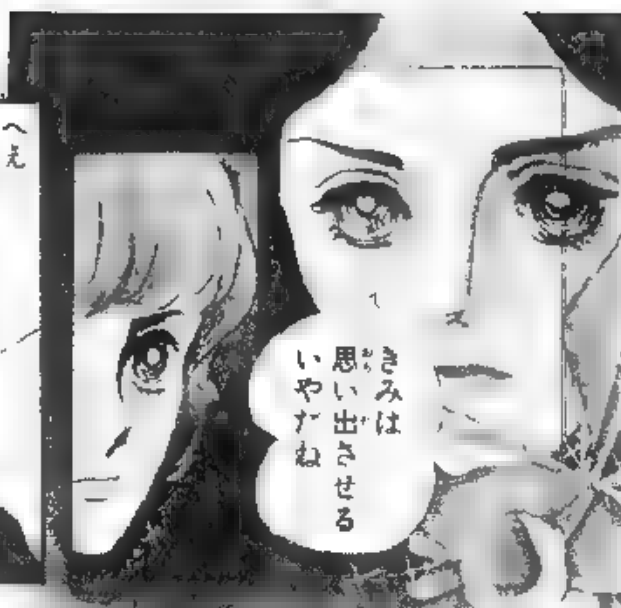




殺せるね
何人でも



へえ
ヘルベルトが
いったように
きみは
おとなだよ
平気で
人ひとり
殺せるなんて！



きみは
思い出させる
いやだね



神なんて
信じてない

どっかの
独裁者が
喜びそう！
きみ
天国には
いけないぜ！



：ユーリ
きみさ



エーリク……
：すこしだまってて
くれないか
きみはものの
いいかたまで
トーマに似てるよ



ユリスモール
委員長さん
そんなことを
いつていいの？

日曜のミサでは
きみはいつも壇上で
聖書を朗読してる
じゃないか
いたって信仰ぶかく！

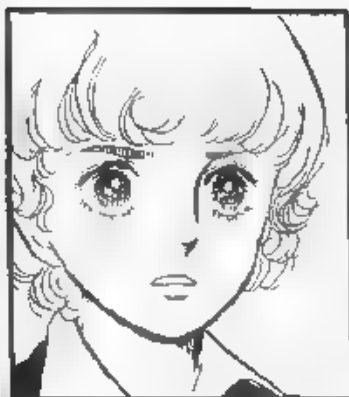
トーマ・ヴェルナーが
好きだったんじゃないの

だって
でなけりや
なぜそう
彼のことが
気にかかる
のさ



心を
うち
あけ
られる
相手
ってのは
必要
なんだ
って
オス
カー
は自
分
に
は
ち
や
ん
と
い
る
っ
て
い
っ
て
た
よ
き
み
に
は
い
る
?





…めいわくだよ!

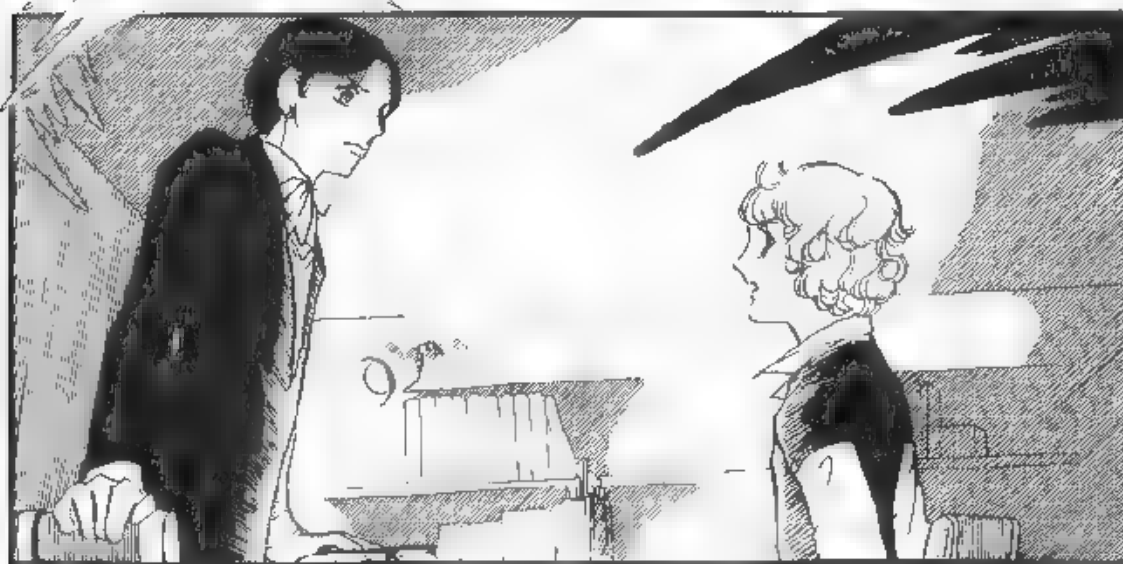
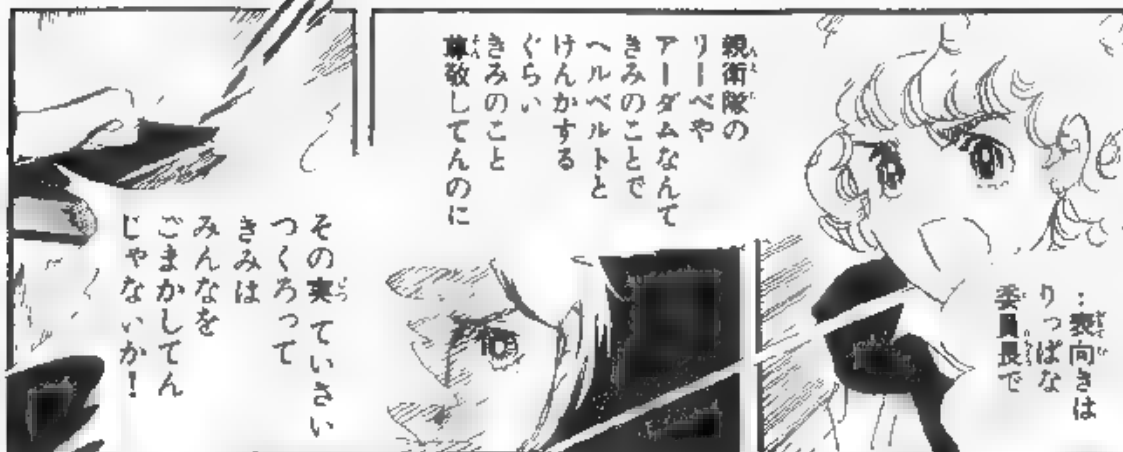


はーん…じゃ
きみの
好きそうなこと
いってやるよ

ユリスモール
・バイハン

ぼくはきみが
大っきらい

きみみたいな
ウソつきは
大っきらい!





だれも愛して
いないの—?



それでは
きみは—



ぼくは
トーマ・
ヴェルナー
じゃないぜ!

現れさえ
しなければ

きみは彼^{かれ}
そのものさ
!

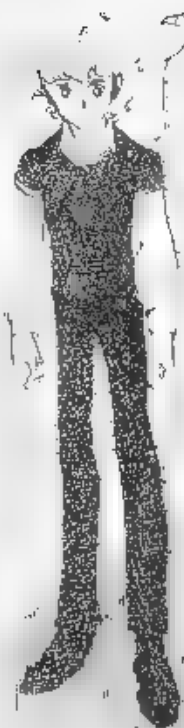
昔は彼
ああじやなかった



友人を愛するいい
ほんとうの委員長だったよ

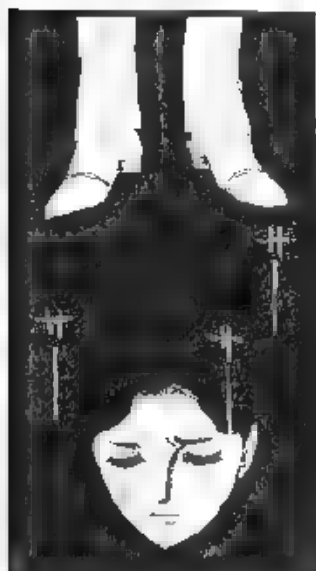
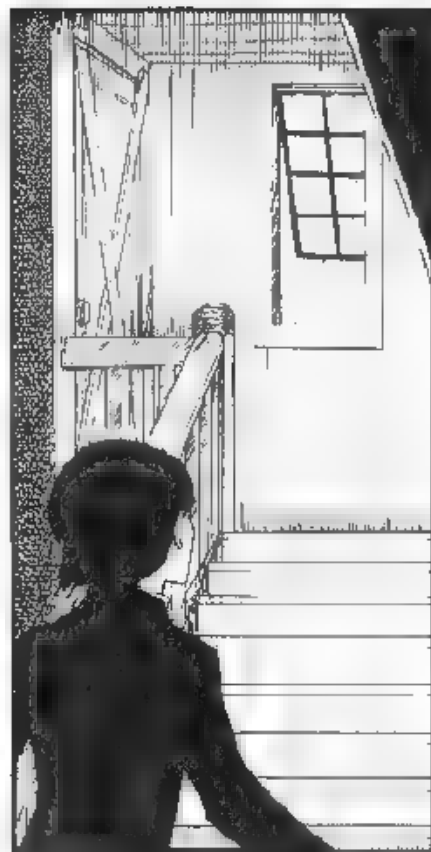
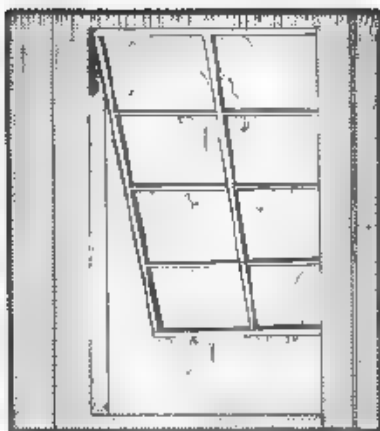


ユリスモール
でもそれで



生きて
いけるの？
これから
ずっと？

……ひとり
で……？





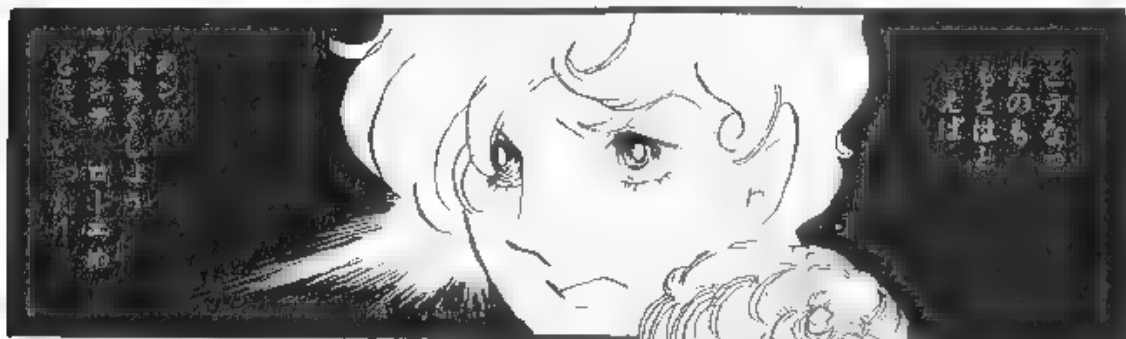
神さま 神さま
御手はあまりに遠い

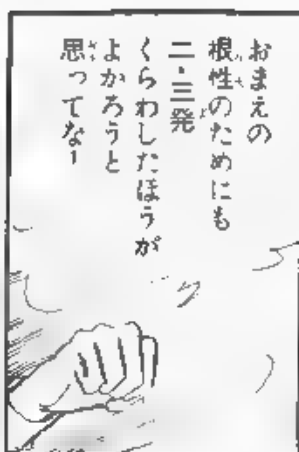


見ろよ
エーリクの
ふてた顔！
でもユーリは
ごきげんなんじや
ない？
かわいいのと
いっしょでさ♡
オスカー
は？

部屋がえが
あつたん
だって？







おまえの
根性のためにも
二・三発
くらわしたほうが
よからうと
思っ
てな



…オスカ―……
なに……
なんの騒
ぎ
下級生を
なく
るの
は
趣
味
じ
や
な
い
が



ぼくが
なにをしたのさ
ユーリはエーリクが
好きなんだよ
視線がいつも
追いかけてるもの

ああ
知りやしないね！
ささまは



オスカ―が
いけないんだ
いけないんだ
ぼくの気持ち
なんか
知りやしない
んだから！



結局
こうなる
ことにな
って
たんだ
あの
ふたり
ぼくが
トーマをつついて
ユーリをくどけて
いった時から――



オスカ―





おまえ……
まへに
トマ、
ヴェルナーと
くん

どっちが
ユリスモールを
落とせるかって
カケを
やったことが
あったな……え

……ほくは……ほくは
きみが好き
だったんだもの



おまえが
しくんだ
のか？

トマを
ついて……

あの
茶番劇

おまえが
そも
……

ユーリと
オレを
引きはなす
ためにか？



すてきだね
彼
せまったら
三日で
落ちるかな

だめだよ
彼
ましめ
だから



それに
オスカーと
いつも
だもの



ためして
みない？
トマ



ねえ
ためして
みない？
トマ
……

ぼくはずっと
きみが好き
だったんだもの
どうして
わかんないの



それで
どんなに
ユリが
悩んで
きみは
いつも
ユリ！
ユリ！
ユリ！



死んじまえ！
ユリスモール
なんか！



ふりむいて
くれる
だけで
いいんだ
オスカー！

オスカー！
ふり
むいて……



ふりむいて
オスカー！
……

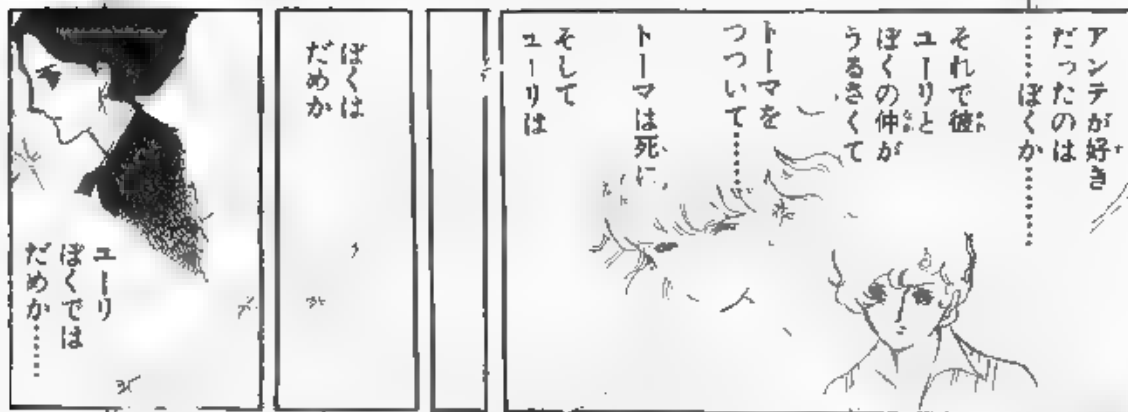
きみが
だれを
好きでも
かまわ
ないから



オスカー



あ







いったい
ほくに
どうし
てんだ

なにかという
顔に
あの日!

ほんと
こつちが
おっ殺しく
なってくる!



ブッシュ先生
点からい
かなー

できた?
できた?



どうですか
このころ
生徒
たちは



あ、入生
いささか
問題ですな!

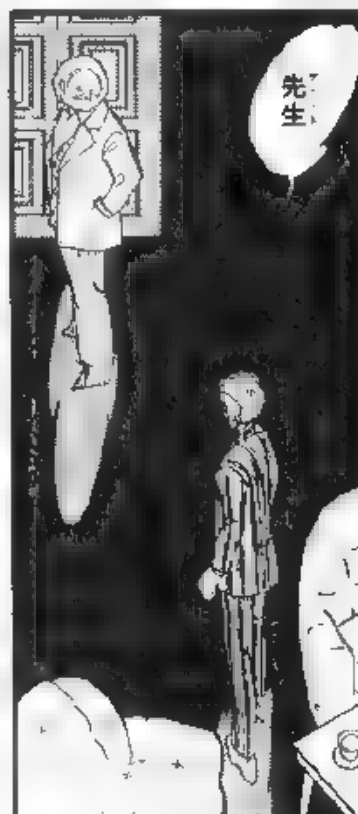
若いころは
学校は退学
本屋につとめりや
三日で逃げ出す
ホートー息子

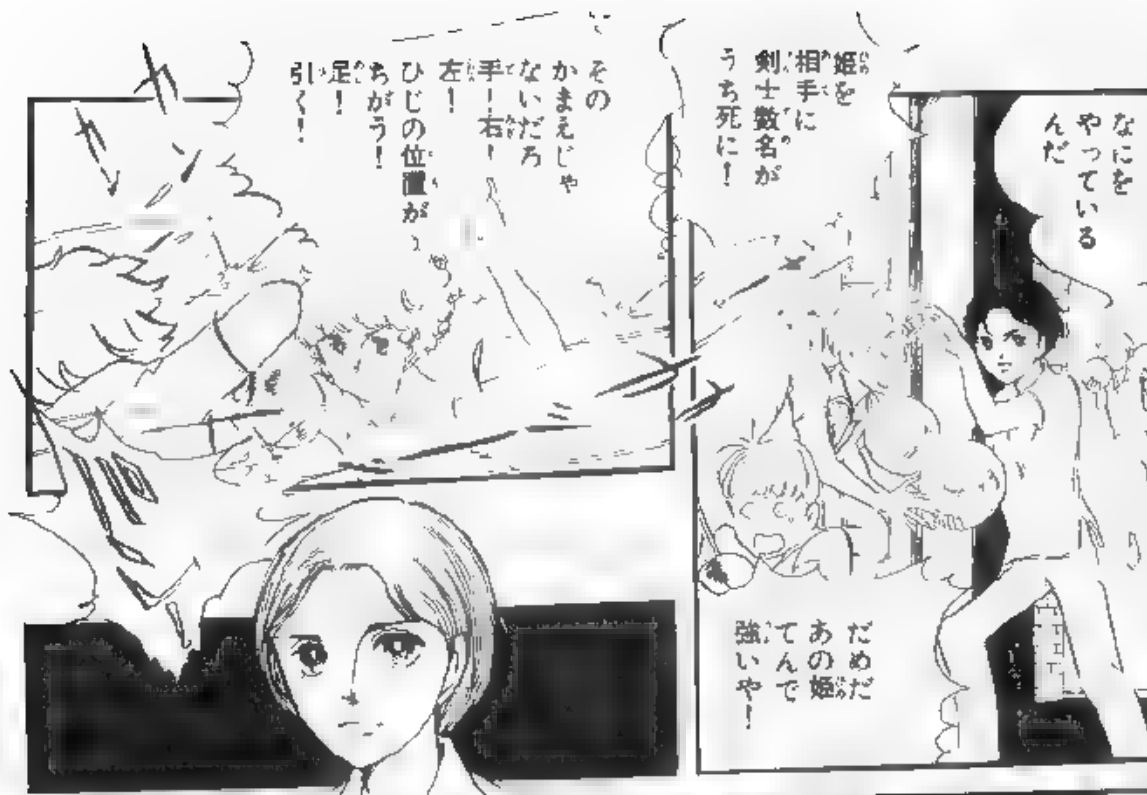
詩人になりたいさもなくば
生きていたくないとヘッセはいったが
小説家として名をなして
しつこく八十五歳まで生きた



教師のムチ持つて
四十年
生徒ひとりに
手をやく年でも
ない今さら

ヘッセについて
エーリク・
フリーユリック

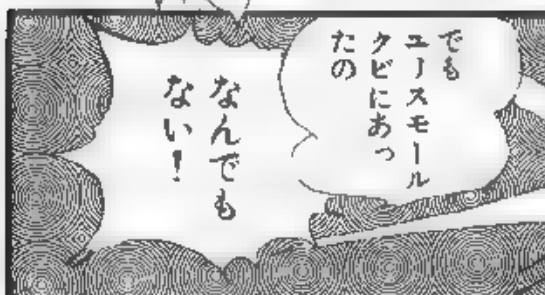
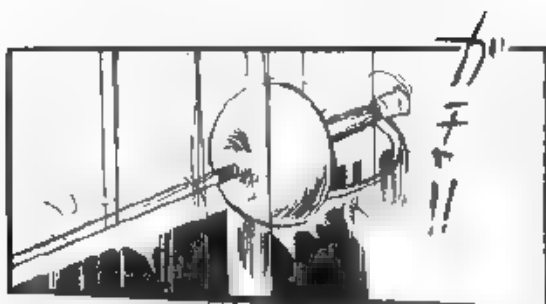




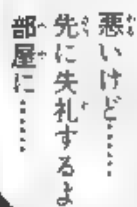
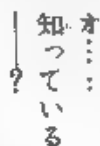
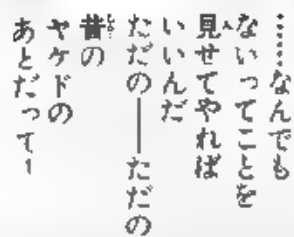




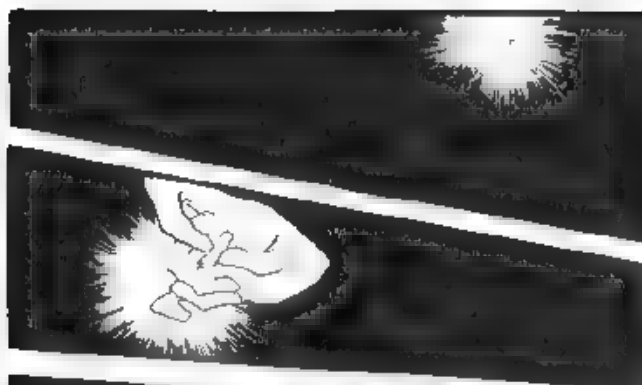












— おお



神さま！

神さま
おお神さま



えぐりとって
しまえ
このキズあと

いつそ、その
ハサミで
そこにある
白いハサミで



ひとめ見れば
わかるのだからか
——この変色して
しまった部分

ほくが
机だなんだと
ごまかした時から
オスカーは
知っていたのか

ヤケドの
あとだと











草笛を
吹いて

あの日も

ふ

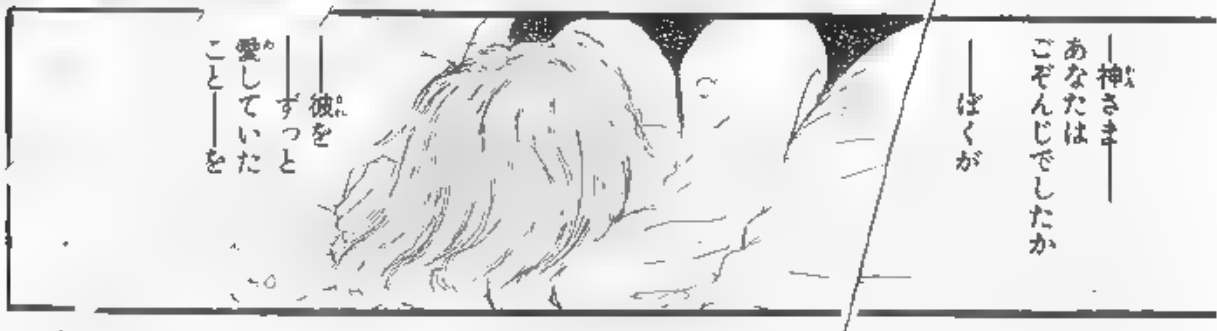
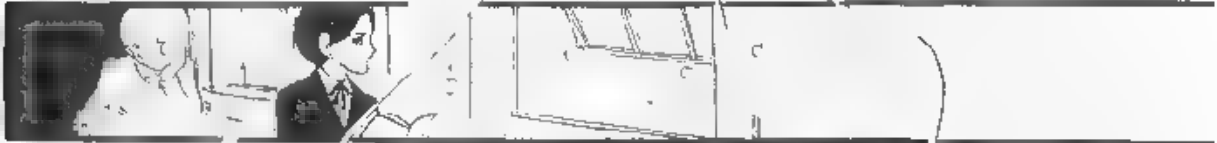
あの日も

あの日も



瞞る目をして

どうして彼は
あそこに
いたのだ
ろう



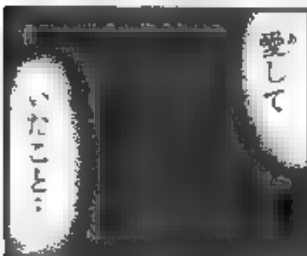
— 神さま —
あなたは
ごぞんじでしたか
ぼくが

彼を
ずっと
愛していた
こと——を



何度も
何度も
何度も
うち消し
ながら
自分自身
すら
ごまかし
ながら

それでも
心の中に
はいりこんで
くる影に



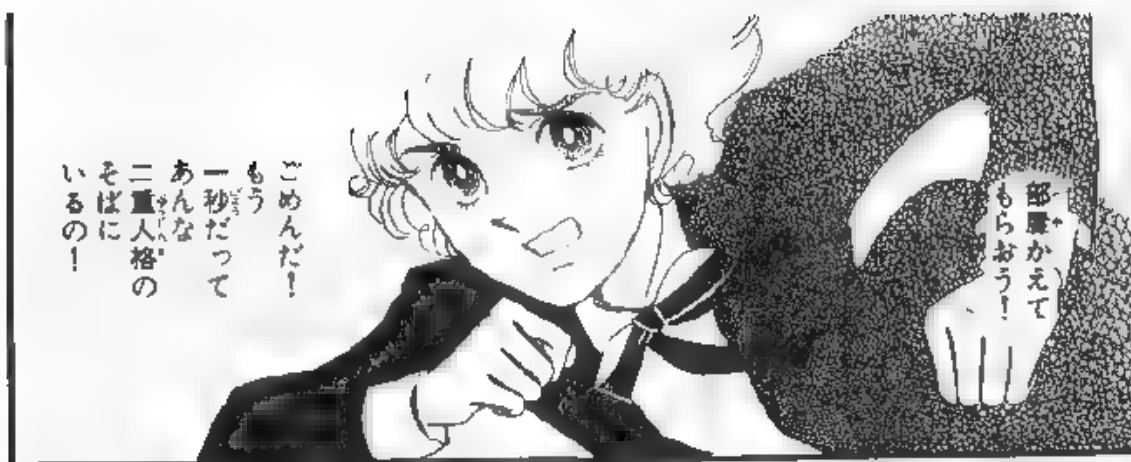
愛して

いたこと……



むしろ
恐怖すら
おぼえな
がら

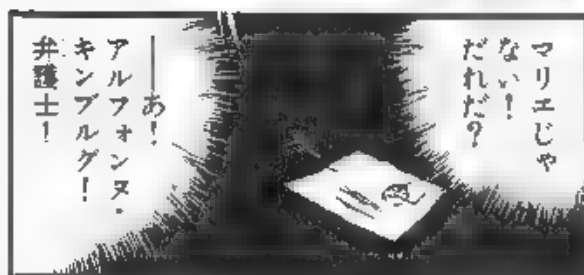






「心をおちつけて
聞いてほしい」

？
……マリエじゃ
ない……



マリエじゃ
ない！
だれだ？

あ！
アルフォンヌ・
キンブルグ！
弁護士！



あの
でぶっちょの
弁護士！

か！
人を喜ば
せとい
て！

おおマリエ！
待ちに待った
手紙？
帰ってこいって？
さみしいって？

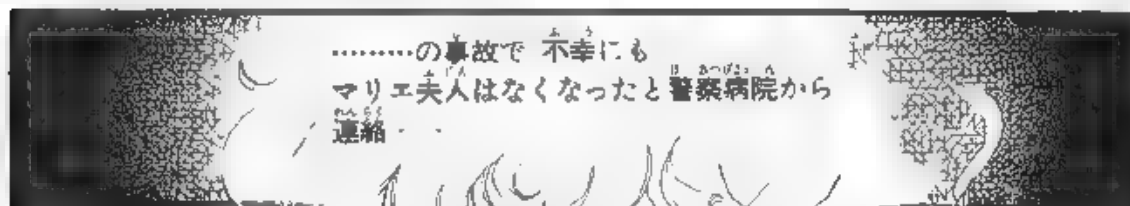


「エーリク・フリーリンクへ。
もっと早く知らせようと
思ったのだが わたしなりの
判断で 日時をおくことにした」



なんていつて
きたんだ？
なんか
くどくど

マリエの
弁護士に
用なんか
な……



……の事故で 不幸にも
マリエ夫人はなくなったと警察病院から
連絡



おお
エーリク
世界中で
いちばん

愛しててよ
愛しててよ
愛しててよ
愛し――



—こんな—

マリエが
こんな手紙を
待っていたんじや
ない

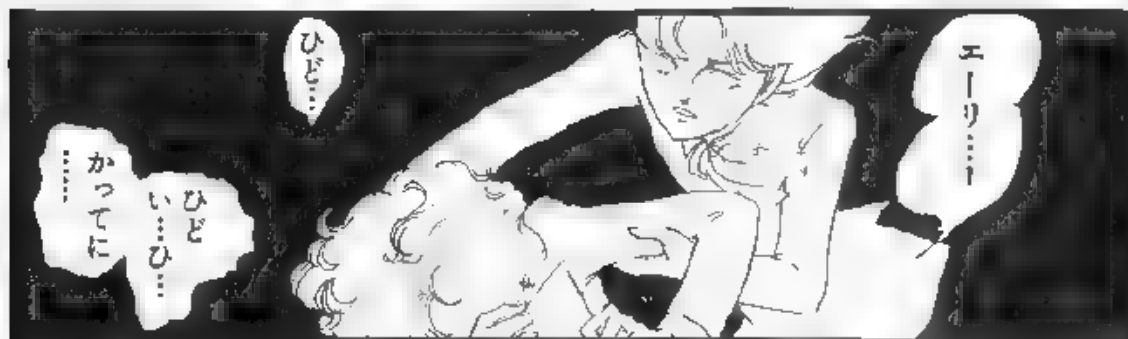


バカな—バカな—



うーん

マリエが
—死んだ—
こんな手紙を
待っていたんじや
ない









殺せ
殺せ

殺せ
——
コロ



なんだって
……?

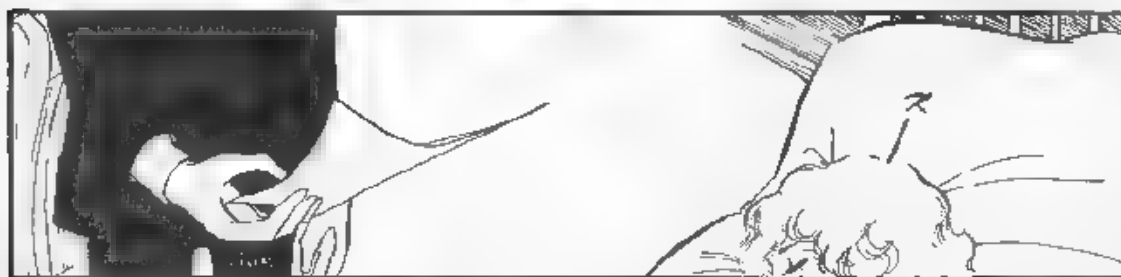
致死量
……
あるの?



せ……



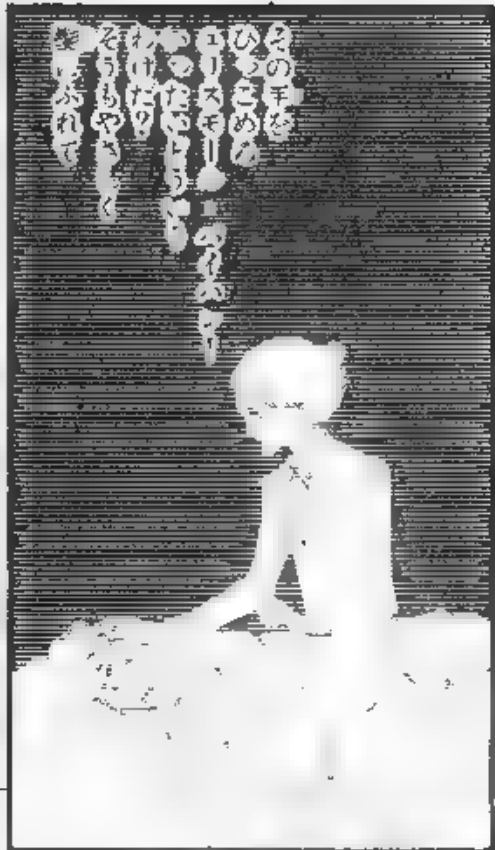
母親が
事故……で？
原因は
これか

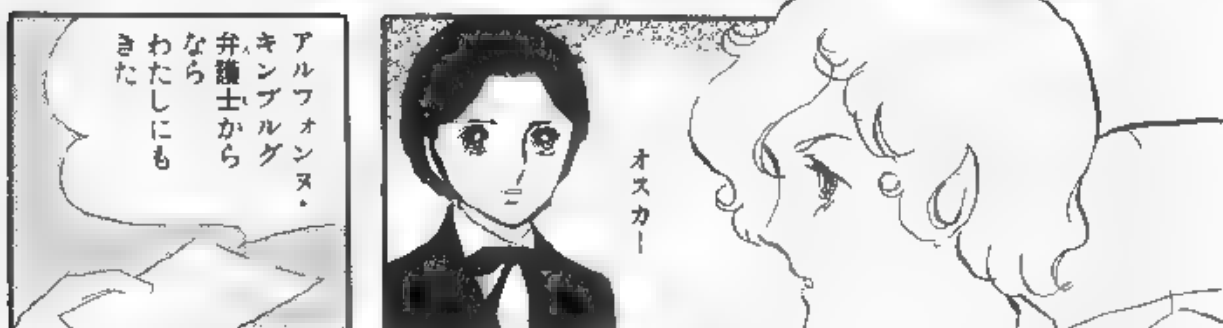
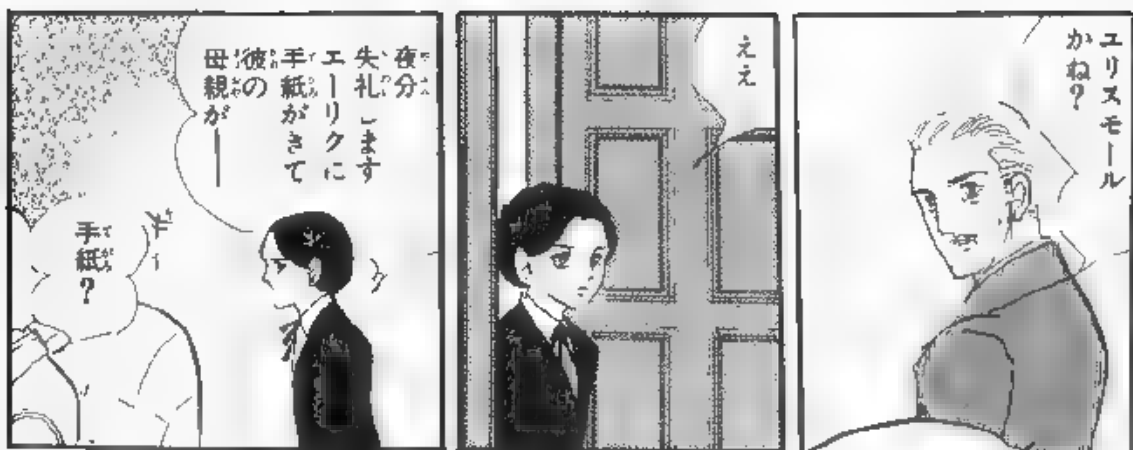


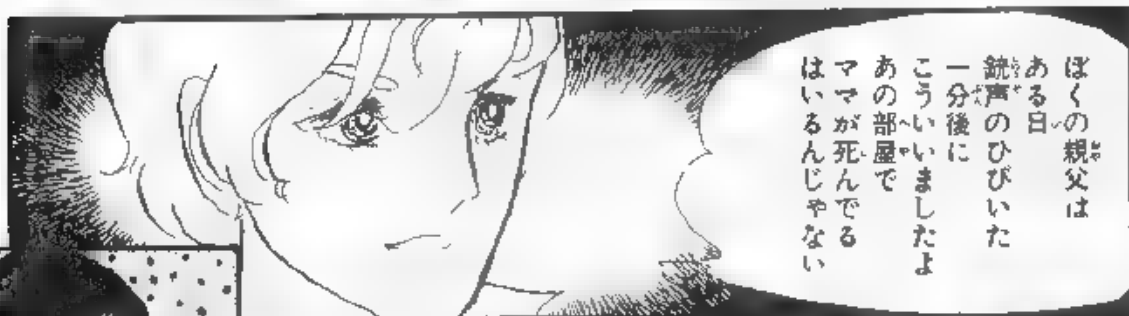
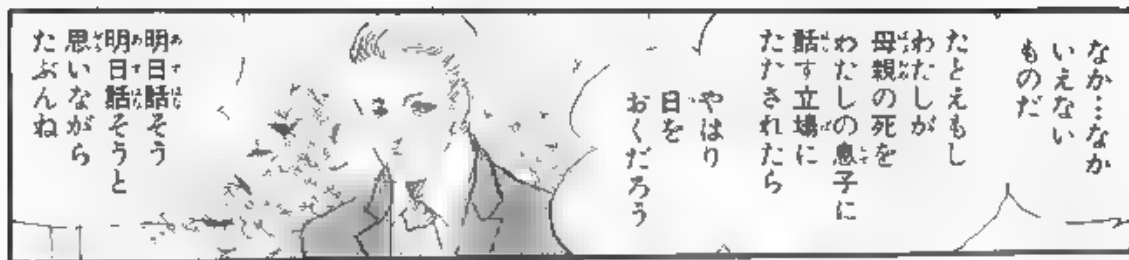
——よほど
母親を
愛していたん
だろうに——

かわいそう
に——

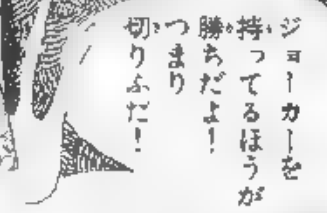
婚約指輪だよ

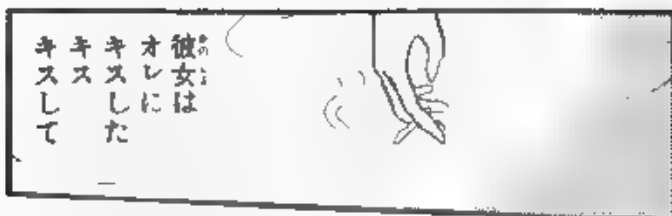








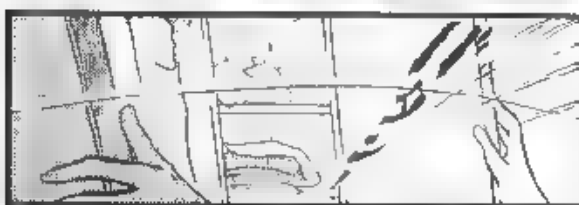
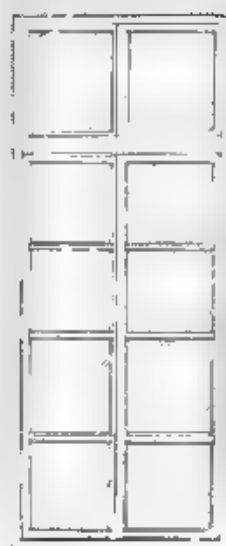


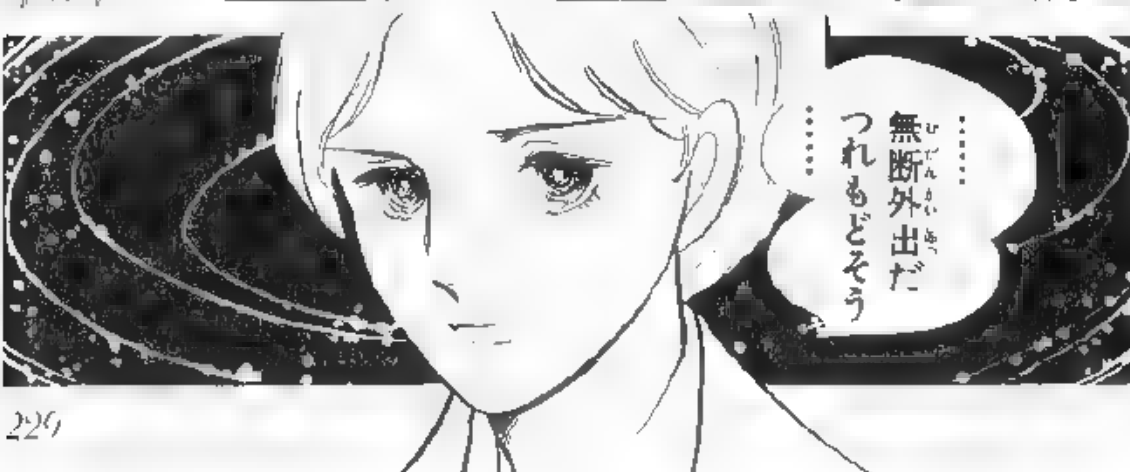
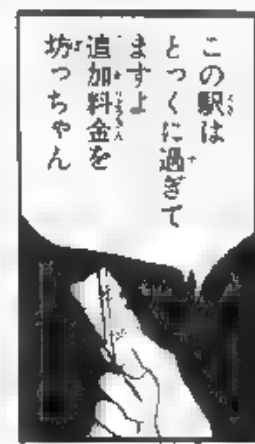
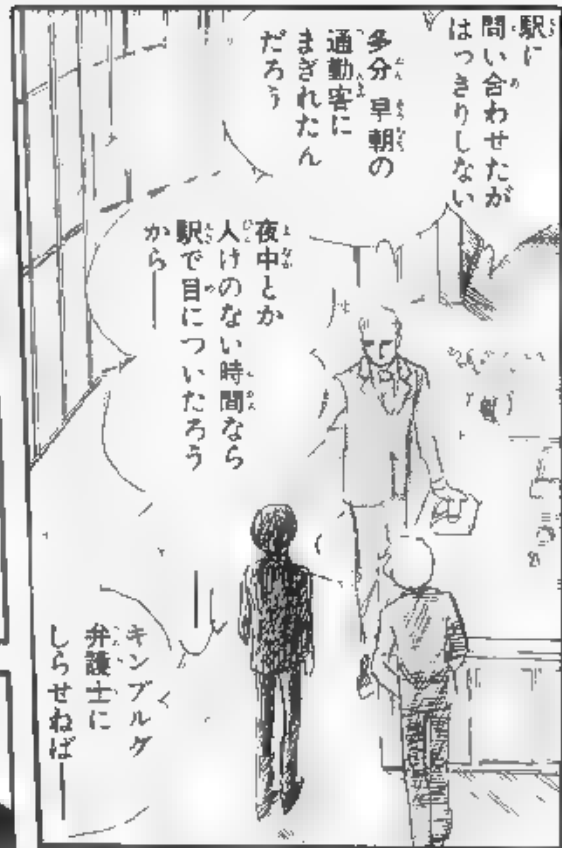
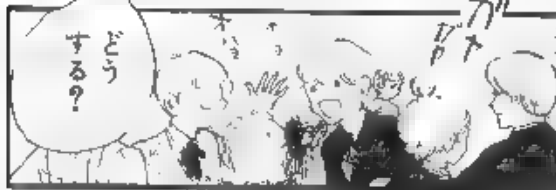
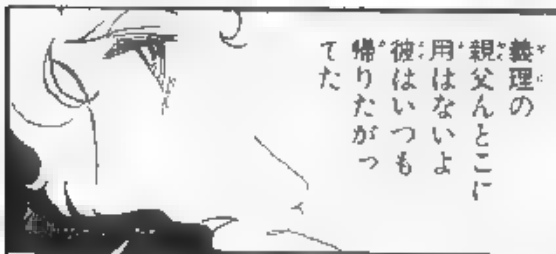


……やけに
とげとげしかった
さっきのオスカー

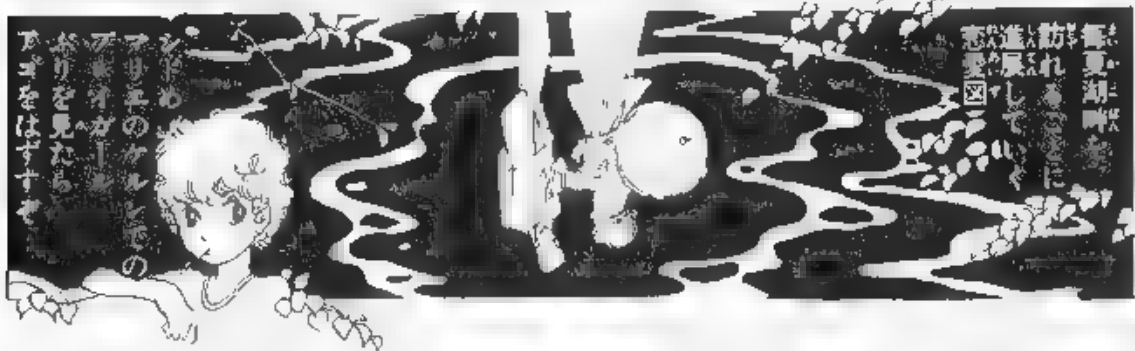












去年の夏だった
よりをもとそうと
マリエを追ってきた
恋人 ぼくの
フェンシング教師
だったっけーと
湖畔でもろに
対決
ジャーン！

ところが
彼氏あきらめ
なかった
ホテルをたのみ
ケルンへ
飛んできた
雪まみれになって
サンタのように
イブに現れた



かよいづめで
くどきにくどき
ついにこの春



結婚しようと思
うのだが……
賛成して
くれるね？

マリエと？
冗談じゃ
ないよ！



おやおや
わたしは
いたって
まじめだ
よー

なんて
いおうと
だめ！
恋愛なんて
つづきつこ
ないんだ

みんな
同じだよ
男の人って！



バカ
おっしや
わかった
ような
口きいて

も少し
すなおに
なったら



バロロ
バロロ
なにが
すなおに
なれたと
おまえに
いったい
マリエが
わかるか
ヒゲヅラ

マリエと
口を
きかぬこと
三日

うっ
うっ
うっ
ついに
マリエが
おれる





とてもためよー
わたしが結婚したら
あの子きつと
死んじやうわ
あの子時どき
ふつうしや
なくなるのよ

ユーリ
あの子は
わたしが
いなけりや
だめなのよ



なん
たるー

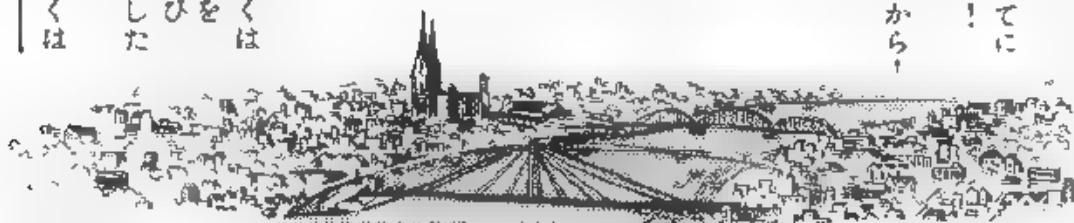
「わたしが
いなけりや
だめなのよ」

だめなのは
マリエじやないか
いつも泣きついて
くるのは
そっちじやないかーなんとー

かってに
すりや
いい
だろう！

ぼくは
家を出た
とびは
ぼくは

かってに
しろ！
後悔
するから！

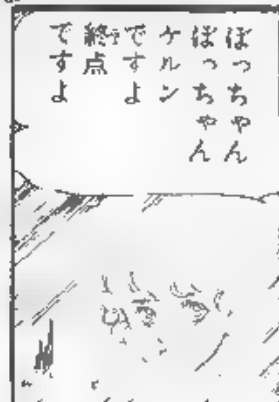


はぼく



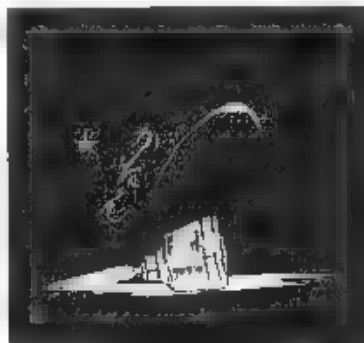
長旅
でしたね
おつかれさま

あ
ーありがと



ぼっちゃん
ケルン
です
終点
ですよ





どうして
結婚に
反対なんて
したのだ
ろう



マリエが
そうと
のぞむなら
なんだって
許せた
はずなんだ

それなのに
ぼくが
我をはって



ぼくだけの
わがままで
マリエを
しばりつけて
たんが

マリエを
必要としたのは
ぼくのはうじやないか

あんなに
手紙を待ってたのは
自分だったじゃ
ないか

だれが
ぼくの髪を
なでってくれる？



だれが
世界中で
いちばん
ぼくを
愛して
くれる？

マリエ



マリエ

マリエ

マリエ

マリエ

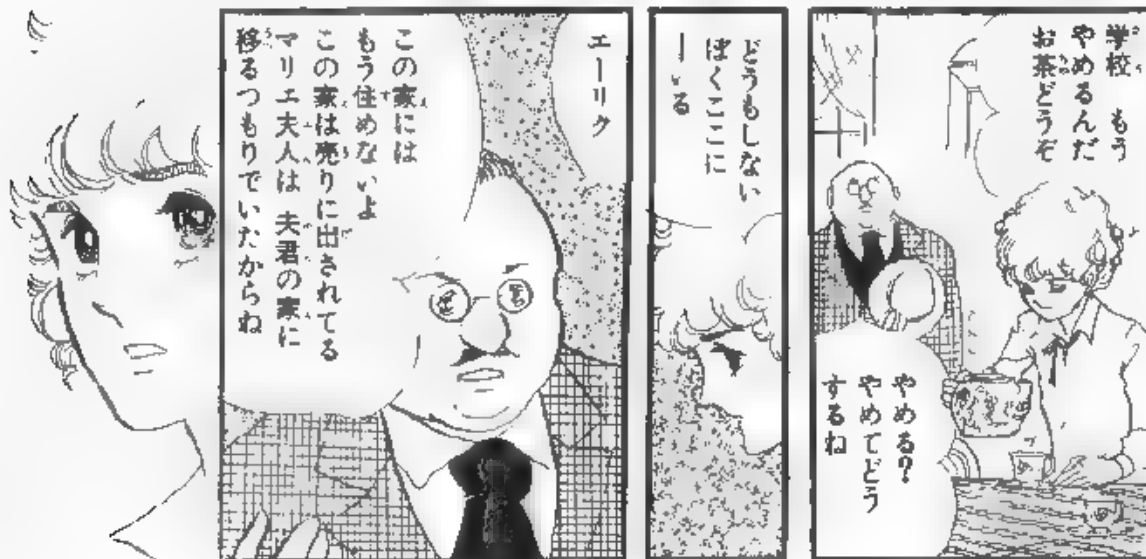
マリ

だれが
ぼくの名を
呼んで
くれる？

こうなった
今となっては









ぼくは
この家で生まれて
この家で育ったんだ
これは
ぼくの家だ！

他人のあなたに
なにが出来るの

この家は
マリエとぼくの
マリエと
ぼくの――



どういうこと！
――ぼくの
権利は――

いつさいない
遺産として
この家をいま
相続するには
きみは若すぎる

だいたい
ひとり暮らし
なぞ
ではせんよ



きみが
生まれたのは
ここじゃない
ハンブルグだ
きみの父上は
いま再婚して
そこに
住んでいるが



きみが生まれて
一年後に
ふたりは離婚した
ケルン は マリエ夫人の
実家なんだよ

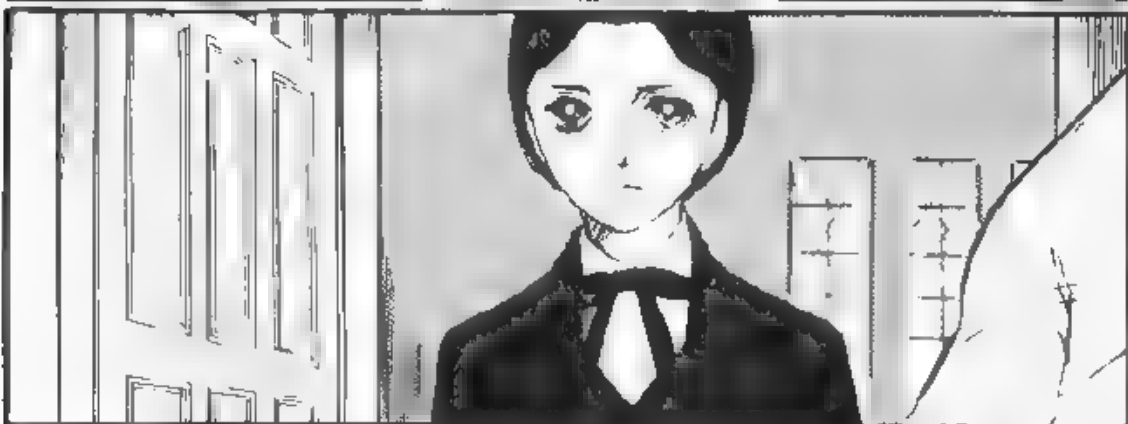
どうしたんだね
マリエ夫人はでは
なにも話してないんだね
きみのお父さんだよ

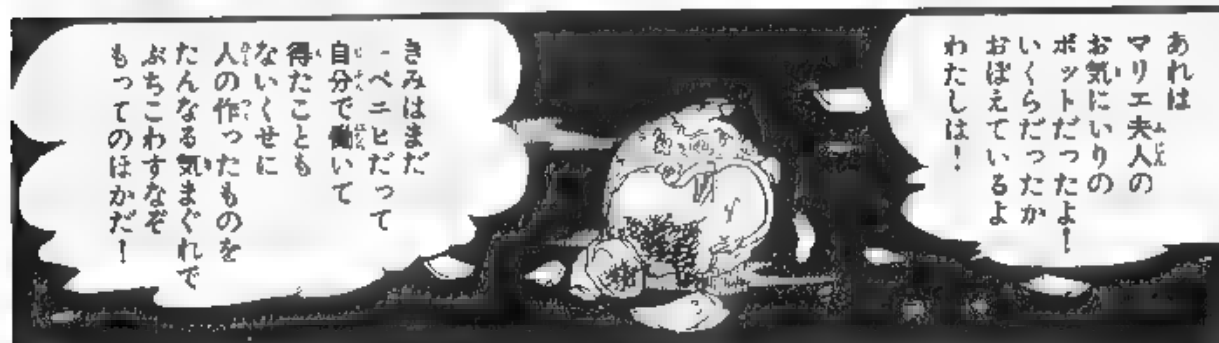


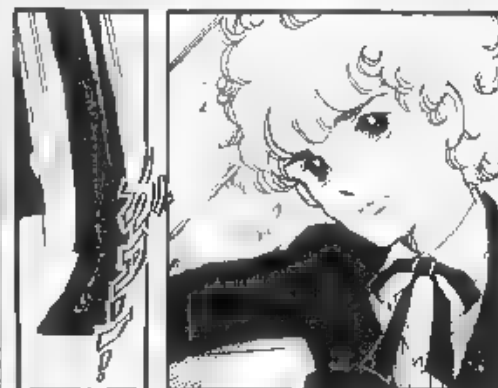
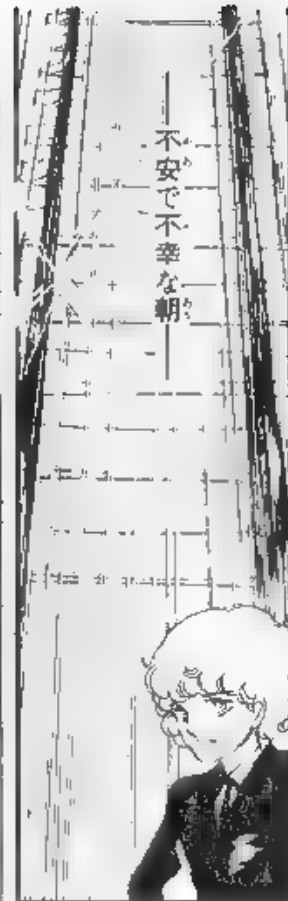
ぼくの？

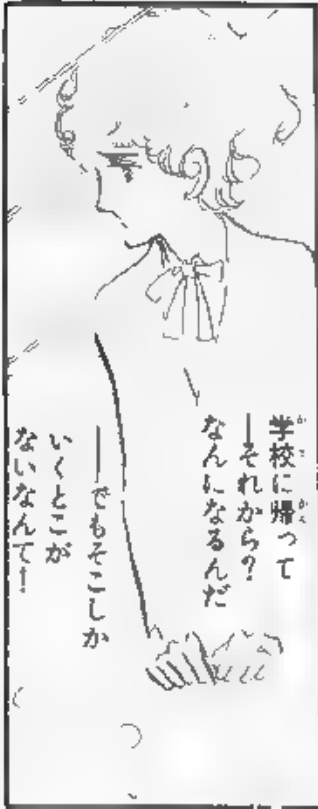
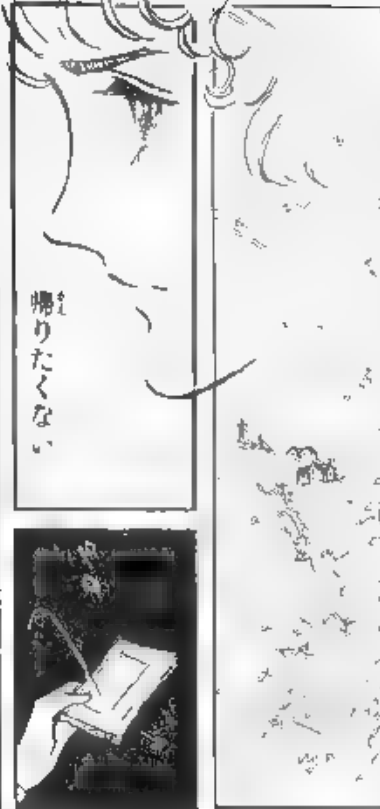
……の？









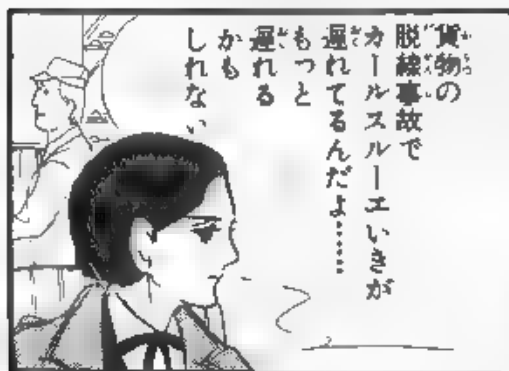


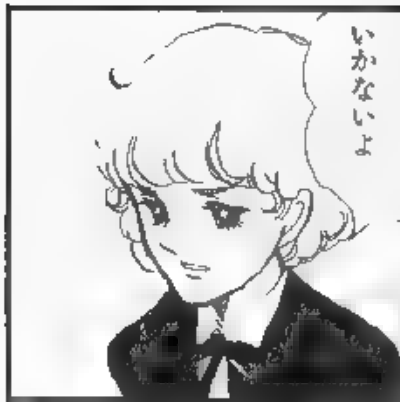
……それでも
迎えにきて
くれたんだ……
わざわざ
夜行で――













ウイースバーデンは
啼れていた
星が落ちて
きそうなほど

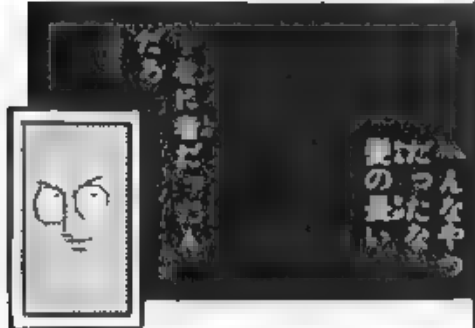


ほくには
ユーリがさっぱり
わからなかった

ひどく
いんぎん無札に
ふるまってる
かと思えば

髪を
さかだてる
ほど
おこつたり

山ほど努力して
まざりつけなしの
好意をしめそうとする



結局、彼はいい
委員長なのか
ろくでなし
なのか

無用なの
不器用なの















母もぼくも
あのかたには
すいぶん世話に
なってるから

なんの
世話さ！
きみなんで
がまん
してるの！

きみも
クソババアって
どなりや
いいじゃん！



それでは
問題の
解決に
ならない

たとえば
はくが
おとなに
なって
成功して

おばあさまに
負ってもらった
父の
負債を
ぜんぶ
返すとか
すれば
あのかたの
みかたも
かわるさ



そしてぼくは
かならず成功する
つもりだから

この北国での
南国に対するどんな
偏見の目にも
ただ時を待っていれば
いいのさ

だれでも

偏見……！
だれか……！


ザクセン
シュワーベン
ハイエルン
フリーセン
フランケン
チューリンガー

ドイツ国の
基となった
六つの種族

そこに
ぼくの父は
いなかった

父の死後初めて
対面した彼女の
ぼくを見た目……！

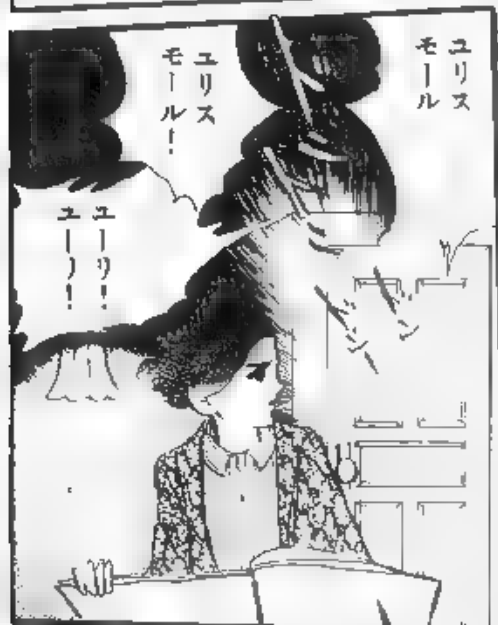
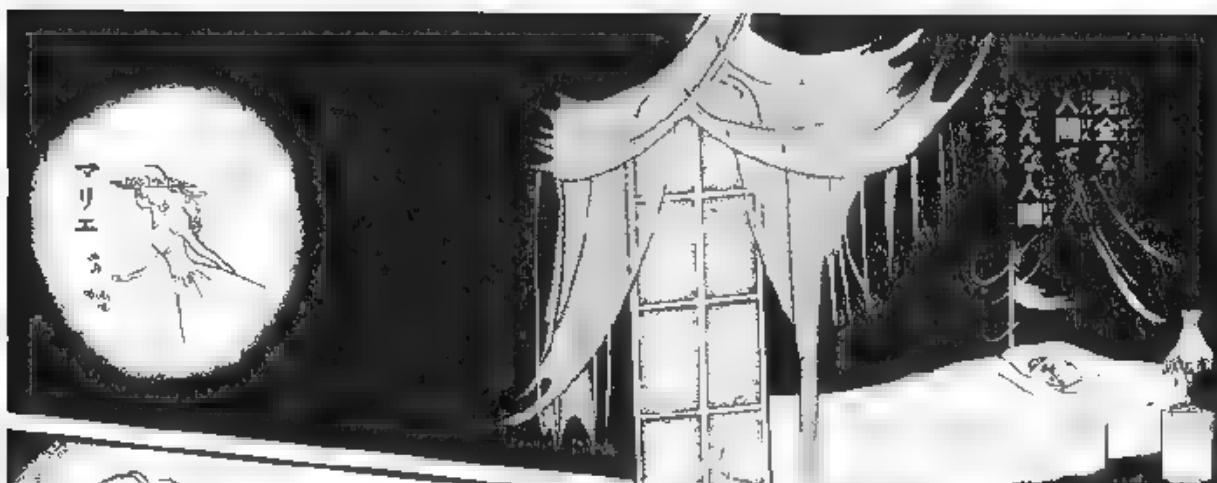




ユリスモールって
聖堂の絵のような
顔してるよ

だれがいったっけ？
イタリァ・ルネッサンスの
天使たち——

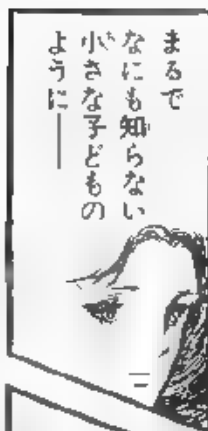
ほくは
異邦人じゃない
ユリスモールの気持ちは
わからない







まるで
なにも知らない
小さな子どもの
ように――



なくして
しまった
小さな
子ども

泣いたり
笑ったり
おこったり
――
彼の
感情は
すなおで
ぜいたくだ



なんの
てら
いも
ない……



さみぼうが
さらい？
頭にきてる？
トーマに
似てるから？

今はそんなこと
考えてないよ……
きみは
お母さんを
なくした
ばかりだし……



いいや



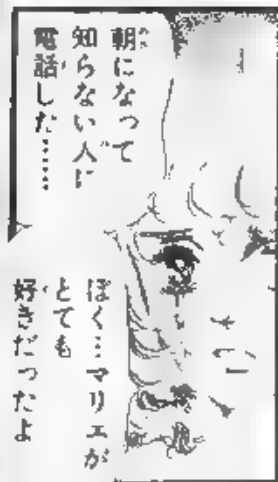
きみぼうが
夜中に
こうしてゐるの
……めいわく？



きみ
同情されるの
きらいだつて
いつてたけど
ぼくは
好きだよ

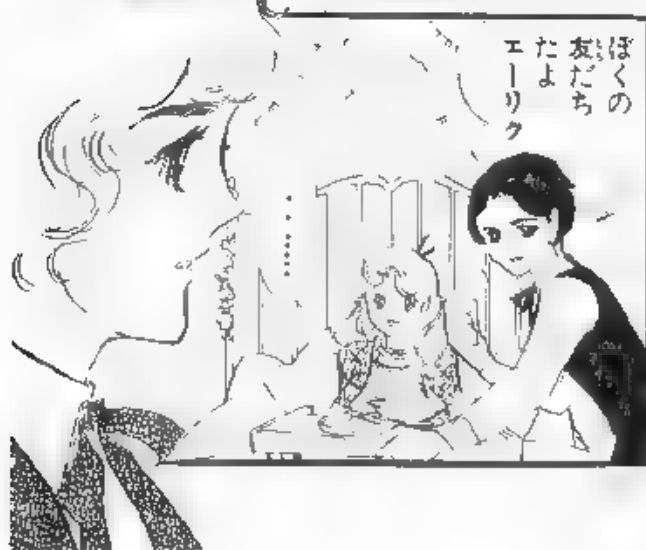
だって
そういう感情って
とても
やさしいもの

昨日は……ずっと
ひとりでいたんだ
マリ、マリエの
部屋で

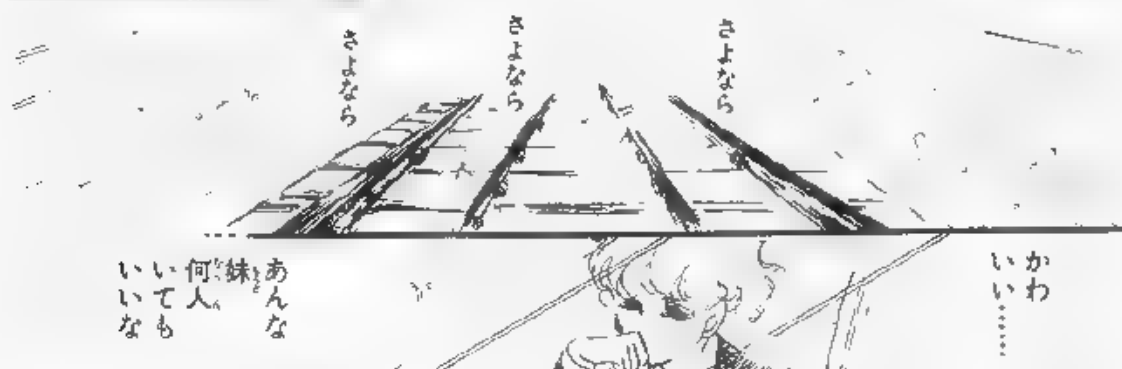


泣いているのは
マリー... きみ...
エーリック...?











きみ……
やさしいね



ん……



でも
よかったよ
指がやせたんだよ
成長期でも
あるし



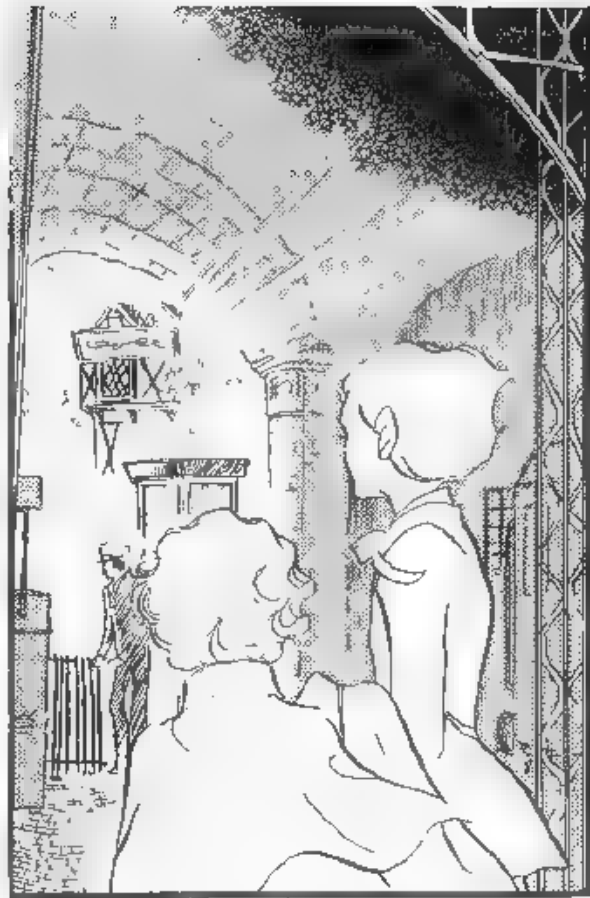
あれ
赤くなった
ユーリが
赤くなる
なんて



つぎの駅だよ

あの鰯
家へ帰ろうという
ひとつことだけを
考えて
この恥へ立ったのは
おとといなのよ

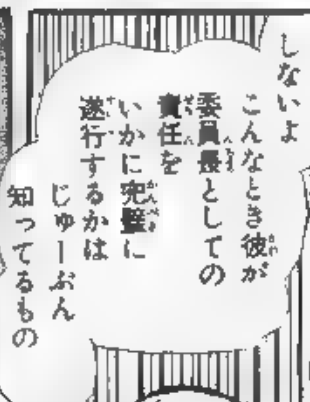
もう
ずいぶん
たった
みたい



ウィース
バーデンから
一番でくると
思ってたん
でね
——いいカンだろ
——お帰









エリック
方程式ってのは
式が必要なんだよ

ほんと?

かんたんだよ
xが3で
yが33だ



彼の目が
エリックを
追うことは——

トーマを
忘れられない
かぎり



うん……
ユリスモールって
そんなーそうだね
うん オスカーきみの
いった通り——



うん
ずっと
やさしかった
どなられたのは
一回きり
ギーゼンの駅で

旅行中に
見解が
かわった

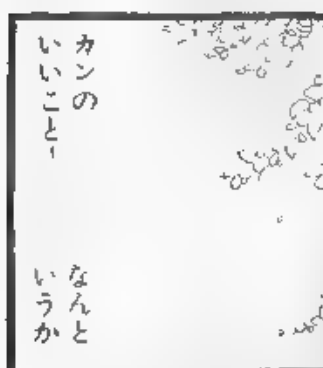


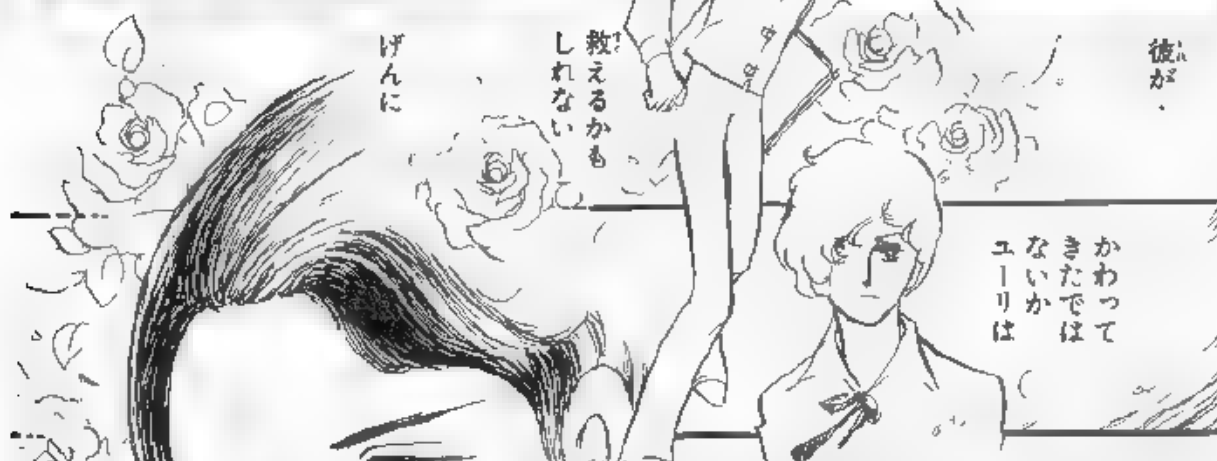
とこで

ル・ベベが
泣いたか
さっしがつく

まあ
わかって
たんだ
——さいしょ
から







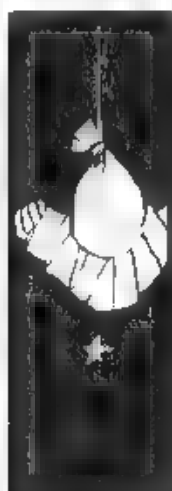


あのころは
六人部屋
みんなで
さわいだ
きみも
さわいだ





そうかも
しれない...



ユーリは
彼を助けた
かわりに
自分が
ころげ落ち
たのだ



階段で
ふざけて
ひとりが
足をすべら
そうにな
った

こんなことを
思い出す...



それより
ここで
勉強する
つぎの週の物理は
きみをぬくよ

同情をひくようで
いやだ。助けられたほうも
気がめいるだろう



ユーリ
すごいや
だ

ユーリ
もう
走れるの



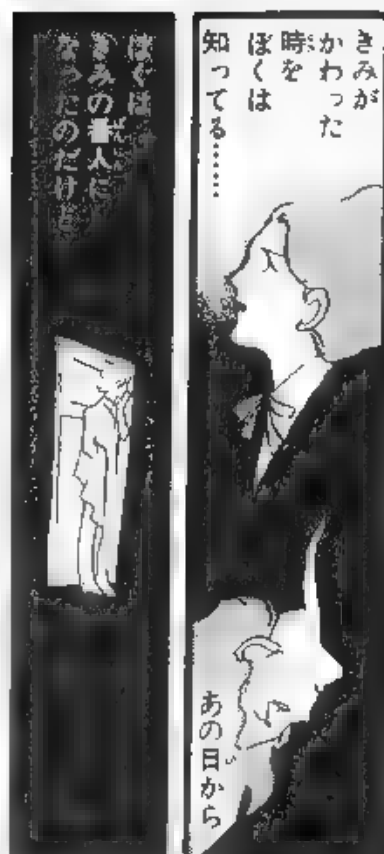
その通り
だった

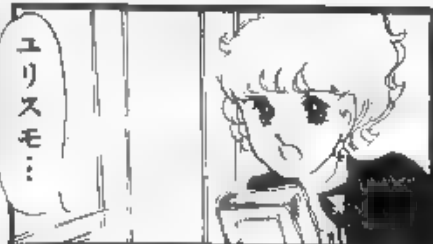
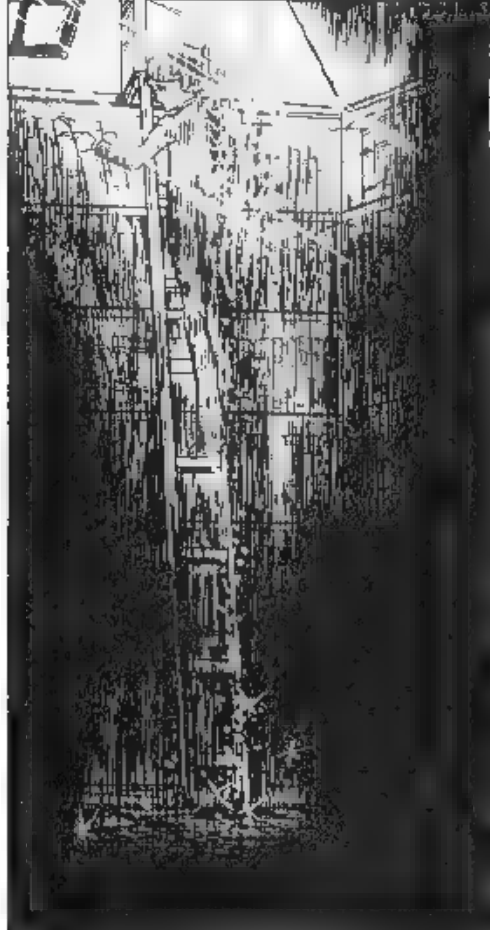


彼にとつては
そのほうが
らくだったの
だろう
彼はつねに
委員長だったから

外に出ないの

足を
引きずって
かつこうなん
て見せられ
ないよ







マリエ
聖堂のマリアは
あなたに似てます

でもそれだから
ぼくが学校でなぜか
心がやすらかなのとは
すこし違つようです





ああと
つけたの？

なにも……



ホセが
さがして
るってさ
なんだい
きみさ

貸し出し
ないんだよ 今日
なにしてんのさ！



そこに
いるのだれ
エーリック？
なにしてい
るんだ？



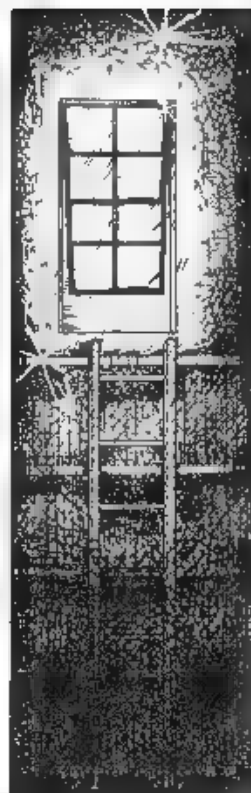
出てったら！
外見てんだよ
ユリは
こうるさいぜ
ここ 彼の
管轄だから
な！







なにか
透明なものへ
向かって
(性もなく
止体も
わからない)

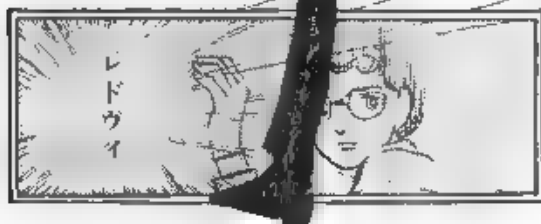






難解なる
本の中に
ひっそりと
あるなんて
こんな恋文が

しかも
……
ユーリあての
……
ユーリ……！



ごういんに
借りてきて
しまった





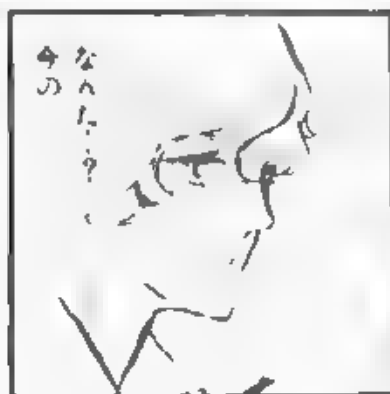
だれが
かいたんだろう
レドワイ
んあうか？

それとも
ほかの
たれか

だれ
か
ユーリを

たまって
どこかで
ユーリを
見てる

死んでも
いいほど
ユーリの
ことを



なんたう？
今の



オスカー
オスカー
オスカー



エ
リク

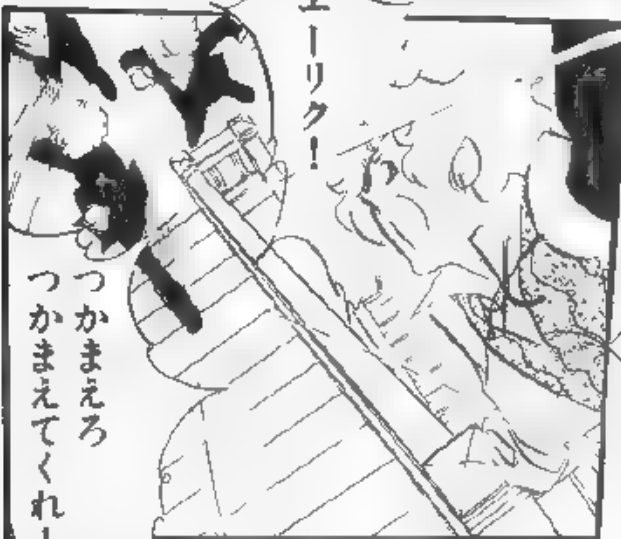


なんても
ないよ！
これ？



ただなら
見せろよ
もったい
ぶって！

なんでも
ないったら
ただの
本！



エーリック！

つかまえろ
つかまえてくれ！

ため



わっ
ど……



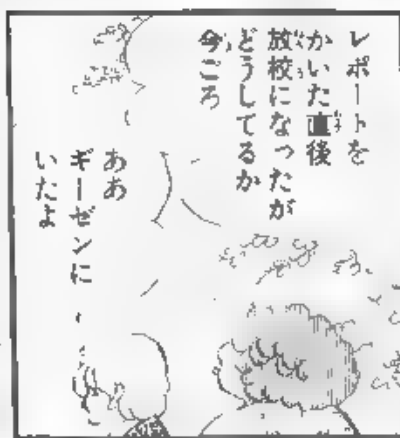
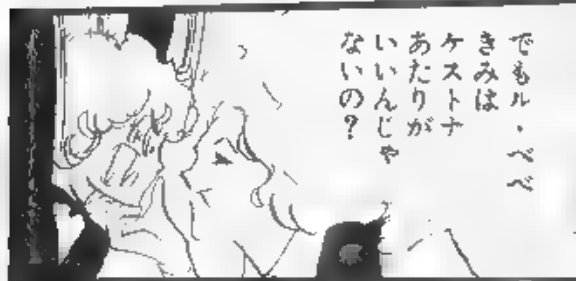
かくこを
決めた
もうちよつと
おさえとい
てくれよ

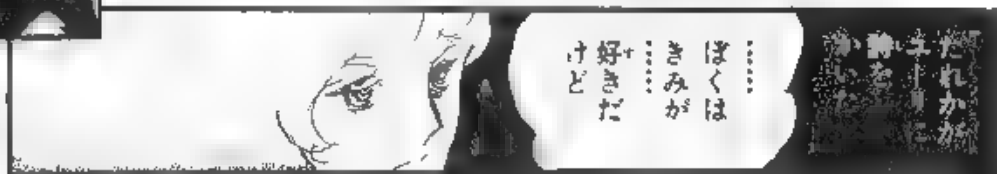


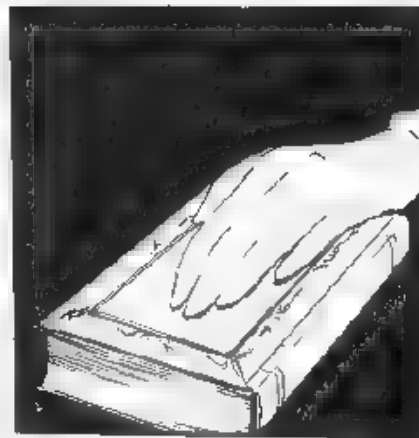
こんちやす

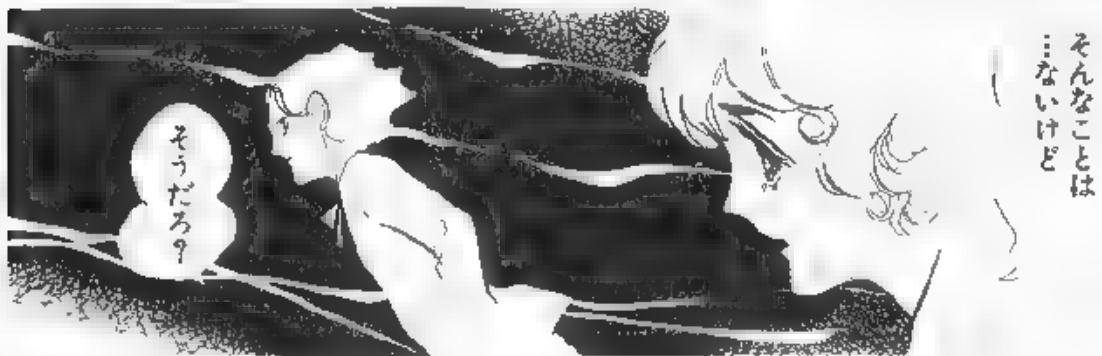
ダンケ
ハックス！

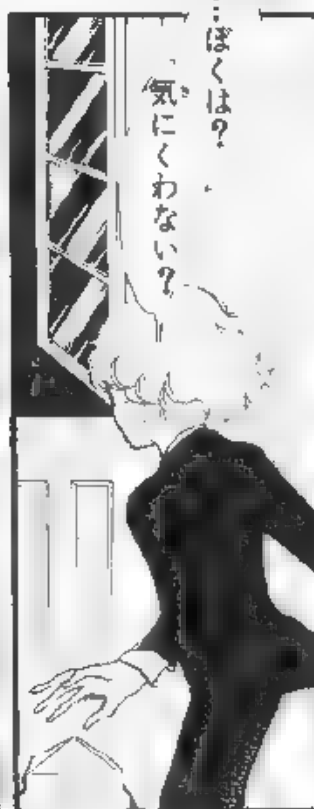
いよう
おひさ
しゅう

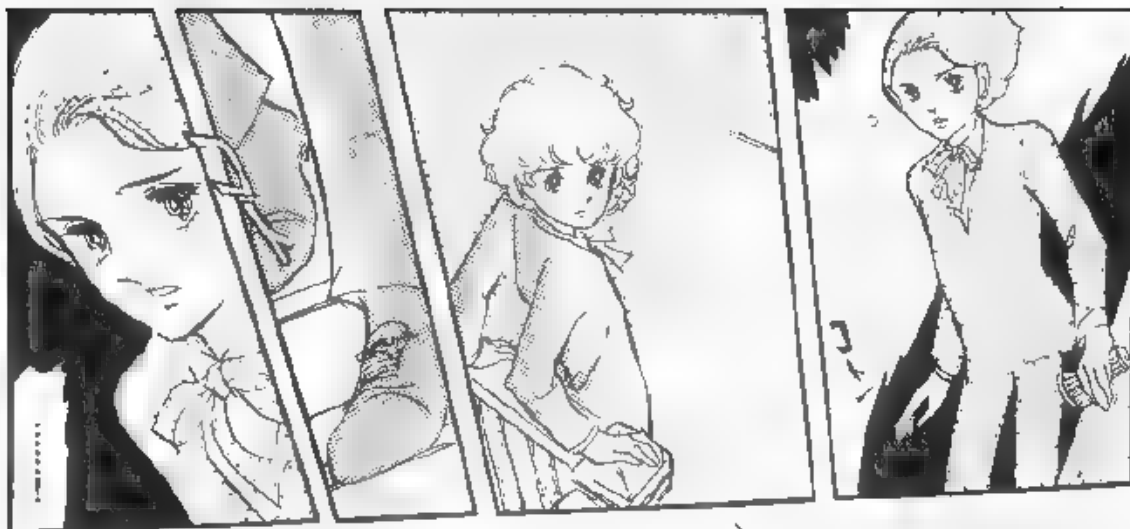






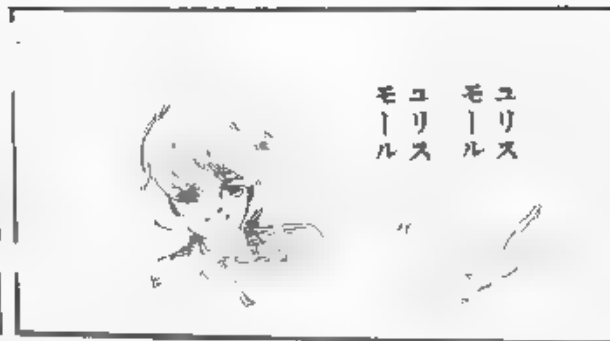








少しも
ほくを
好き...



ユリス
モール
ユリス
モール



好き
ひとつのうた
ひとつの明るい
風景が好きように
やさしい思い出
小さなものを
むつむつように



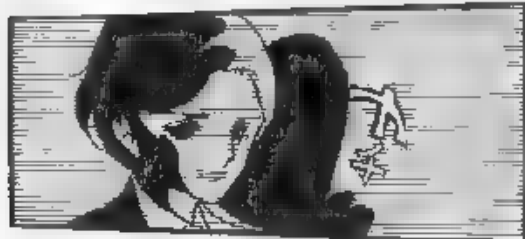
すつとほくは
おそれてきたの
だけれど

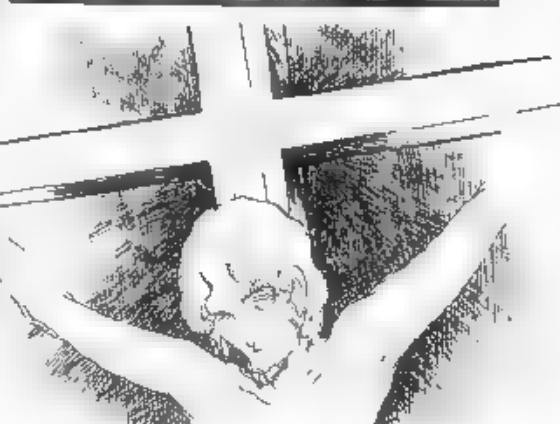
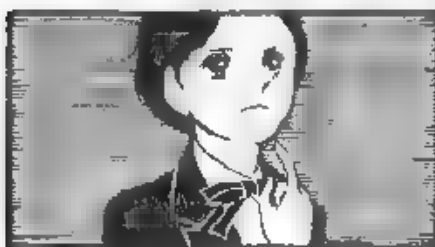
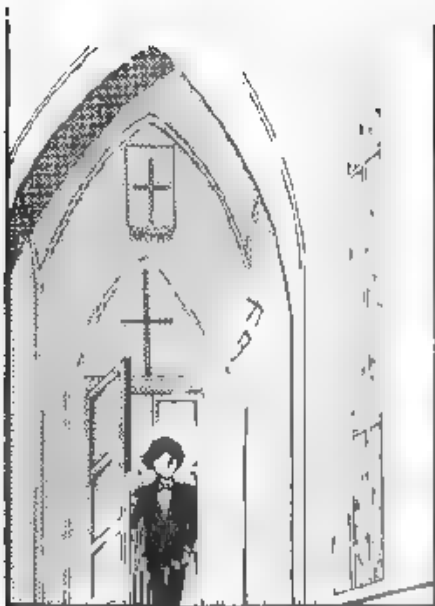


ほくは
おそれてきたの
だけれど

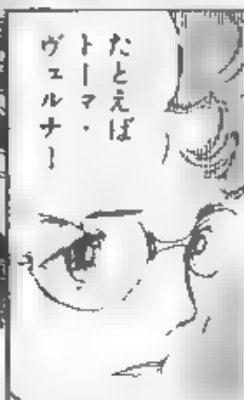






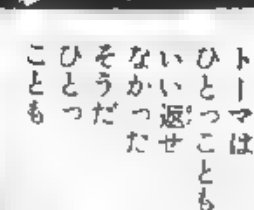












ず、と
考えた

ぼくの、と死と
それからひとりの
友人 ユリスモール、と

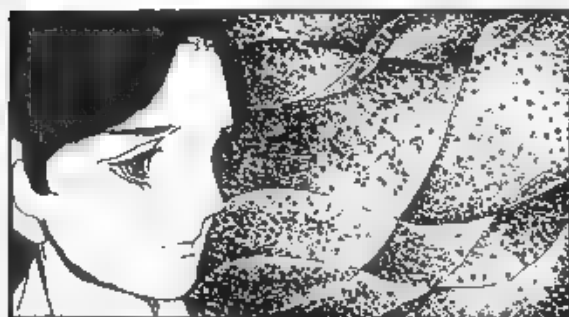
ぼくが彼を
愛したことが
問題ないじゃない

彼がぼくをどうしても
愛さねば
ならない

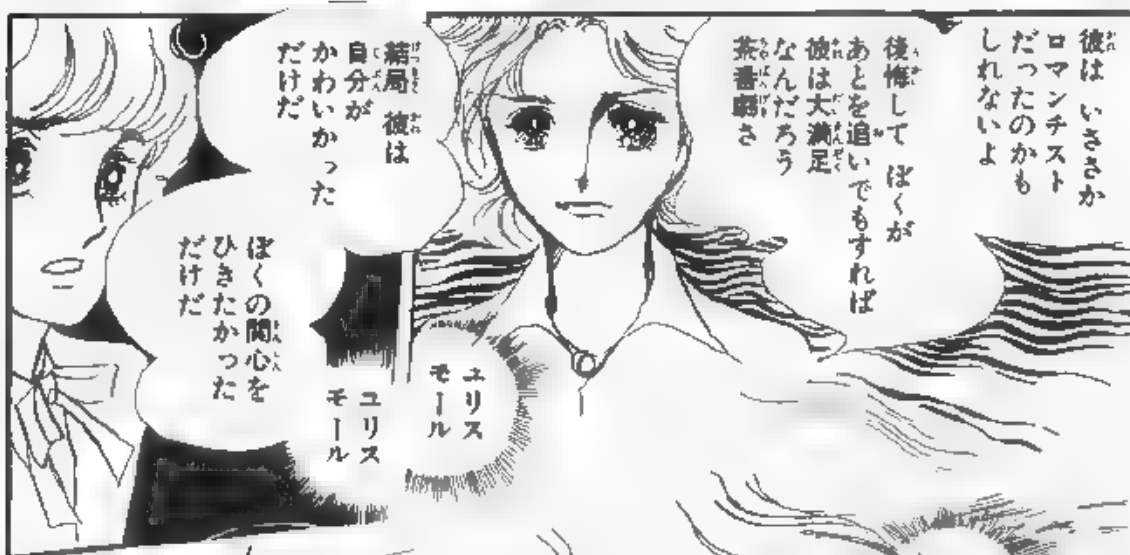
そのためには

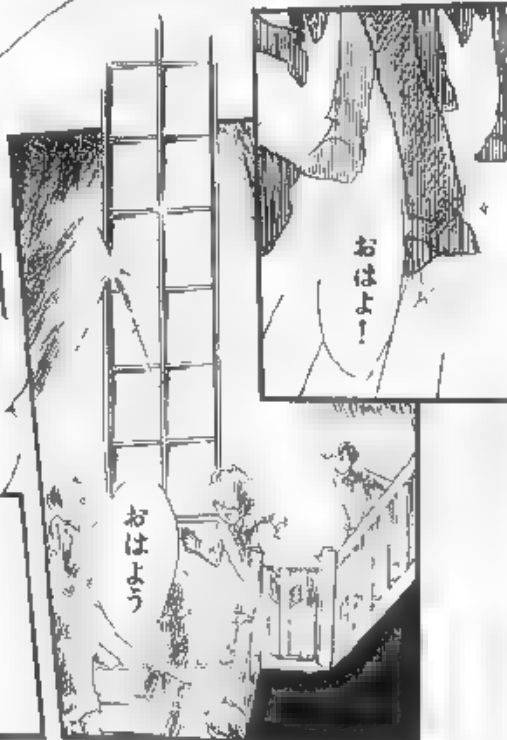
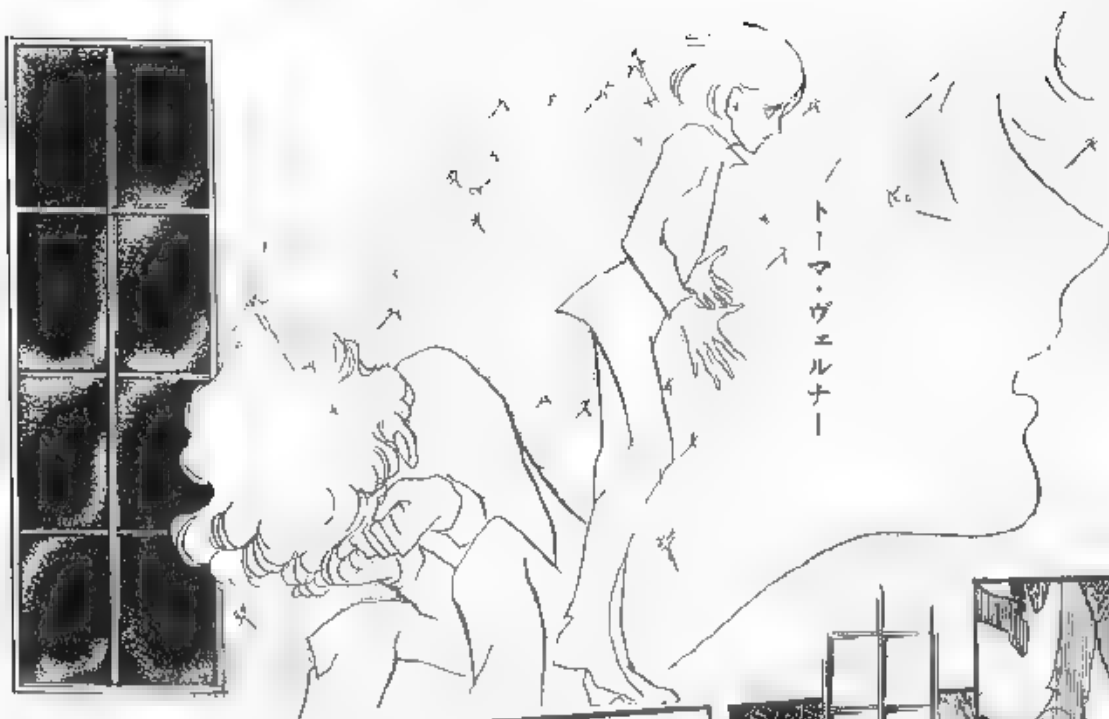
そのため
には













オスカー!!

エーリク



きみだって
知って
知ってたんだ
……トーマ
のこと



エーリク



なぜユーリは
信じなかったの!
なぜトーマが
好きだって
いった時
信じなかったの!
なぜトーマを
死なせたの!

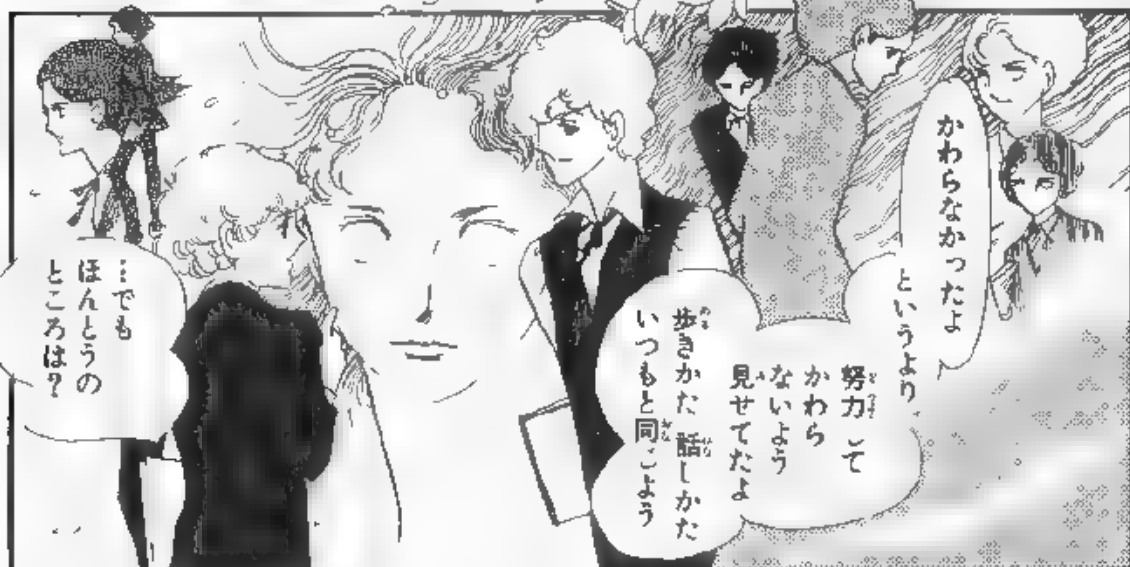
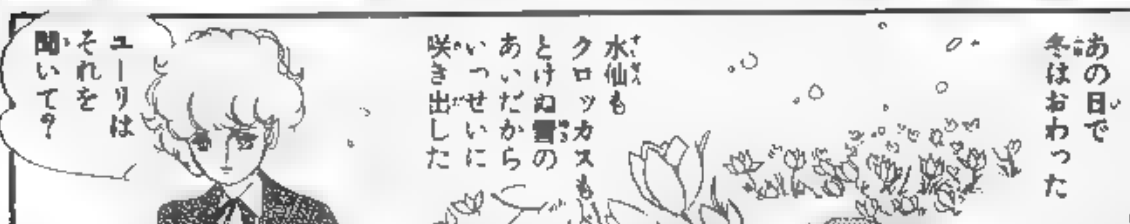
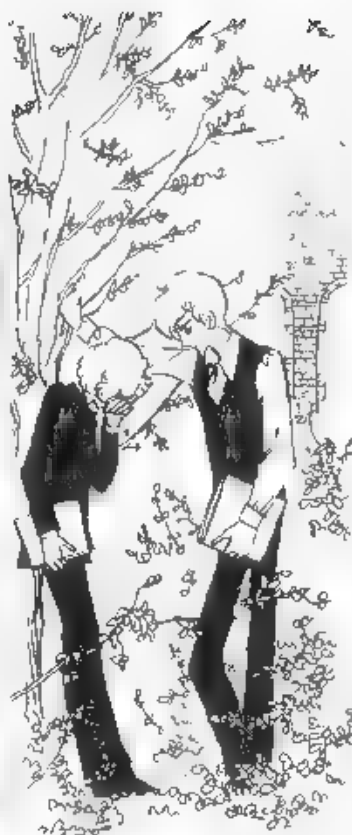


エーリク!

だからユーリに
近づくな
って
いったんだ
だから



な……ぜ

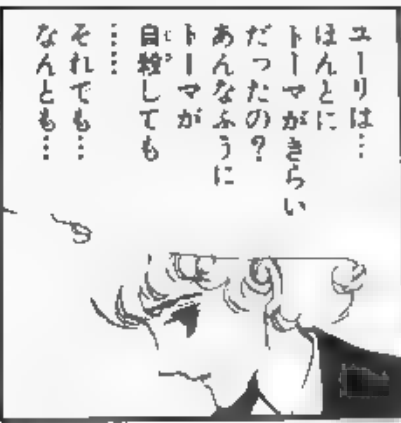


ほんとうの
ところ？

ほんとうの
ところなんて
だれに
わかるかい



わかったところで
どうなる？



ユーリは…
ほんとに
トーマがきらい
だったの？
あんなふう
にトーマが
自殺しても
それでも…
なんとも…



たとい
某書
トーマを

あの

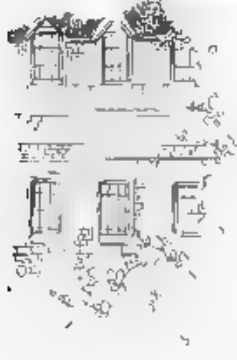
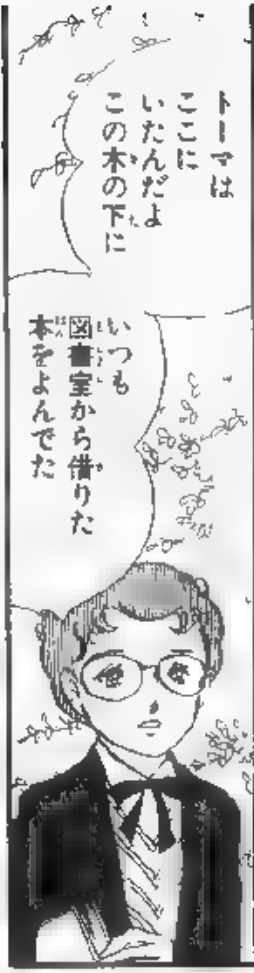


アンター!

あ

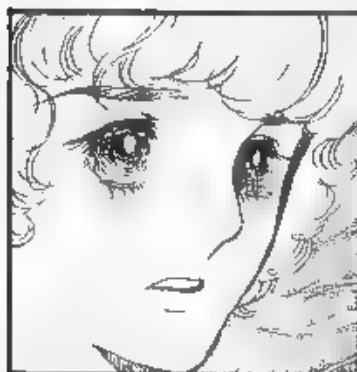




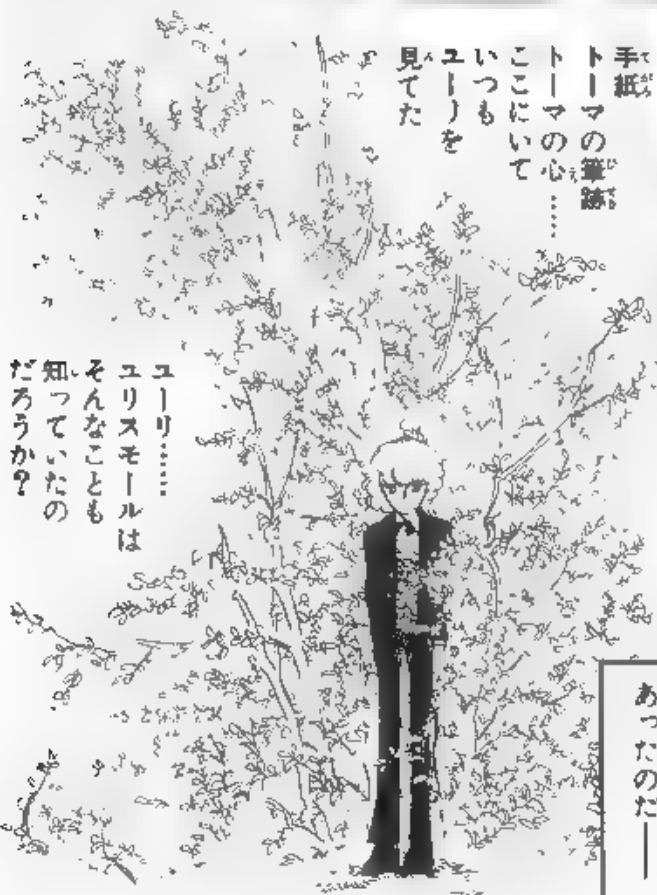
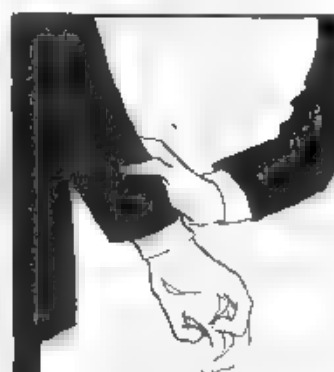




さあ
教室に
もどろ
う予
鈴が
とつく
な
って
る



ごめ
ん



ユーリ……
ユリスモールは
そんなことも
知っていたの
だろうか？

手紙
トーマの筆跡
トーマの心……
ここにいて
いつも
ユーリを
見た

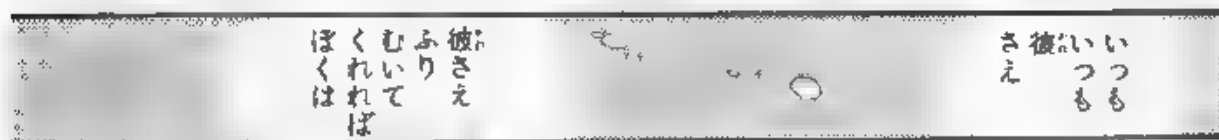
借りた本のあいだに
はさみ忘れられ
たまま



なぜほくに？
それとも
トーマに？



レドヴィがそうして
トーマをたどり
見つけ出すまで
あれはひっそりと
あのひとすみに
あったのだ――





気をつけて
ヘルベルト
事故が
起こってから
不注意では
すまされ
ないよ……

む



おっと!

がッ!



たった今、
ユーリが
気をつけろって
いったばかり
だろ エーリック!



かたづけるよ!



かたづけて

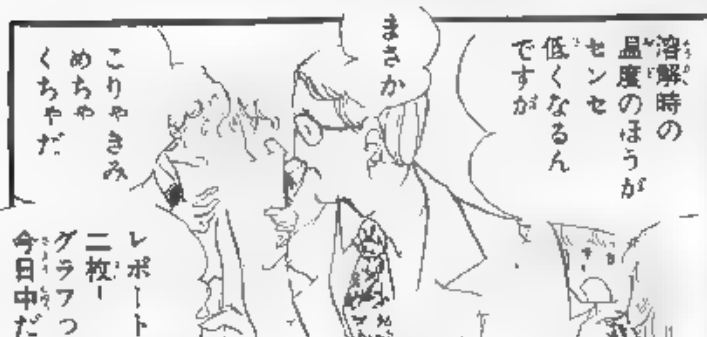
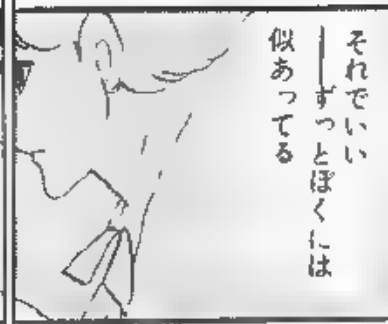


ユーリなんて
冷血漢で——
コノヤロで
もうめちゃうちゃ
なんだから!

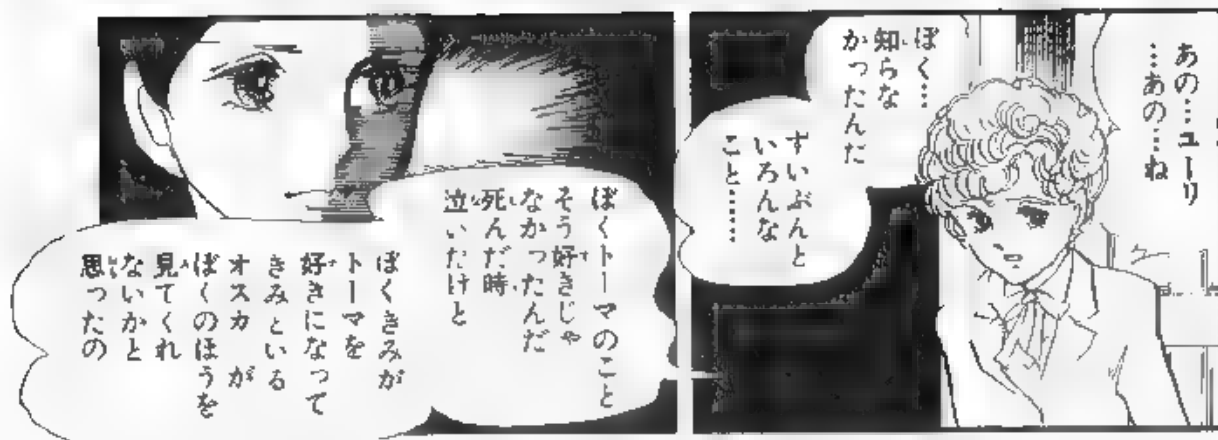


頭っから
ほくのほうが
悪いって
思ってる
ようだな
てめえらは

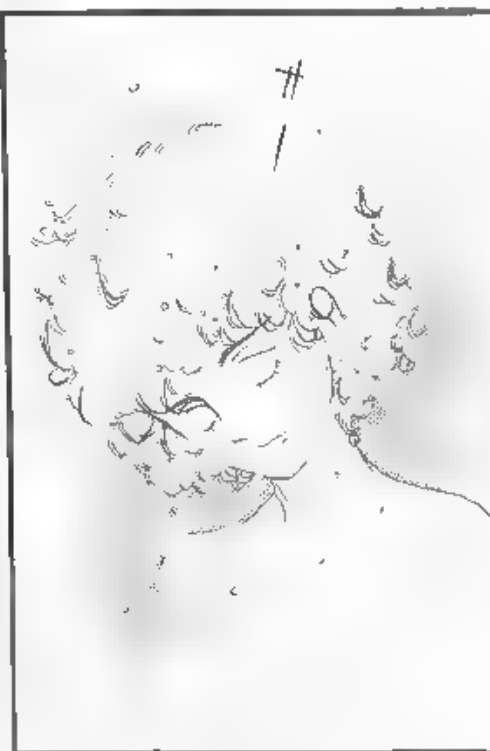
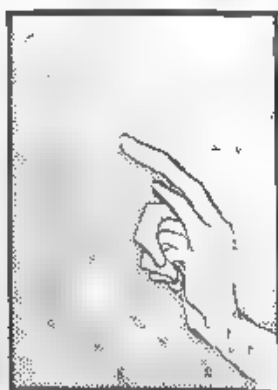
なんだい
なんだい
きみまた
ケンカした
の?
ユーリと

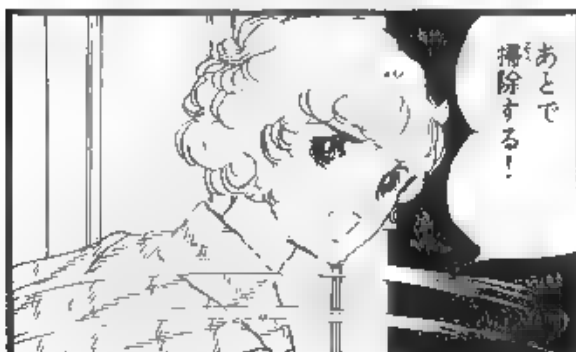














ユリスモール
ユリスモール
おまえ

また
指のあいだから
すりぬけてゆく
失うものが

今度はこそ
はつきりと
見えるだろう
今度はこそ



あまり
きかんだろう
いたむか?

いや



らくだよ



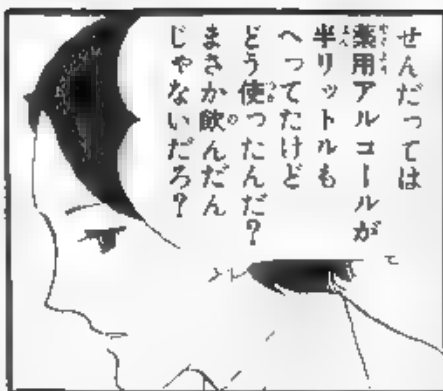
へんなやつだな
ユーリ・シド
そのケガを
おして

息子でもない
ガキにあいに
いくたあ



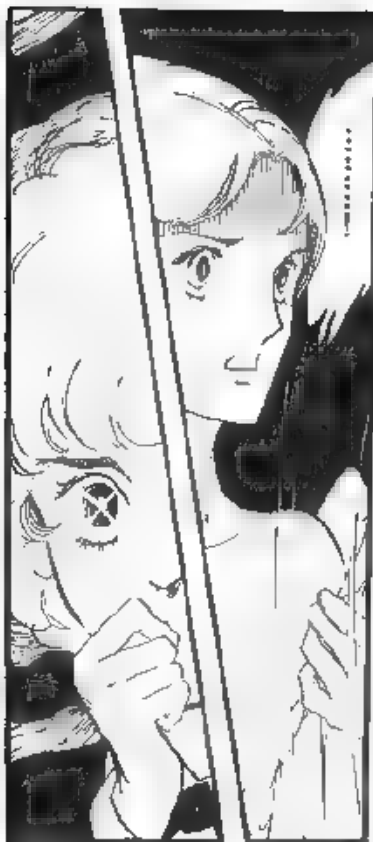
……
遺言だ
マリエのね











それら友人のひとりが心配して迎えにきてくれたよ
ユリスモール



友人をつくること信頼を得ること



友人をつくること信頼を得ること



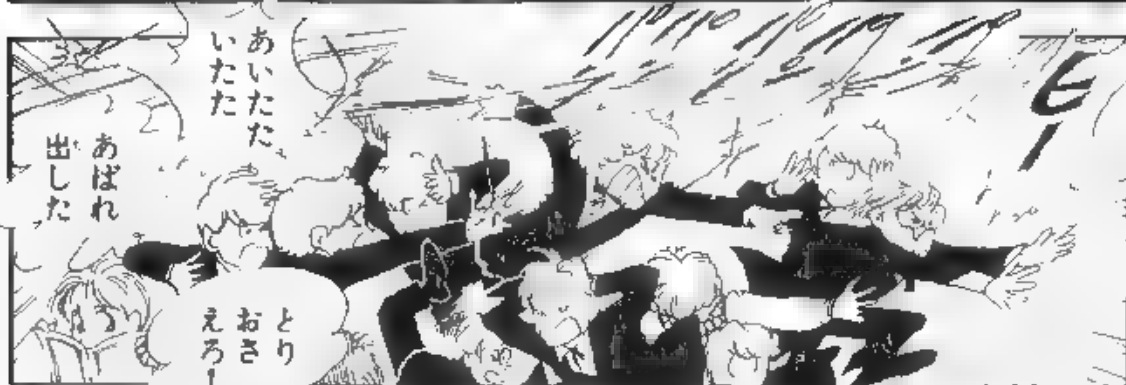
お世話かけました先生……!

なんの……



はく悪気なかつたんだ……よ
ユーリ











ないんだよ



歩けるよ

あの…足ないの？
かくしてるの？



…歩けるの
…？

すこし歩こう……
カソリンのにおいは
好きじゃない
あの斜面がいい



パリで動けなくて
病院にいたらね
キンブルグ氏から
手紙がきた
弁護士ね

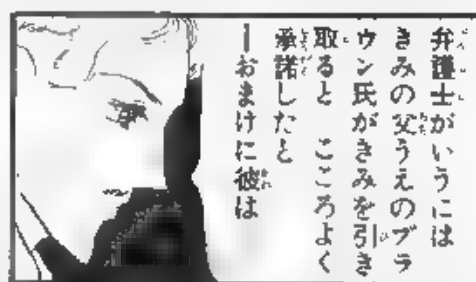
わたしは
それで

パリの
ドカチ頭の
医者どもは
退院を許さんかった
ので…ボーデンから
友人をよんで—
まあきたわけだ

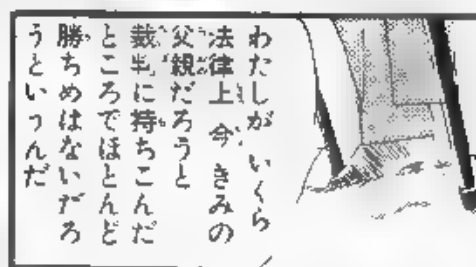


…ほくを
引き取る？
あなたが？

そうだよ
いけないかね？



弁護士がいうには
きみの父うえのブラ
ウン氏がきみを引き
取ると、こころよく
承諾したと
—おまけに彼は



わたしがいくら
法律上、きみの
父親だろうと
裁判に持ちこんだ
ところでほとんど
勝ちめはないがろ
うといっんだ



なんの勝ち
め？
なんの？
もちろんきみを
引き取ることに
ついてだよ

なぜ？
あなたが
愛してたのは
マリエで……
ぼくじゃ
ないでしょ

おお
わたしはたいそう
マリエを
愛していた
それから
きみも
たいそう
マリエを愛していた

だから
わたしたちは
いっしょに
暮らせないかね？
わたしたちは
生前の
マリエのことや
彼女が
すばらしかった
ことやほか
いろんなことを
隔れないかね

まだツエだが
そのうち義足がつく
そうしたら
わたしは
きみと
歩いたり
走ったり
泳ぐことも
できるよ

よい
フエッシングの
相手には
なれんが
そうだね
きみに絵を
教えることが
できる

ぼくがいると
しゃまだよ

なんの？
じゃま？

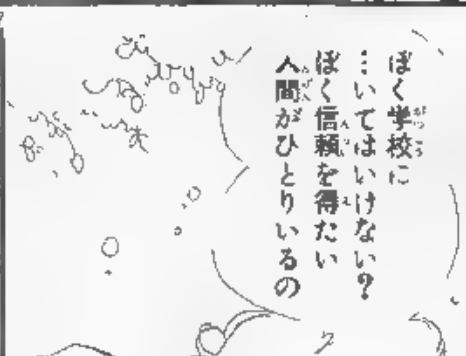
マリエを
忘れるのに
あなたまた
きつと
だれかを
好きになる
でしょ
あなた
人間だし

その時は
その時
浮気したら
きみに頭をさげて
許してもらうさ

ブラウン氏が
きみを引き取るとい
わたしはいやだ
きみまで失うのは



わたしと
いっしょに
こないか？
わたしが
きらいかね？



ぼく学校に
いてはいけない？
ぼく信頼を得たい
人間がひとりいるの



休暇までにわたしは
もつと歩く練習を
しておくよ……



……ぼく









きみが好きだから
ここにいます

ユーリはなにも
いわなかった
表情も
かえなかった



だまって
懐中電灯をとると
点呼に出ていった
オスカーは——
ユーリが扉を開くまで
待つといった
ほくも
待つべき
なんだろうか？

好き、という感情に対して
ほくは幼いころからなんの抵抗も
持たずにきた

ほくはマリエが好きだったし
ほかにもいろいろなことがらを愛していた
愛するものは、それがなんであって同じだった
本でも家でも小鳥でも歌でも
それらのすべては、根本でつながっていて
さひしさゆえに人は愛さずいられないと
いう気持ちには

ごく自然なものだったのだ、が

そんな簡単なことが
なぜユリーにはできない







うるせえな
バーロオ



待てよ
エーリック
恋する
乙女



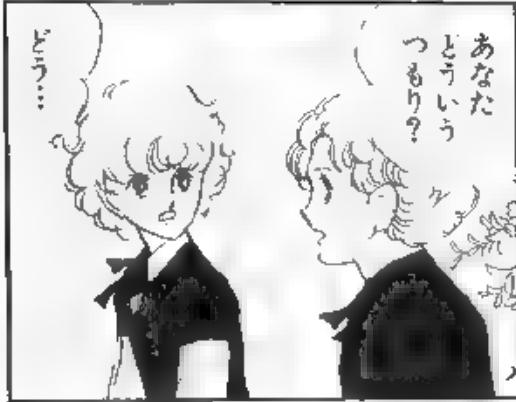
忠告
ぐらい
きけよー
よつぽど
綿密に
せまないと
落ちないぞ
そうそ
相手が
相手が
だから



で
きみ
心がわり
したの
いつ？
い
や
や
よ
も
好
きの
うち
ケンカばかり
してたのにさ



話
が
あるんだけど
エーリック



あなた
どういう
つもり？
どう……

ぼくはただ
ミサの時
ノーベに
ユーリが好きだから
学校に残るって
ひとこといった
だけだよ

あつというまに広がって
こんなめにあうなんて
思わなかったもの！

だめだよ
あなたいくら
ユーリを
好きだって

でもぼくは
本気だし
へつに悪いこと

これじゃ
まえと同じだよ
トーマの時と

トーマは
死んじゃったのに

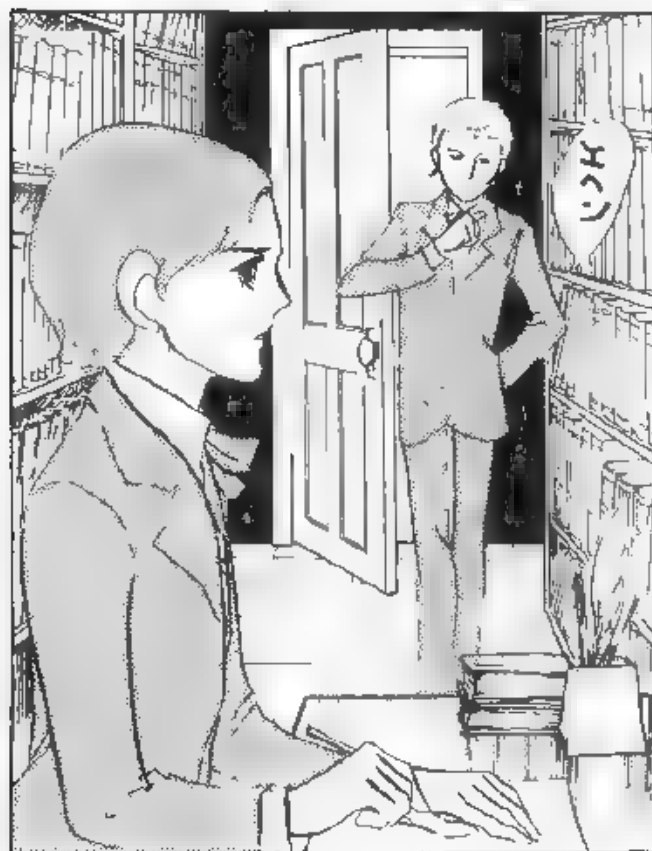
しかも
なぜかってことを
ユーリは
知ってるのに

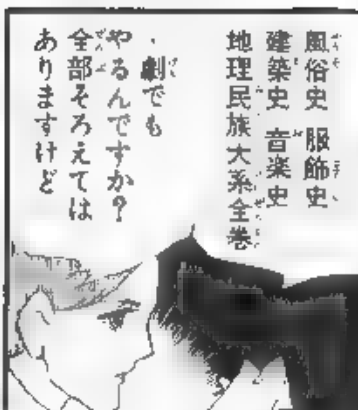
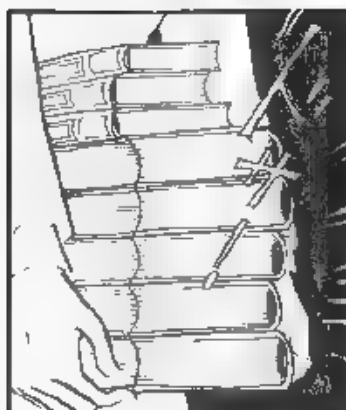
そっくりなあなたを
好きになると思う？

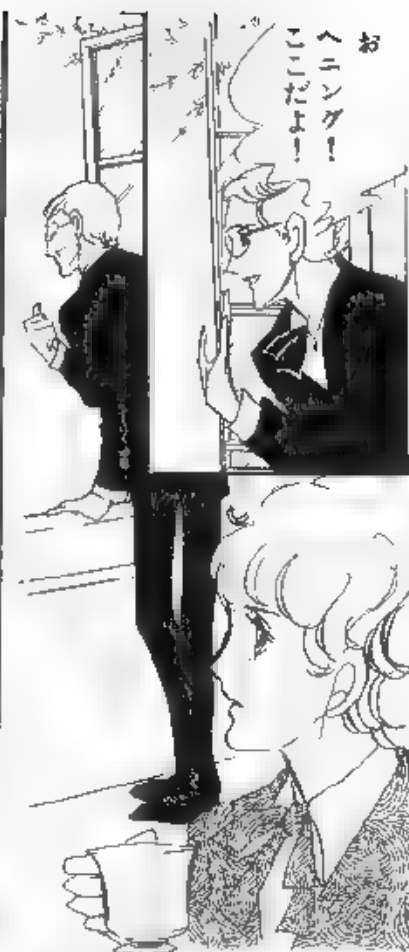
あなた
同じ
さわぎ
起こして
るんだよ





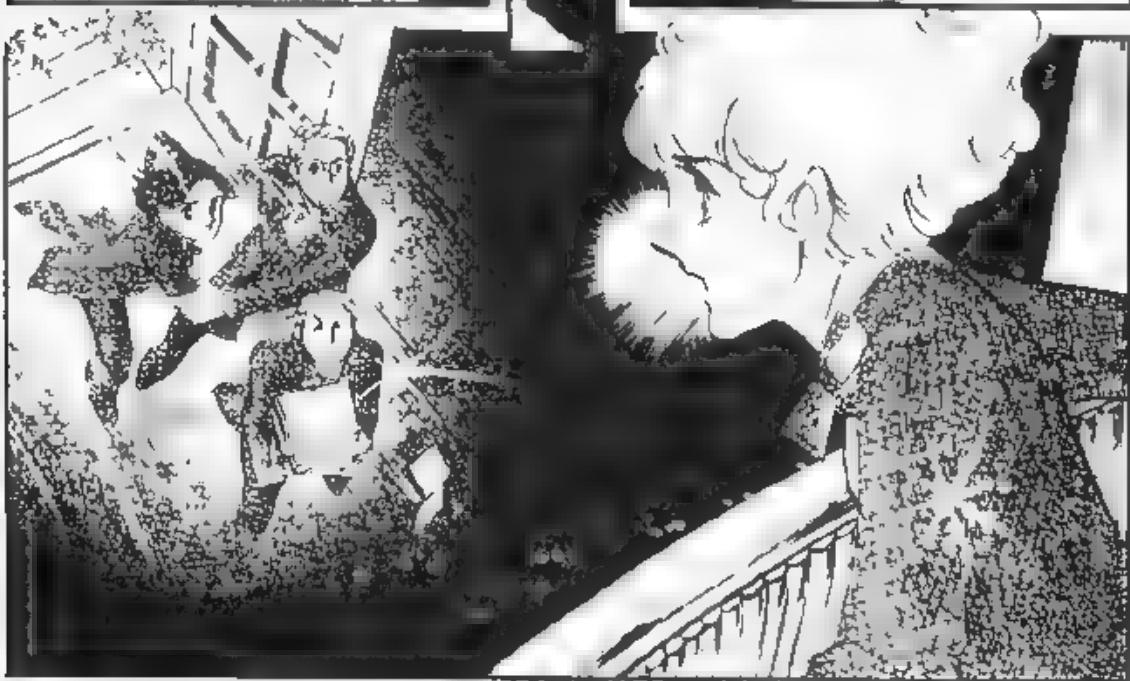






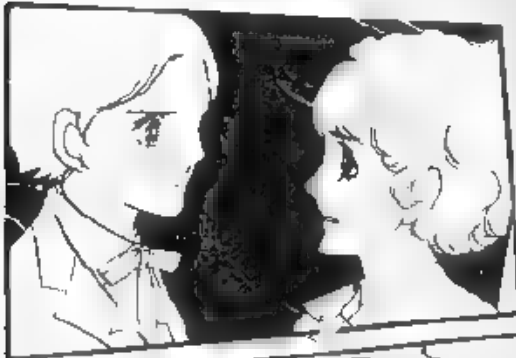


ユーリの
声だ！



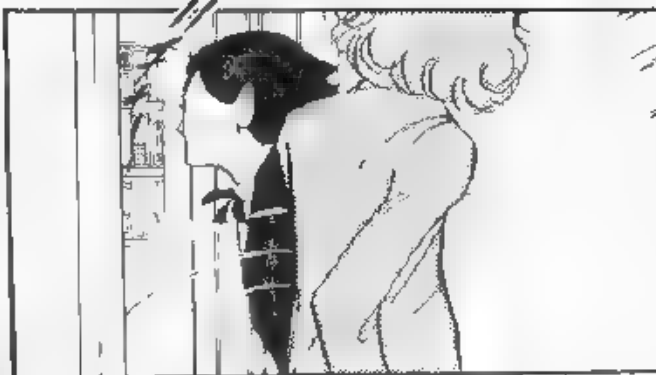


キスして……
でないとハラすよ
ひさちぎられた
羽のあと……

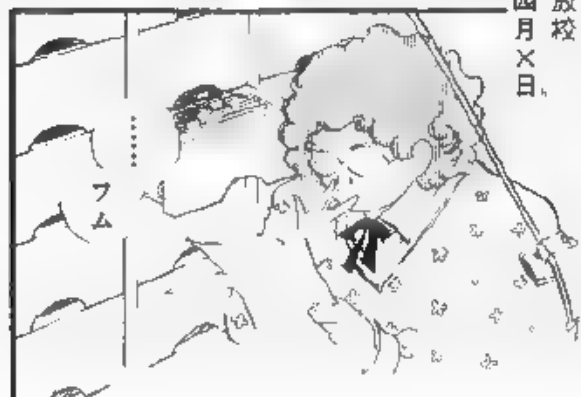


ごめん
はくーは



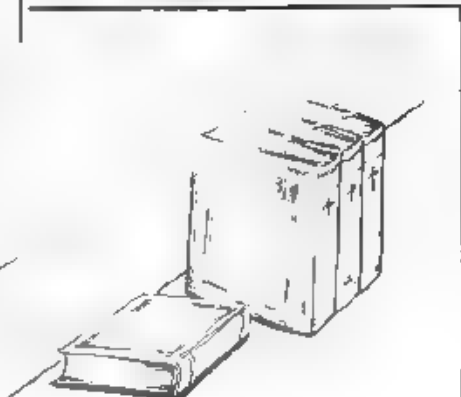


マリエ
キスがないなんて



フム

サイフリスト・
ガスト以上四名
放校
四月×日

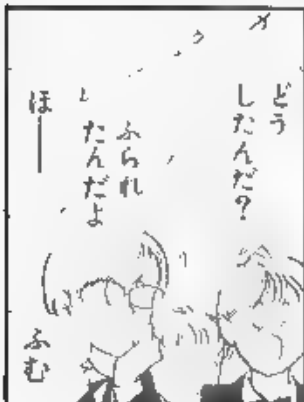


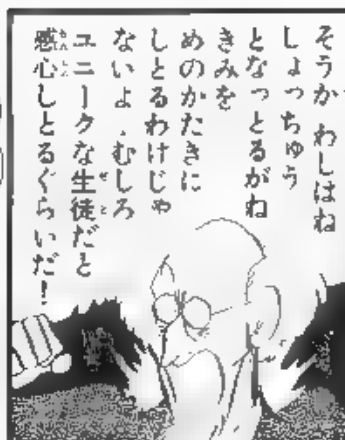


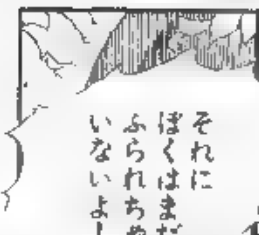
なにを考
えているの
だろ
あの勤
勉な委員
長は

思
い
な
る
は









それに
ほくはまだ
ふられちゃ
いないよ!

ほくはまだ
ユーリが
好きなんだ
からね!



それまで
ル・ベベ

どなるん
じやないよ
聞いてる
ほうがい
はすかしい
だろ



ほくはまだ
ユーリが
好きなんだ
からね!



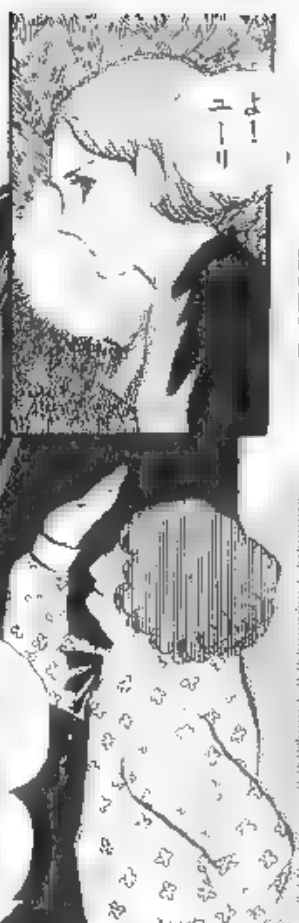
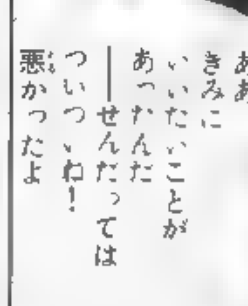
まだユーリが
好きなんだ
からね!



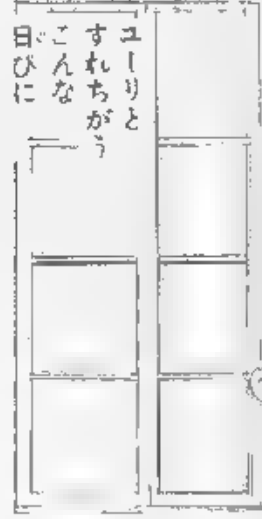
しあわせな彼

しあわせな彼!





こんな日びに
トーマ・ヴェルナーは
どうしていた



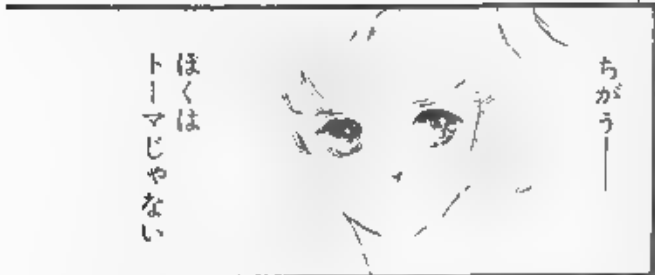
ユーリと
すれちがう
こんな
日びに

やはり
似てるのか？
ぼくたちは



ぼくは
トーマじゃない

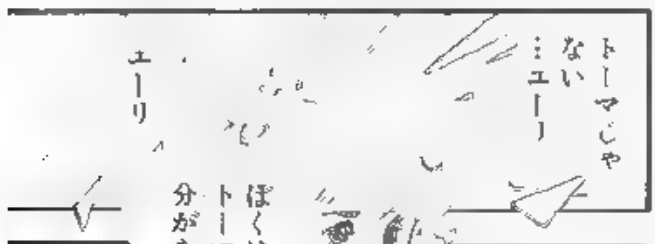
ちがうー



顔か
似てたって
同じように
ユーリに
恋した
って
ぼくは



トーマじゃ
ない
ユーリ
ユーリ
ぼくは
トーマより
分がある



ひどいことを
いった

キスして
でない
ハッすよ

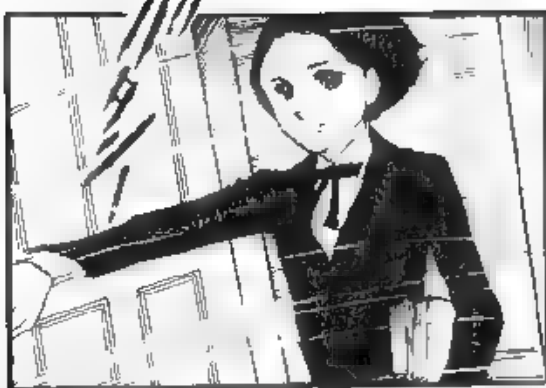
ひきちぎ
られた
翼の
あと

あれ
なぜ
っ、たん
だろうか
なにかの
事故
だろうか

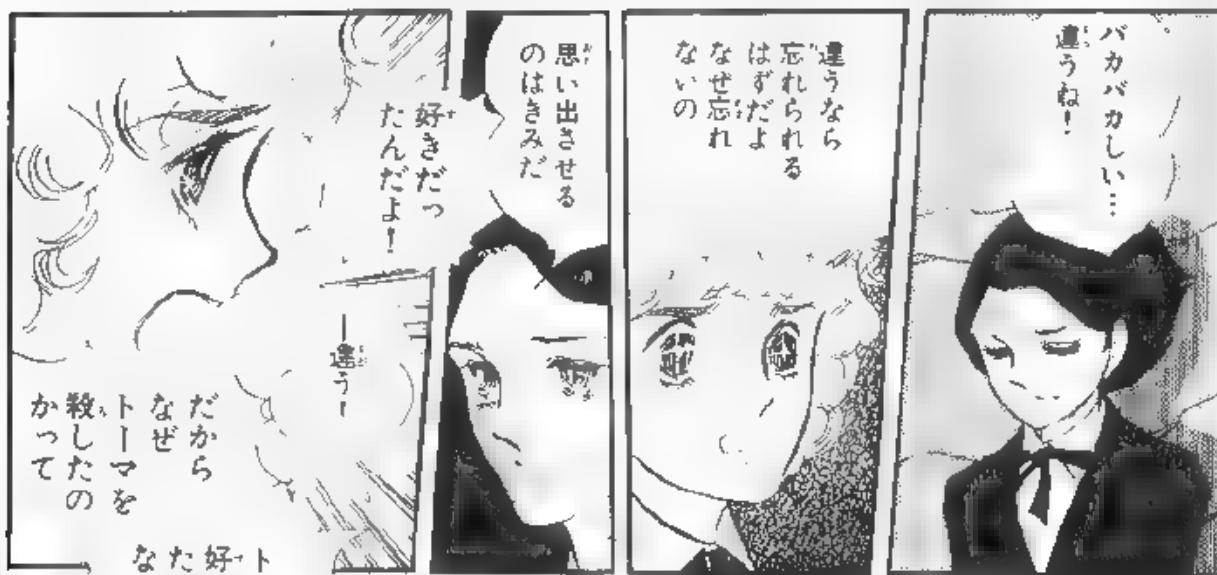
なぜそうも
ユーリは
あれを
かくした
かる？

トーマは
ユーリの
キズあとの
こと
知ってたん
だろっか？













きみらしい
死にかただね
エーリク



トーマは
だまって
いつちやつ
たけど

なんで？



もしほくが死んだら
ユーリに殺されたんだよ



ぼくは
わめいて
いつさい
ぶちまけて
死んでやる
からね！
その時は！



…彼に
ひどいこと
いったの
彼の翼の
ことで…

…そもそ
もぼくが



…ユーリと
うまくいかな
いんだ…どうして
こうなってしまう
のかな…

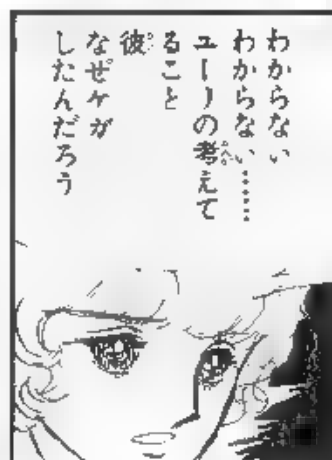
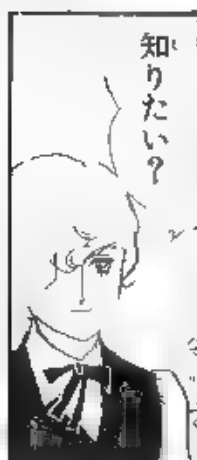


ううん…
…よせよ

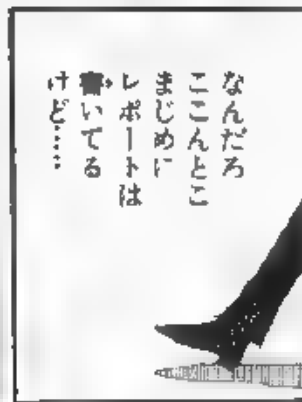
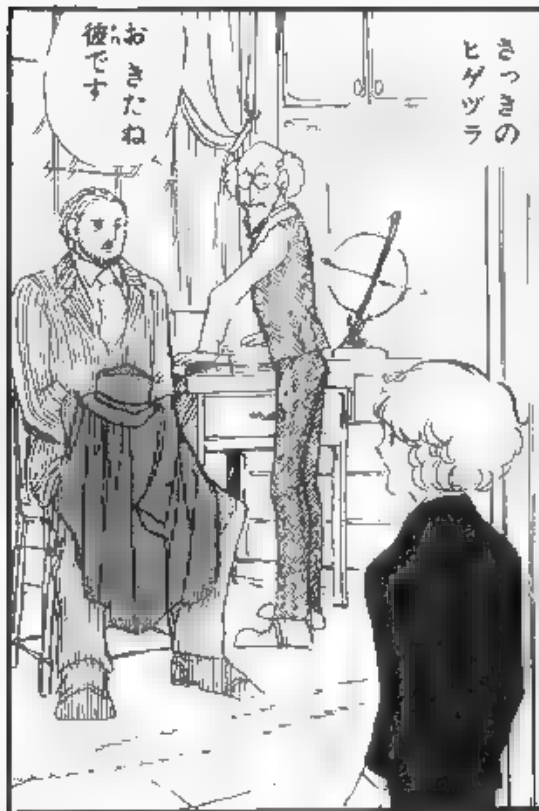
彼なにか
いったの？



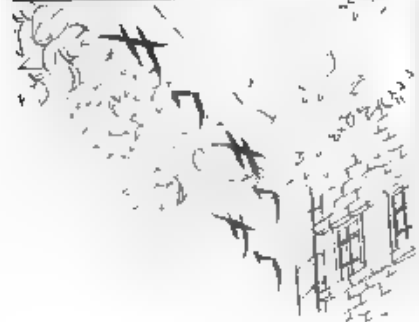
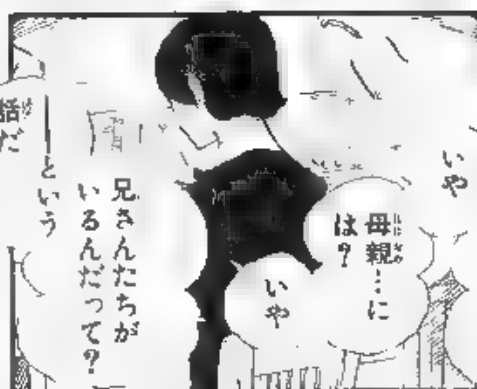
そいつは
初耳だ！
彼は宇宙人
だったの？
見た？

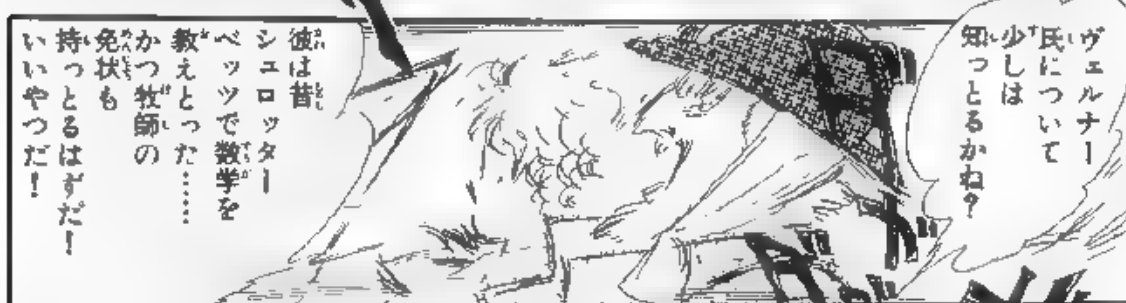
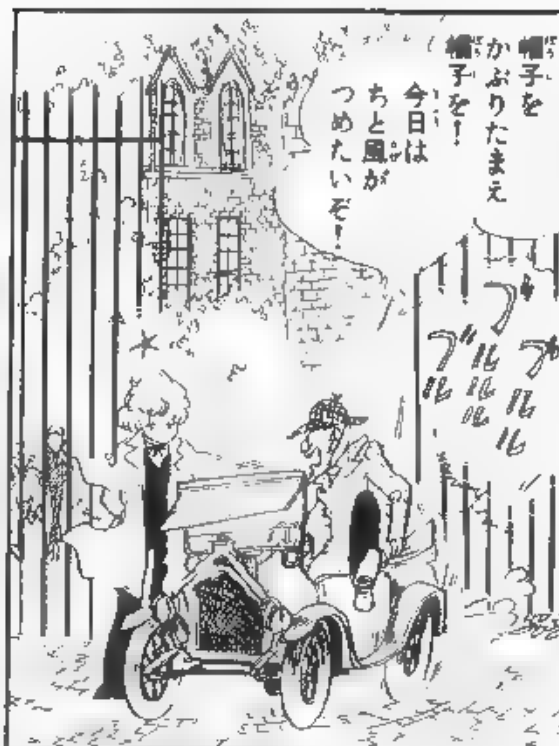
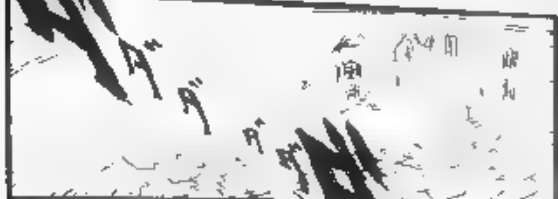
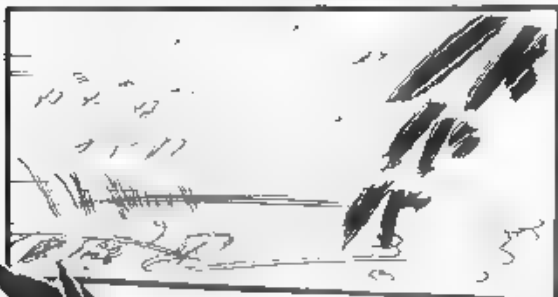


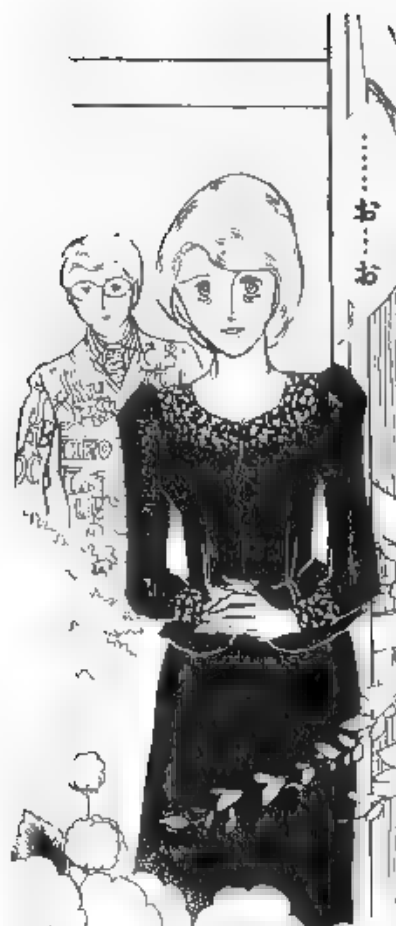












さてわしや
学校にもどつて
山ほどの
レポートに
目を
通さにや
ならん
おりて!



青い目の
お母さん

青い目の
兄さん

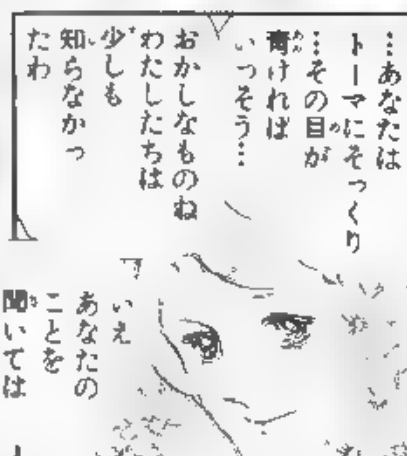
トーマも
こんなきれいな
青い目を
していたの
かしら



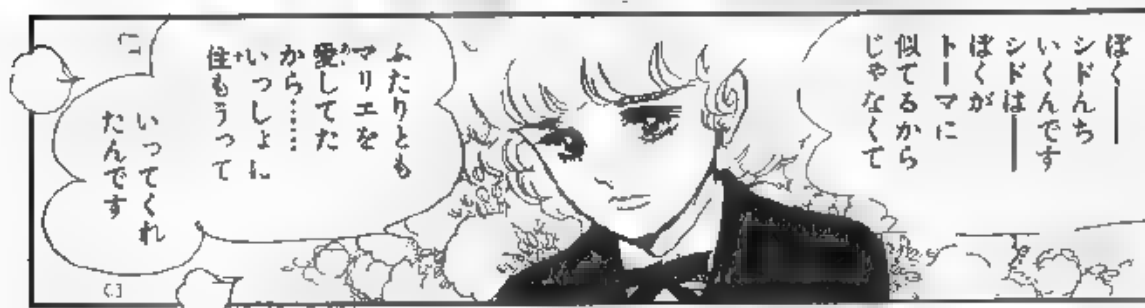
よくきてくれた
たいそう
うれしいよ
エーリック

わたしの
妻と
長男だ

さあ
こちらへ

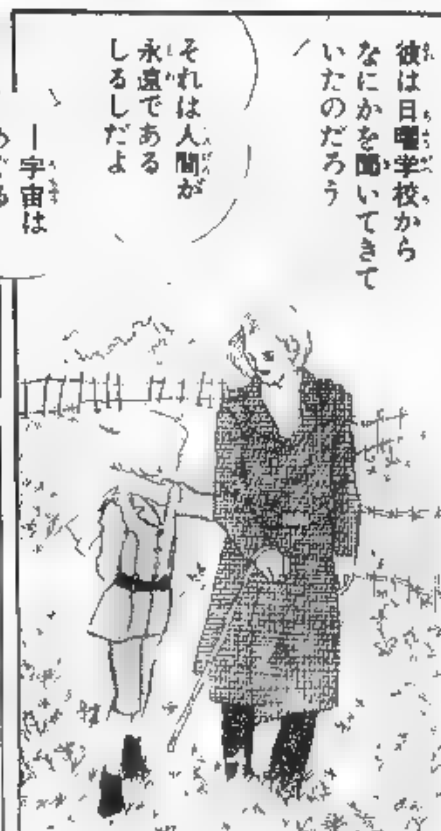
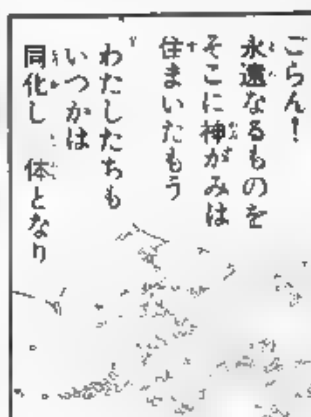


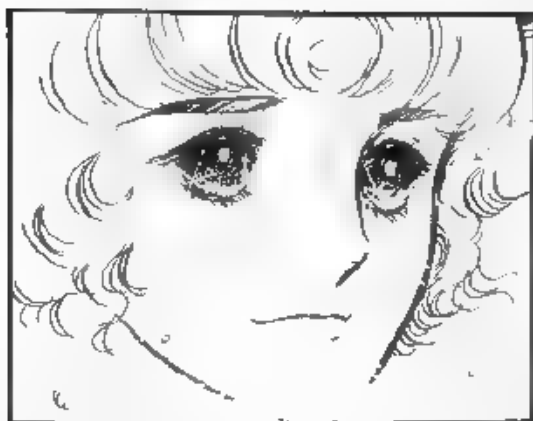














ぼくが
トーマでも
エーリックでも
顔かたちが
どんなでも



なんの
かわりも
ないんじや
ないだろうか

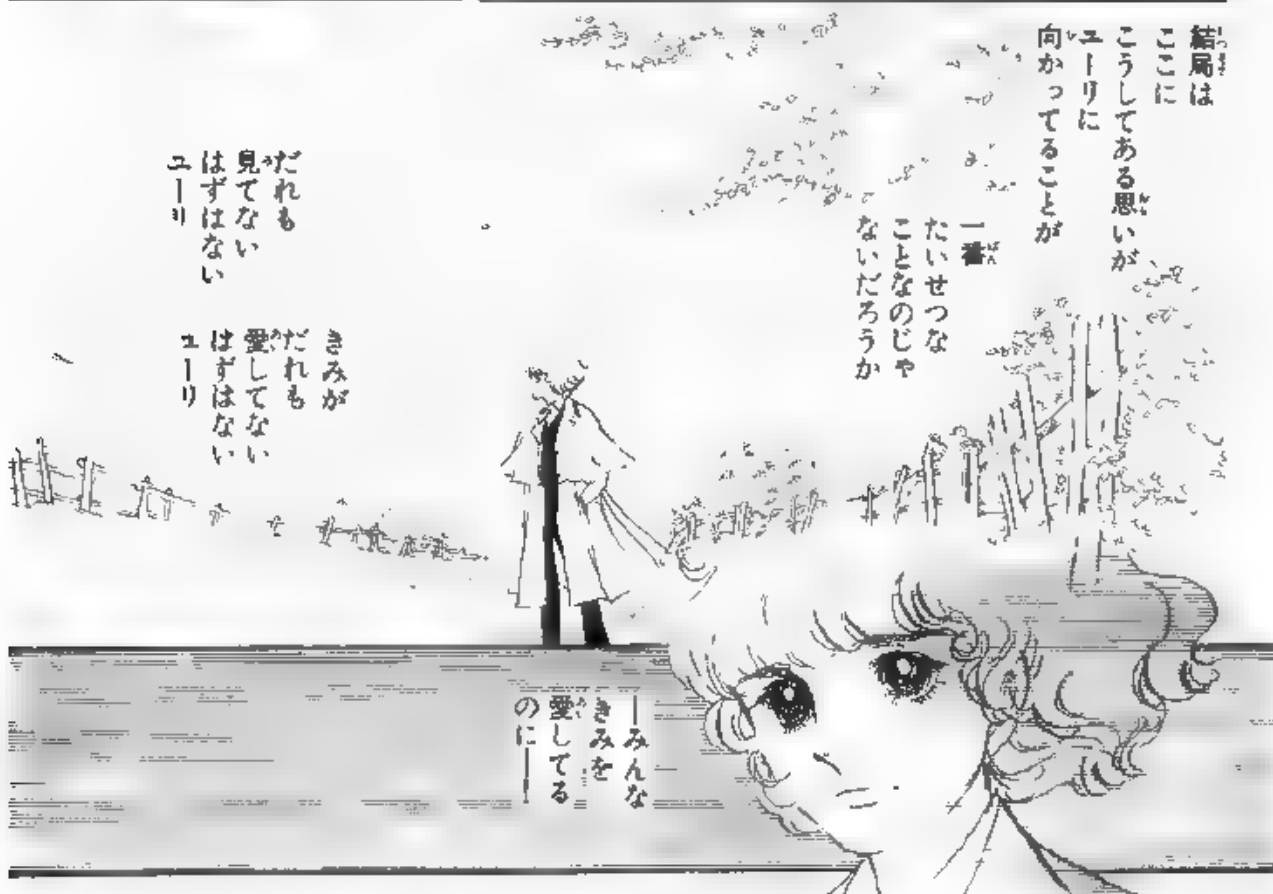


ほんとうに
どうしてきみでなければ
ならないのか
ぼくには
わからないんだ

ぼくのさがしているものの
なにかきみと重なるのか
わからないんだ

でもきみとなら
ずっと遠くまで
手をとって
歩いていけそうな
気がする――

源へ――



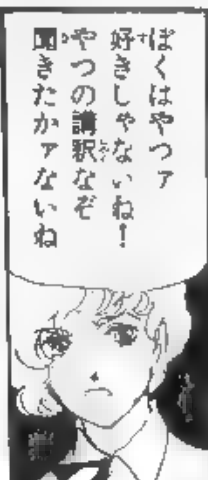
結局は
ここに
こうしてある思いが
ユーリに
向かってることが

一番
たいせつな
ことなのじや
ないだろうか

だれも
見えない
はずはない
ユーリ

きみが
だれも
愛してない
はずはない
ユーリ

――みんな
きみを
愛してる
のに――





バックス!

去年の
三月

イースターの
休日あけて
すぐ



いっちまうが
オレはあん時...
オスカ...おまえが
サイフリートたちと組んで
なにかやらかしたと
思ったんだよ

だが校長めと
コネがあつた
もんで
放校は
まぬがれ

かわりに
ユーリがああやって
おまえの見張りに
たつたんだろうとね



あんた
なにが
いいたい?



ユーリの
首の下
ヤケドのあとが
あるってな



ヤコブの
二階はしの
あの部屋は
以前は
サイフリート
たちの
たまり場だっ
たんだよな

彼は
お茶会に
こないが



バックス!

去年の
イースターの
休日に
学校に
残って
たのは
ユーリと



ユリスモールへ



先日
エリザベートの
お医者さまがいらして
また精密検査を
うけるようにとのこと
でも心配はないよう
以前ほど熱も出さないし

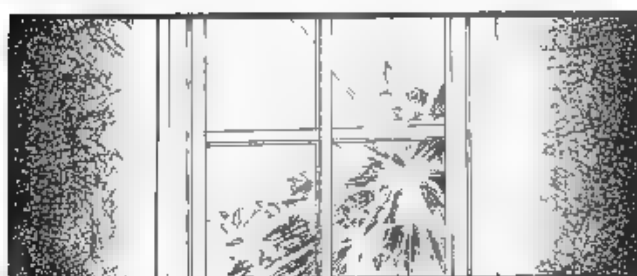


あの子はいつも
おまえからの手紙を
喜んでいます
少し
やさしい文で
かいてくださいな
あの子は
読みたがってます

この
白いハトは
あたしよ



こちらの
天使は
ユーリよ



エーリクは
ヴェルナー氏の
家へいった



いつまで
こんなことが
つづくの
だろう

もう
だれでも
いい

もうだれでもいい
シュヴァルツでも
ヴェルナーでも
だれか早く彼を
つれていって
くれれば
いい

ぼくの目のまえから
去らして
くれればいい

きみが
好きだから

好きだから

好き
だから

そんなことを
聞いていたくない

つらい...

……)
ユーリは
へんだよ



オレは
そんなこと
信じちゃ
いないがな

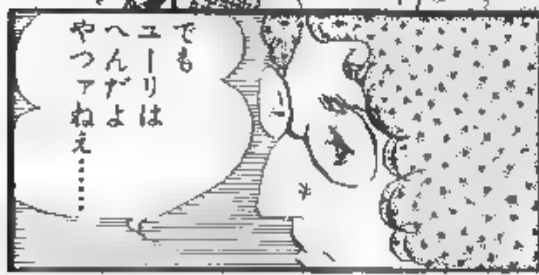
……下級生の
一部が

トーマは
自殺
したんだって
うわさして
たよ



いらん

すう？



でも
ユーリは
へんだよ
やつアねえ……



そらエーリクは
ユーリに
好きだって
公言したろ？

部屋も
いっしょだし

ちつとは
仲よくなつて
よさそうな
もんだ



エーリクはねえ
ありや
いい子だよ……
はなから
オレが
いってる通り
いい子だよ！

ふつちまう
なんざ
げせんねー



そりや
オレは
なにも
できんかも
しれんよ

だが
まあ
役に立つア
なあ

——パフカス



……



あんたも ぼくも
ユーリのためには
たいして役には
立たないよ

首のキズは
サイフリート
かい？



たいした
ことは
知らない
ぼくもね

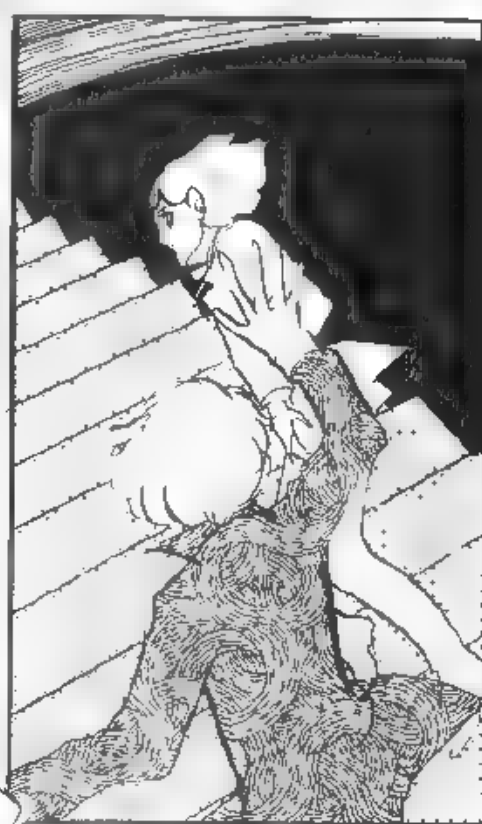


なにも
じっさい
見たわけでも
ない……

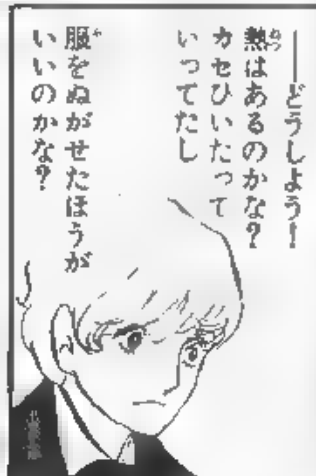
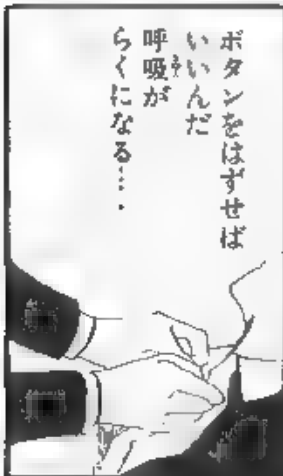
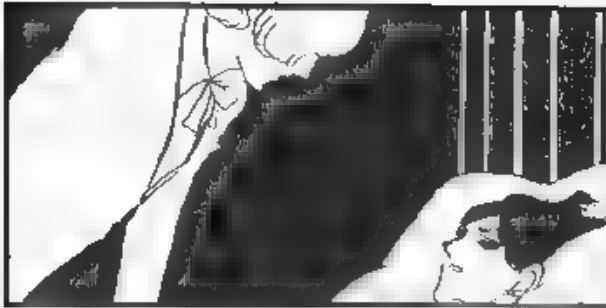




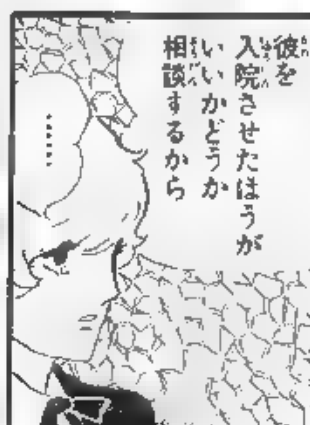
なんだよ！
気のない
返事！

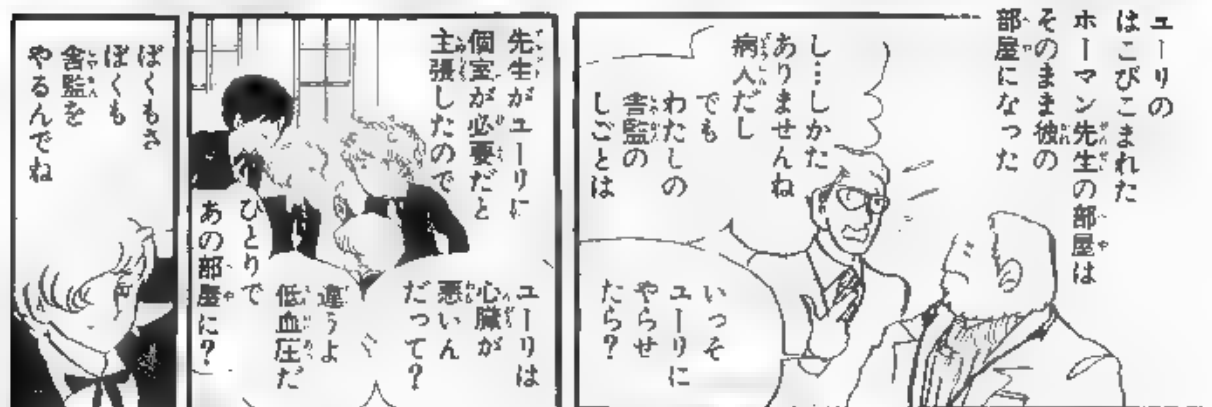






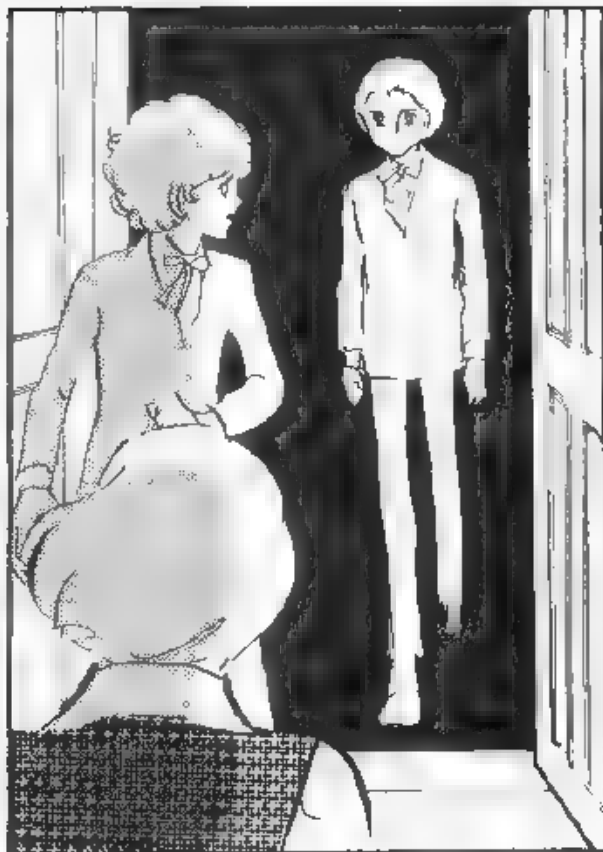
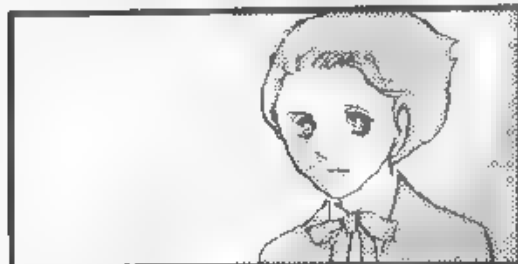














エ
リ
ク



あ
あ……



なにいったんだ？
サイフリットって
なにだれ？

なんで彼
逃げたんだ？



あ……
ユリー
こんなはずじゃ

こんなふう
に
きみを
追いつめる
つもりじゃ



ユ
リー
ど
こ
へ



ユ
リー

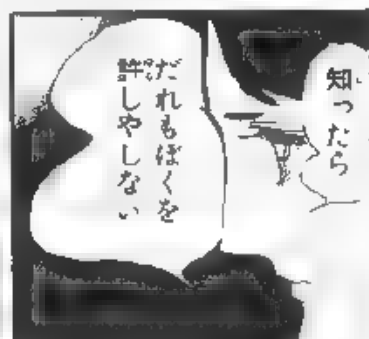
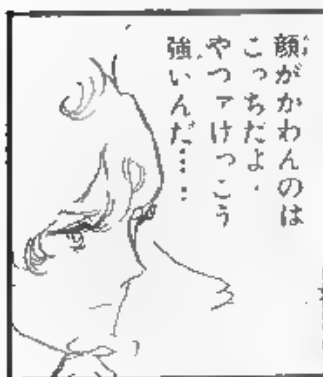
カ
ー

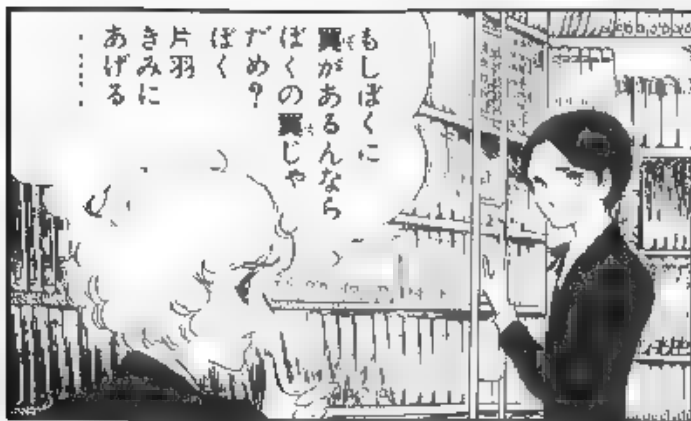












ユリスモール
ユリスモール

ユリスモール
これがぼくらの愛

春、最後の雪の日に
飛び降りた
トーマ
たったそれだけの
ことはぼくに
残して——それ

エーリック！

その意味……
今……
わかった

これがぼくらの心臓の音

きみは——
きみは——

きみには
わかってる——
わかってるはず

トーマ・ヴェルナー——
きみは——



ユリスモール
ユリスモール

少しでも
ぼくを
好き?



ユリスモール

それでは
きみは—

けれども
愛して
いないの

違う……

違う!

違う!

ユリスモール

ユリスモール

でもそれで
生きて
いけるの?

これから
ずっと……?

……ずっと
愛して
いたんだ

ずっと
愛してい
た……
トーマ……



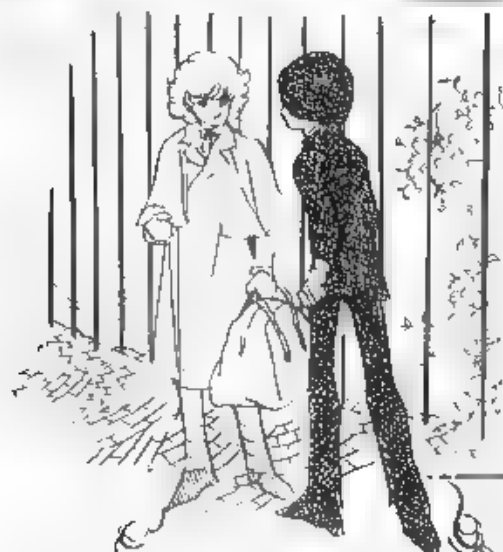




ユーリは
ぼくのうしろに
ずっと
トーマを
見ていた



転入してきた
最初の
時から



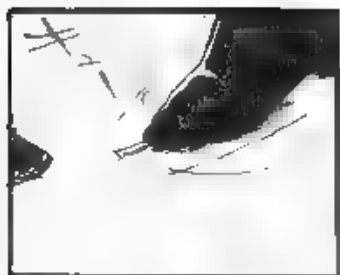
火は
あついだろうか？

あついだろうか？
どれくらい？

金色の髪の
水色の目の
アムール……



日びの夢
風の楽音
わすかな
気配にも
彼は
見つけていた





…今朝は…
ミサの時は…
ちゃんと元氣
で…

さきほどまで
わたしと話していた
きみのことで

ぼく？

相談をうけていた
ミユラー校長が
きみを養子にするか
いなくて問題でね

もつとも
わたしは
不賛成だと
いったんだ

た…
助かるん
んでしょ？

校長が
たおれ
たつて!?

どうして
ミユラー
校長が
きみだけを
とくべつに

わたしのよんだ
人間以外の
立ちいりを
禁じます！
絶対安静の
必要がある！

どうします？

どうして

夕食の時、
生徒に
今夜は、
静かにするよう
指示せねば

さつき
赤十字に
かのんだ
医師と看護婦が
くるそうだ

今夜、
わたしは
病人のそばに
ついてる
きみがそこ
にいたいなら
いてもいい
ただし
静かに

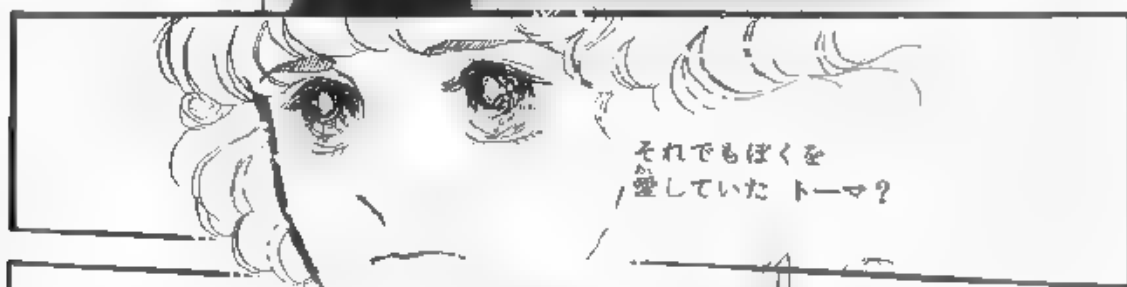


いつもいつも
生徒たちの
青にぼくは

虹色に淡い
天使の羽を
見ている

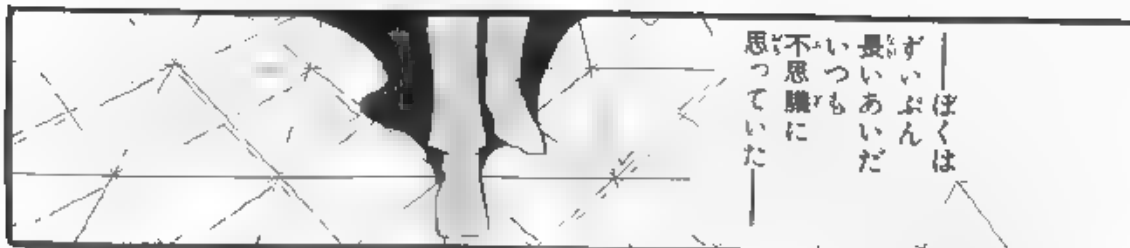












ぼくは
ずいぶん
長いあいだ
いつも
不思議に
思っていた――



なぜユダを
いかせた
のか

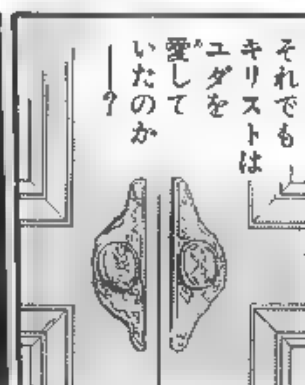


キリストは
ユダのうらぎりを
知っていたのに
彼をいかせた
のか――
「いつておまえの
みずからを十字架に
近づけるような
ことを

すべきことをせよ」



ユダもまた
キリストを
愛して
いたのか



それでも
キリストは
ユダを
愛して
いたのか
――？



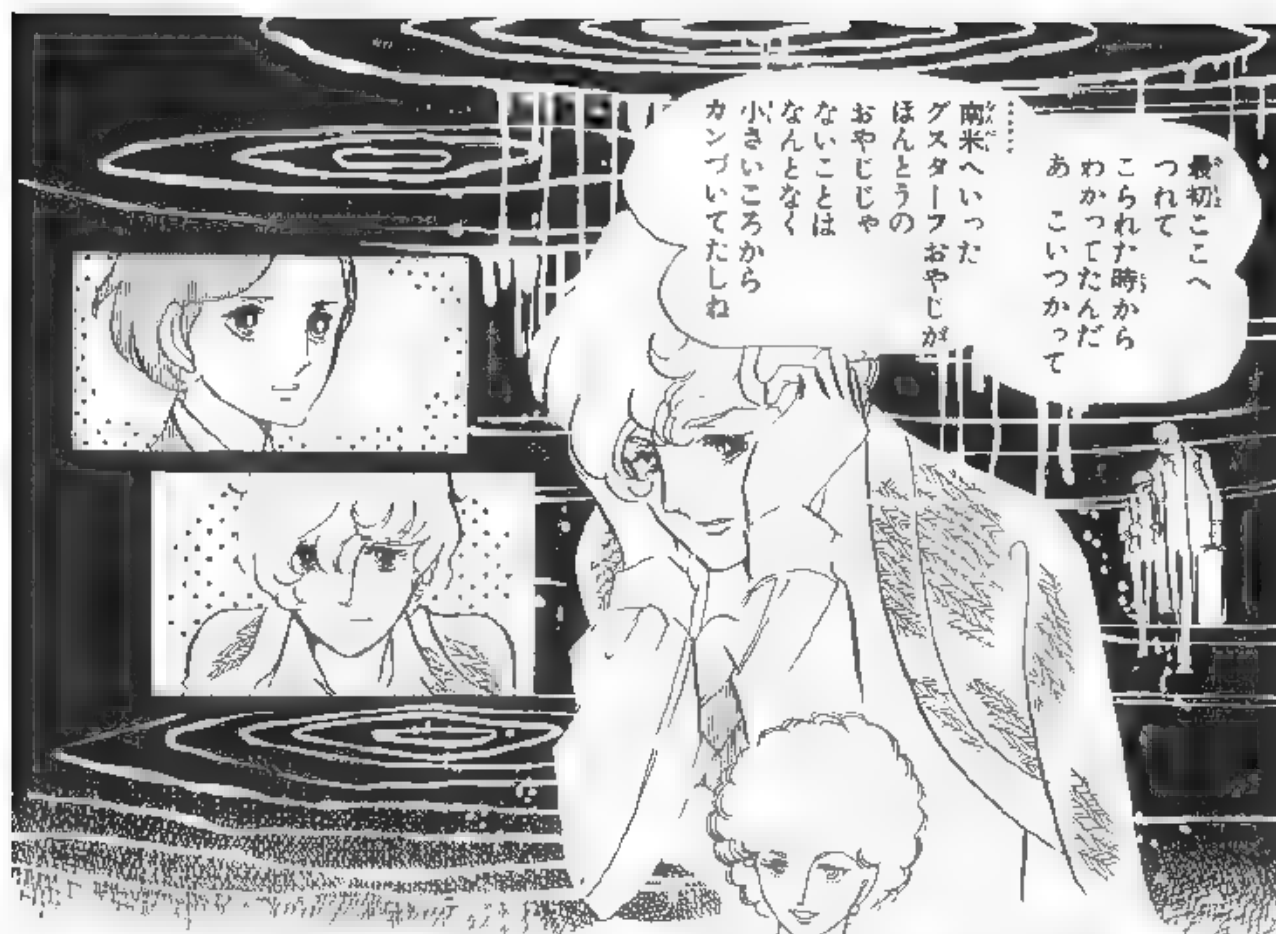
がまっていた
がまっていた
見ていた

きみもまた
知っていた

ぼくの舞台を

ぼくがみずからを
あわれんでいたあいだ――





最初ここへ
つれて
これな時から
わかってたんだ
あ、こいつかって

南米へいった
グスタフおやじが
ほんとうの
おやじじゃ
ないことは
なんとなく
小さいころから
カンづいてたしね



ぼくは
ぼくの母も父も
だい好きだったよ
母はぼくを
溺愛したし

父は、
かわったように
ぼくに接した
母のまえでは
ほとんどぼくを
無視し
愛情を
しめさなかった

ぼくの父が
ぼくの母を殺して
逃した
一年間は

グスタフおやじが
もつともぼくに
やさしかった時間だった

オスカー?

ぼくは
いきさか
くつちやべり
たい気分

しやべらせ
といて
くれないか
いあわせたのが
不運だと
思ってたさ

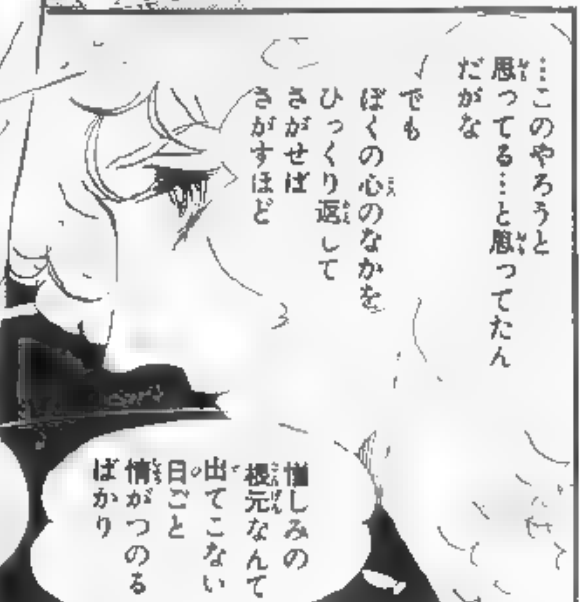


彼が
いなけりや
じっさい
ぼくという
人間は
いなかった
からね

ぼくの
おやじか

ふん...と
ぼくは思ったよ
校長を見てね
ふん...こいつか
こいつが
グスターフおやじに
ぼくの母を
救させ
グスターフから
ぼくを
引きはなす
はめになった

半ズボン
長い
マフラーを
まいて
学校に
やってきた
彼



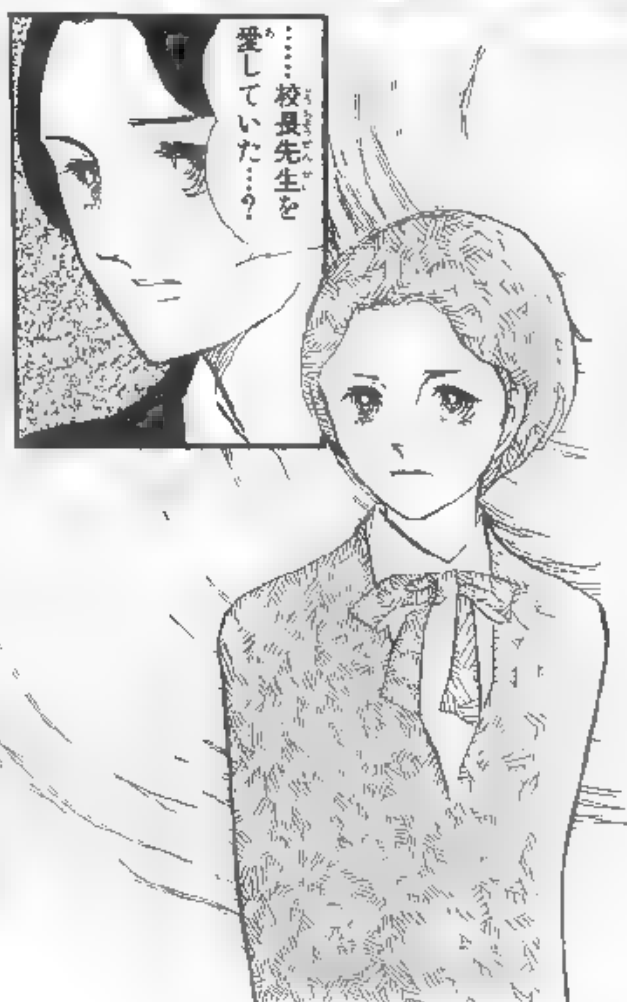
ひねてる
ぼくでさ
こうだからな

彼、校長
どんな気持ち
だろう

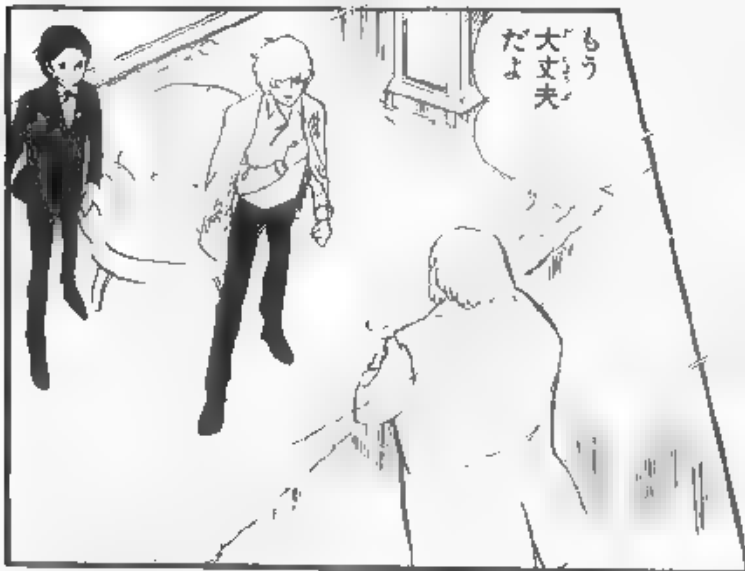
お・や・じ・さ・ま

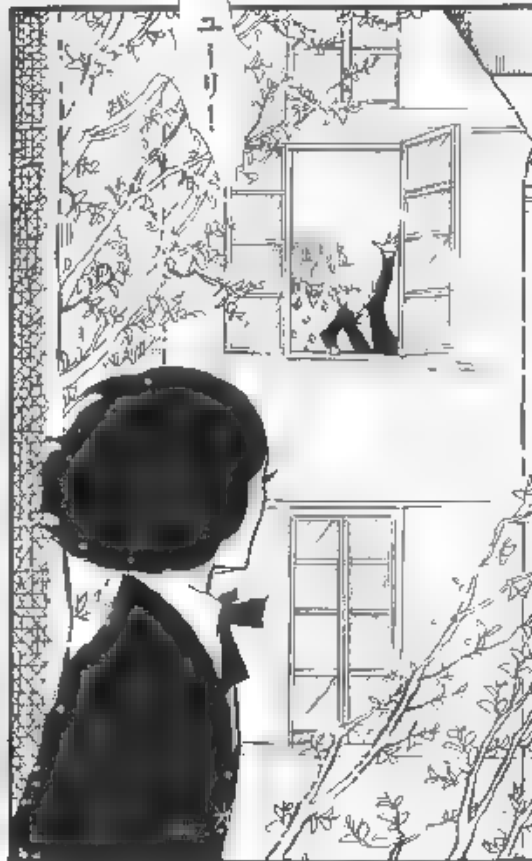
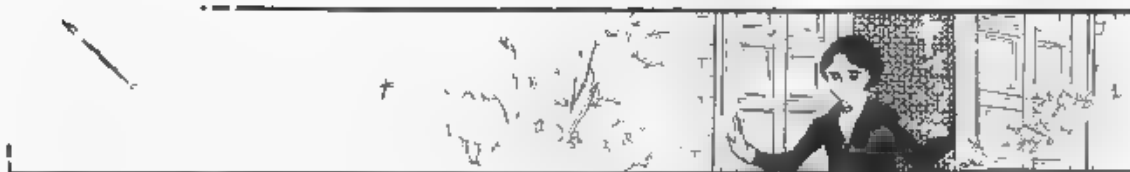
...このやろうと
思ってる...と
思ってたんだがな
でも
ぼくの心のなかを
ひっくり返して
さがせば
さがすほど

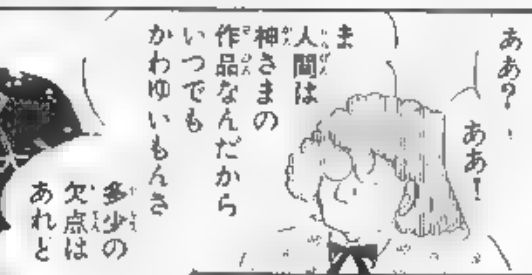
憎しみの
根元なんて
出てこない
日ごと
情がつのる
ばかり











「ぼくは
幸福では
なかったか？」

翼を失い
心を閉ざして
なにくわぬ顔をし

日びを
送っていた
時も

トーマがぼくを
愛していると知って
苦しんだ時も

その遺書を
うけとった
時も

「ぼくは
幸福では
なかったか？」

「それでも
ぼくは
幸福では
なかったか？」

あらゆる日び
あらゆる時
ぼくは――

閉ざしたとびらを
たたく
トーマの
手の音にいつも
おびえていた時

影は
エーリクと
重なり
殺意すらもち

ユリスモール

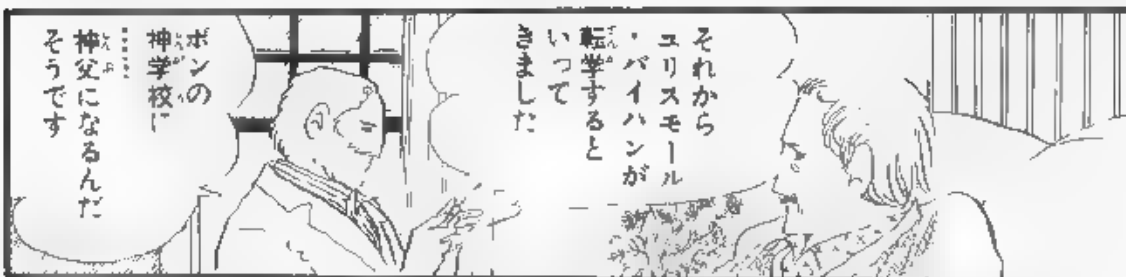
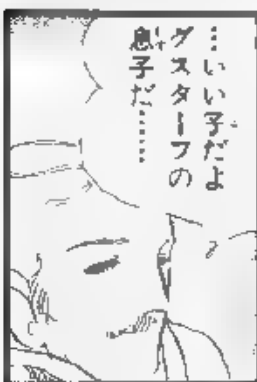
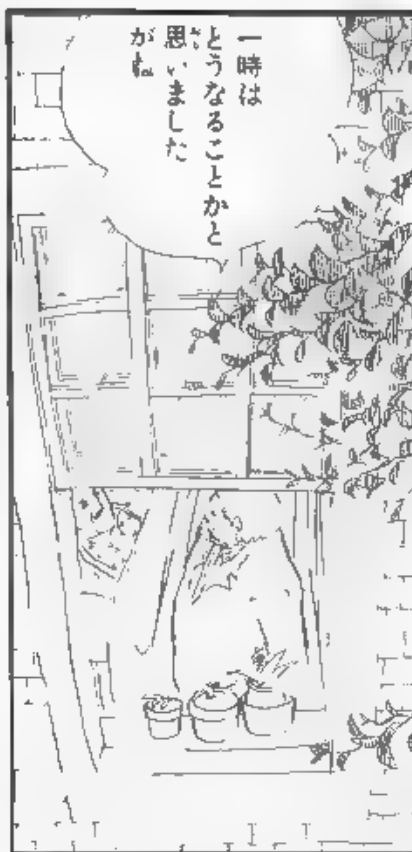
ユリスモール

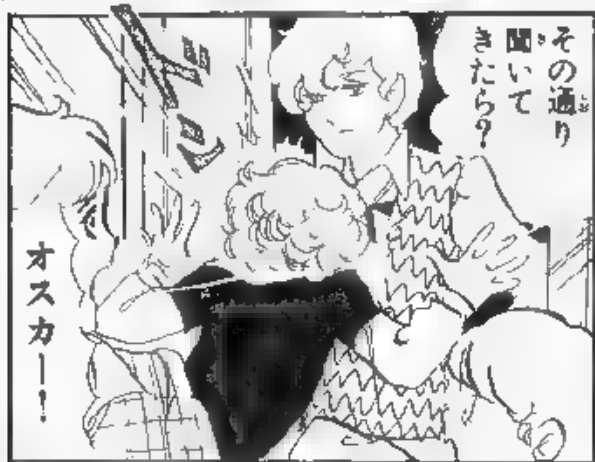
ユリスモール
愛している

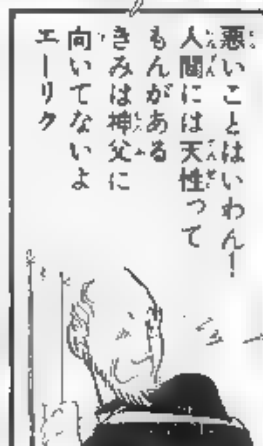
ぼくは……

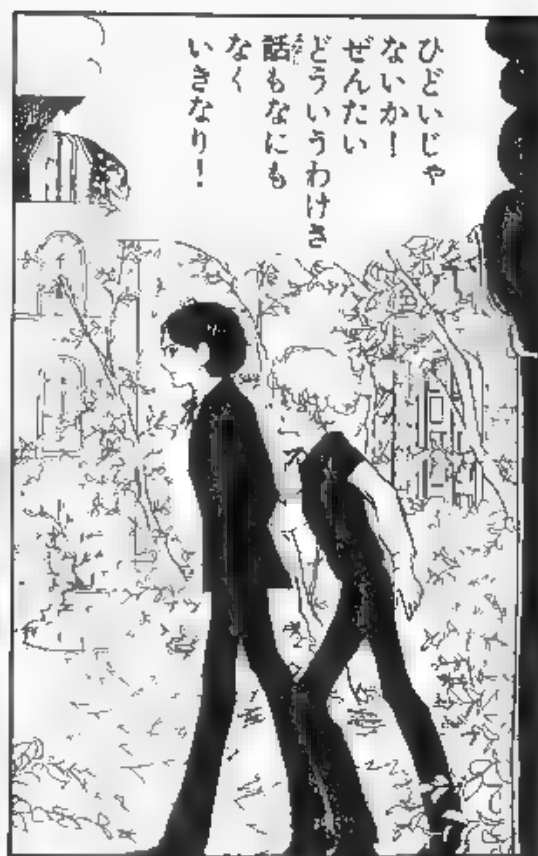
シエロッター
ベノツを出ます



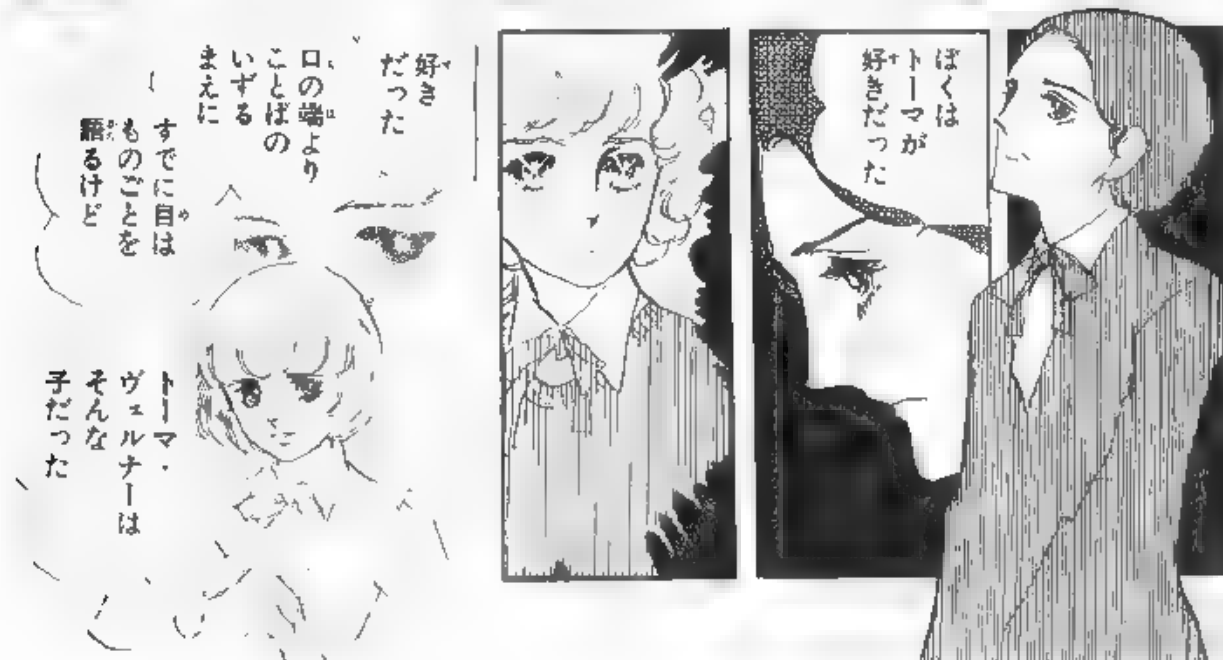














ぼくもまた
彼を
崇拝し
彼を見ると
幸福
だった――

ほかの
ものもろの
信者と
同じように

静かな子
だったよ

いっけい



ユーリ!

とうとう
自分を――

うらぎっ
たんだ

そしてぼくは
彼を――



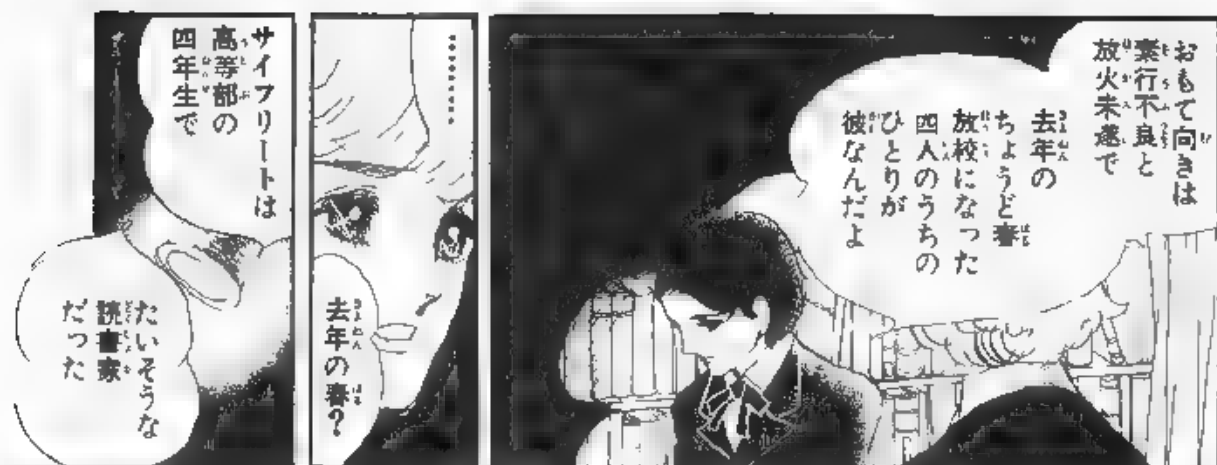
……サイフリット・
ガストを
おほえている?
ギーゼンの駅で
出あった……

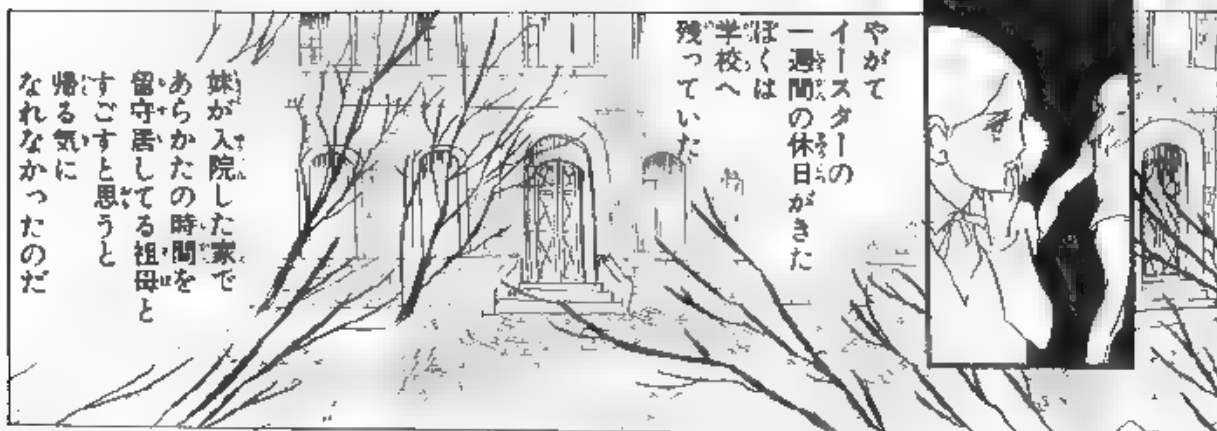


……
ギーゼン……
あああの……
八角メガネの……

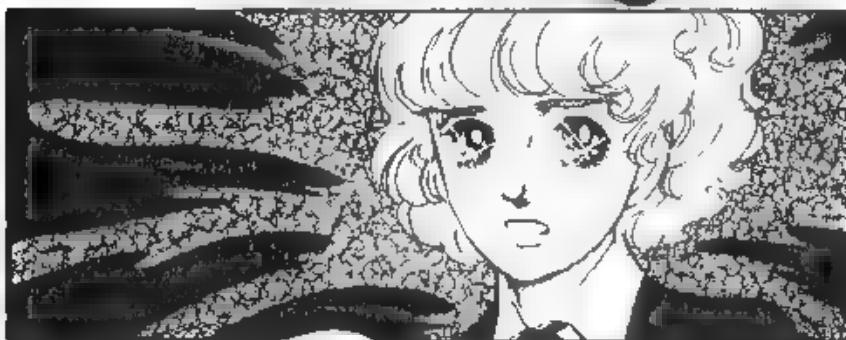
彼が
サイフリット?

彼
なに?











そしてぼくは
そう
したんだよ

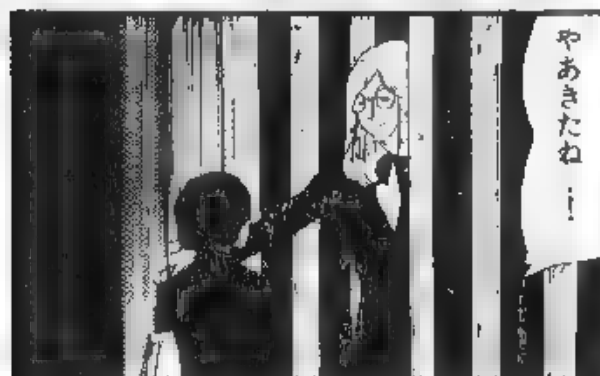


思い通り？



サイフリートは
きみをよんで
どうしたの？
なにが
あったの？

彼らはぼくを
思い通りに
させたかったんだよ



やあきたね！



その夜の
それは

彼の主義である
悪魔学などのはいつた
お遊び——だった
彼は笑っていた
笑つ——ていた

すべて
人間は
悪天使さ

神？
神が
なにをした？

なんの
信仰など
事態が
急変すれば
くだけで
消える！

「都合主義で
安易なものさ！

「彼はそれをほめて
褒めた」

水をいっぱい
くんでくれ
ないか

それ目を
さまして……！
すてきだよ
信心深い
ユリスモール
まだ考えを
かえないね

だが
しょせん
暴力には
勝てない

これで
最後だよ・
さあいつて
ごらん……どうしても
いわせてやる

君のいう
神さまより
ぼくが上だと！
ぼくを
信じてると！
ぼくを
愛してると！

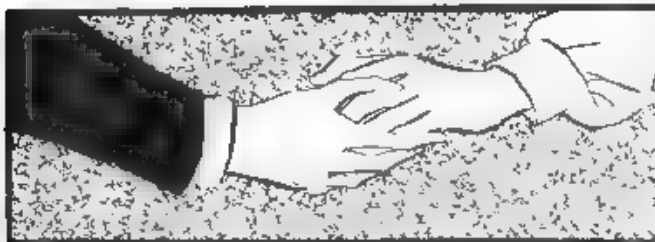
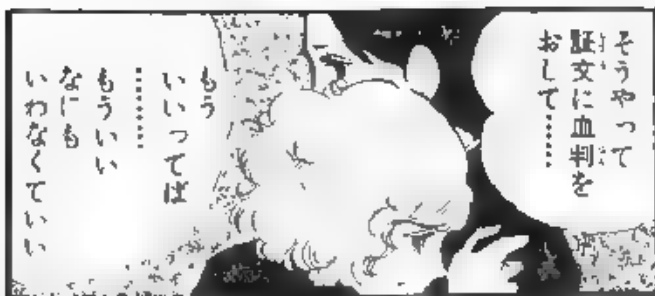
Ja!
ひとこと！

ひとこと
いいんだ

きみは
ぼくが
好きなの
だろう？









部屋までの
雪が残った
石だたみを
歩きながら

たいそう
ふくざつな
思いが満ち
て……



すると
オスカーが
彼からの
遺書を
わたした

事故—など
ではなく



ぼくは
あまりに
つらかった
ので
無理に自分
は
愛しては
いないのだ
と
いいきかせ
た

あの雪の朝
トーマの死
の知らせを
聞いて



ぼくがひとり
心を開き
たいけれど
うことだけ

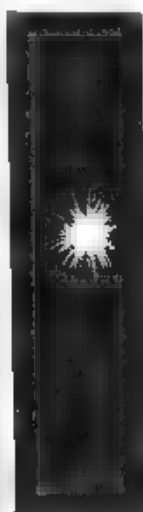
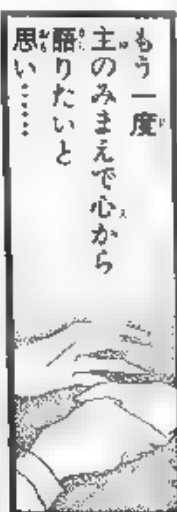
でも彼は
知っていた

ぼくが
背をむけて
打ち消して
も

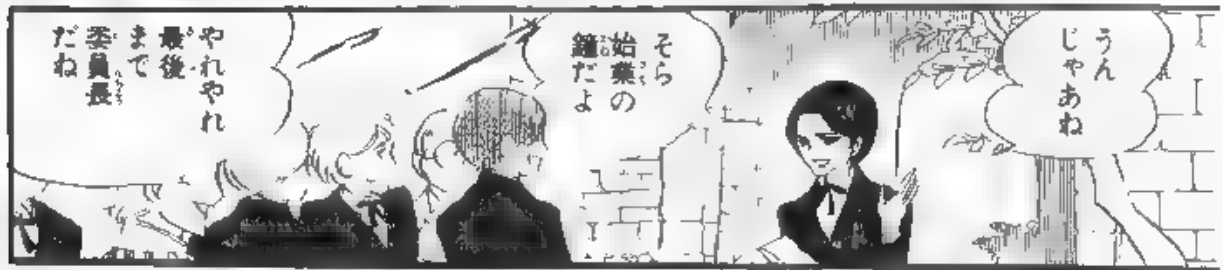
やはりそれ
が

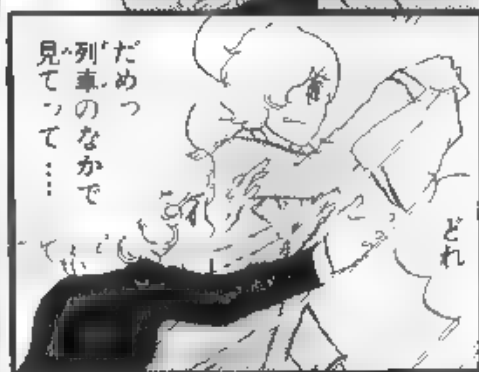
なれば
人は生きて
いけない
と
求めて
いると

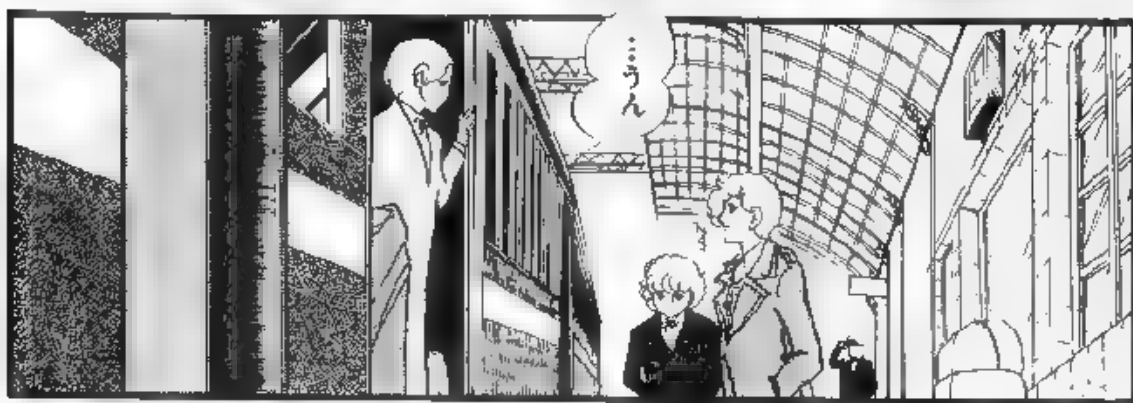
だからあの
恋神は
あんなに
明るい
目を
して
いた
のだ



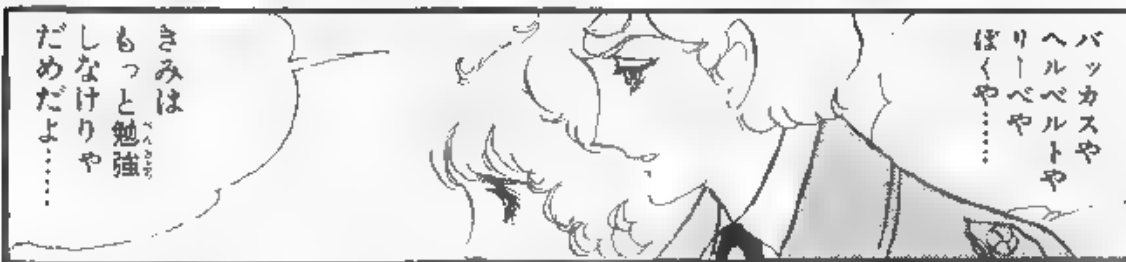
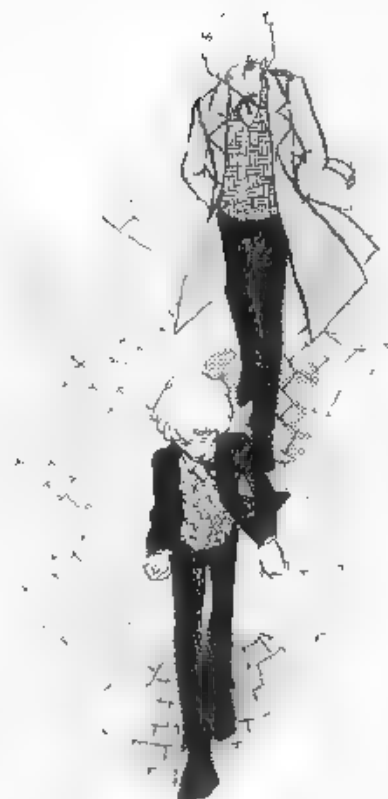














1974年週刊少女コミック第19号(5月5日号)・第52号(12月15日号)

トーマの心臓——完——

●エッセイ

愛について

大原まり子

二十年前のこと……高校の教室で、クラスメイトから借りた『トーマの心臓』を読みふけた。

夕陽の射し込む放課後の教室……その時間は、いまも心のどこから取り出すことができる。それは想いに彩られた記憶の彼方で、まるで萩尾望都の描線によって現れ出た世界のように、美しく儂く、至福の時となって結晶している。

『トーマの心臓』の解説を引き受けるなどという大役がやがて巡ってこようとは、夢の中にいるような不思議な気持ちだ。

愛とは時に暗愚なものではあるけれど、愛がなくては、作品に触れることもできない。

人は人に似せて芸術を生み出す。

芸術のような人の心に触れ合おうとして、トーマはユーリを愛した……。

人類という種の際立った特徴だと思われるが、生まれ落ちたばかりの赤ん坊は無力な生き物だ。赤ん坊が無事に育つには、「愛」という、まことにとらえどころのないものに頼るしかない。

わたしたちは他者の愛によって育まれ、ひとたび成長すれば乳幼児期に食ったような過

剰な愛は必要がなくなる。いやむしろ、過剰な愛は毒のように蝕んで成長のさまたげになってしまう。

愛は人と関わり合いたいという本能の欲求であり、すべての欲望がそうであるように諸刃の剣である。

はじめは絶対的に必要なのに、のちに猛毒に変わってしまうとは、まるで「かごめかごめ」の歌のように怖ろしいではないか。

出陣を含む母性、そして、愛について 萩尾望都はずっと格闘しつづけてきたのだと思う。

たとえば本書においても、エーリクとその美しく奔放な母マリエは盲目的な愛によって結ばれているが、マリエの死、さらにエーリクのさまざまな体験そして成長によって、やっと別の形の愛へと 破壊的に作用しない愛情へと変容を遂げてゆく。

愛は死をはらむ。

冒頭、雪の降りしきる美しい朝、十二歳のトーマ・ヴェルナーは線路に身を投げる。

トーマの放った愛の剣が心臓を貫いて、ページを繰るわたしたち読者までも、主人公エーリクもろとも一つの物語の中へ、投げ込まれてしまう。

ヨオロツパのギムナジウムの生活がどのようなものか当時も今もわたしは知らないのだけれど、のちに大学で寮生活をおくるようになった時、萩尾望都の描いた風景がそここに現れ、ヴェールのようにあたりを覆うのを感じたものだ。

朝に夕に聖堂に響く若い歌声、樹々の風に戯れるざわめき、丹精された小さなバラ園、学生たちの深夜におよぶおしゃべりや、薫り立つお茶の時間、舎監の先輩へのほのかなあこがれ、そしてキャンパスのどこかにあると伝えられる秘密の小部屋……。

萩尾作品によってエロティックな回路ともいうべきものが開かれ、目の前に広がるあらゆる光景が瑞々しさをたたえながら、立ち現れてきたのだ。

トーマは、ユーリに、無償の贈り物をした。

その贈り物はエロティックな回路を開いた。

トーマの無償の贈り物　この世の肉体をまとうかほえに、“死”という胸の張り裂けるような悲しみのつまった贈り物　は、精神の死に至る病いに深々と突き刺さる。

愛はエロスをはらみ、エロスは死をはらむ。

エロスは死をはらみ、エロスは再生させる。

トーマの死は、恨みでも怒りでもない、それはただ、無償の、愛する者へのプレゼントであった。

トーマには、救済を求める魂の叫び声が、長い長いあいだ聴こえていたにちがいない。耳を聳（た）てるようなうめきか、絶望にみちた苦しみが、暗黒の地下に葬られそうになっていく生命の息吹き、いのちそのものが踏みにじられる耐えがたい苦痛……。

誰もがいう、トーマは天使のような子だったと。

トーマとは、大地の精霊にじかに触れ合うような人間であったにちがいない。

生命力を打ち砕くすべての力に刃向かい、大地から受け取る無償の贈り物を、大地と同じように、あたりに分け与えずにはおられぬ人間であったにちがいない。その心性は、どれほど貪られようとも黙って慈しむ母性のひとつの相貌である。

ユーリがその中にトーマを見た、トーマにそっくりの少年エーリクもまた、生命の躍動に満ちているというまさにその点において、ユーリの憎悪の対象となる。

なぜ憎むかといえば、溶鉱炉のような生命のエネルギーが、いつか、なにかを、変えてしまうからだ。

変化をもたらす何物かは、とても怖ろしい。

それは時に破壊的であり、古いものを打ち砕き、殺してしまう。

それは、じわじわと侵入して建物を傾がせてしまう植物の根のようなものだ。あるいは、どこまでもどこまでも、うねりながら、津波のように伝わってゆく音楽のようなものだ。

そして音楽といえば――萩尾作品には、これもたくさん現れる光景であり、音がしないはずの紙の中にどれほどきらびやかな音楽が迸り、それら美しい音楽が幾度となく世界を滅ぼし、また再生させたかを、わたしたちは知っている。

ひとたび『銀の三角』をめくれば、蛇に似た黒髪をターバンの奥に隠した少女の奏でる音楽が、夢となって現実を浸食してゆくのを見ることができよう。その夢はある世界を消滅させ、同時に世界を構築し直す力あるものだった。

あるいは『スタ・レノド』の主人公レノド・星。こともあろうに物語の途中で死んで

しまう真紅の目の美少女は、死をもって世界をつなぎとめるが、彼女の念動力が引き起こす破壊もまた、どこか音楽の波動に似ていなかったか。

ともあれ、トーマの放った波動に触れた人たちが、そのまま何も変わらずに生きつづけることは不可能だっただろう。

なぜなら、それは飢えた虎に生身を与えたという伝説の激しい輝きであり、人々が“神”とよぶものの、奇跡のような顕現けんげんだったのだから。

そして最後につけ加えておこう。

トーマがユーリに与えた無償の贈り物とは、萩尾望都がわたしたちにプレゼントしてくれた『トーマの心臓』という作品そのものでもある、と――。

大原まり子

作家。一九五九年大阪生まれ。聖心女子大学在学中の八〇年、第六回SFマガジン・コンテストで、「一人で歩いていった猫」が佳作入選、デビュー。「ハイブリッド・チャイルド」「吸血鬼エフエメラ」(早川書房)など著作多数。「戦争を演じた神々たち」(アスペクト)で第十五回日本SF大賞受賞。



11人いる！

宇宙大学最終試験。1組10人の宇宙船に11人いた

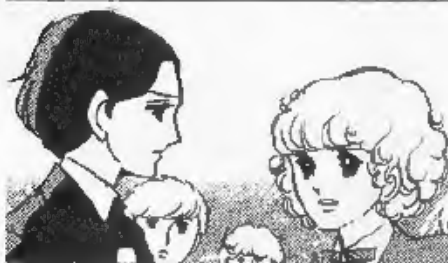
●収録作品 11人いる！／続・11人いる！ 東の地平
西の永遠／スペースストリート★エッセイ：中島らも



スター・レッド

第5世代の火星、真紅の瞳のレッド・星。だが、
彼女が火星に帰った時、大いなる厄災が始まった

★エッセイ：小谷真理



トーマの心臓

冬の終わりのその朝、1人の少年が死んだ。ギム
ナジウムの少年たちに投げかけられた愛と恩寵！

★エッセイ：大原まり子



訪問者

『トーマの心臓』番外編の表題作など珠玉の4編

●収録作品 訪問者／城／エッグ・スタンド／天使の擬態
★エッセイ：折原みつ



11月のギムナジウム

『トーマの心臓』の原点を含む初期傑作集

●収録作品 11月のギムナジウム／秋の旅／塔のある家／
もうひとつの恋／かわいそうなママ／白き森白き少年の
笛／セーラ・ヒルの聖夜 ★エッセイ：羽仁未央



●全巻絶賛発売中!!●

ゴールデンライラック

空に飛行機、地に戦争。ヴィーとビリーの恋

●収録作品 ゴールデンライラック／ぼらの花びん／マリーヌ ★エッセイ：桑原知子



半 神

1つの身体の子供姉妹…衝撃の問題作

●収録作品 半神／ラーギニー／スロー・ダウン／酔夢／ハーバル・ビューティ／偽王／温室／左ききのイザン／真夏の夜の惑星／金曜の夜の集会 ★エッセイ：佐藤麻子



とってもしあわせ モトちゃん

オリーブ色で空を飛ぶ不思議な生きものモトちゃんのファンタジー ★エッセイ：松本 隆



恐るべき子どもたち

ジャン・コクトーの原作をコミック化。
萩尾望都が描くアンファン・テリブル！

★エッセイ：天野喜孝



ウは宇宙船のウ

少年たちはロケットに乗って大宇宙を夢みる

●収録作品 ウは宇宙船のウ／泣きさけぶ女の人／霧笛／みずうみ／ぼくの地下室へおいで／集会／びっくり箱／宇宙船乗組員 ★エッセイ：谷村志穂



小学館文庫で読む 萩尾望都

ル



小学館文庫

トーマの心臓

1995年9月1日初版第1刷発行（検印廃止）

1999年1月1日 第13刷発行

著 者 ————— 萩尾望都
©Moto Hagio 1995

発行者 ————— 武居俊樹

印刷所 ————— 図書印刷株式会社

発行所 ————— 株式会社 小学館

101-8001 東京都千代田区一ツ橋 2-3-1

紙装（B5判 1-200）

TEL 販売 03-3230-5749

編集 03-3230-5456

●定本にはじょうぶに注意しておりますが、万が一落丁・風丁などの不良品がありましたら、「制作部」までにお送りください。送料小社負担にて、おとりかえいたします。
制作部 TEL 0120-336-082

●本書の一部または全部を無断で複製、転載、上演、放送などを行うことは、法律で認められた場合を除き、著作権及び出版者の権利の侵害となります。あらかじめ小社まで訴求をお求めください。

図本書の一部または全部を無断で複写（コピー）することは、著作権法上の例外を除いて禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写センター（TEL 03-3401-2382）にご連絡ください。 ISBN 4-09-191013-0